

STAR

自走ヘーベータ

取扱説明書・部品表

製品コード

K93103

型

式

JTB1000

部品供給型式

JTB1000-02

- ・ 部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡下さい。
- ・ 補用部品の一部には、まとめ・セット販売のみの部品があります。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社

▲ 安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、▲印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

▲ 危険

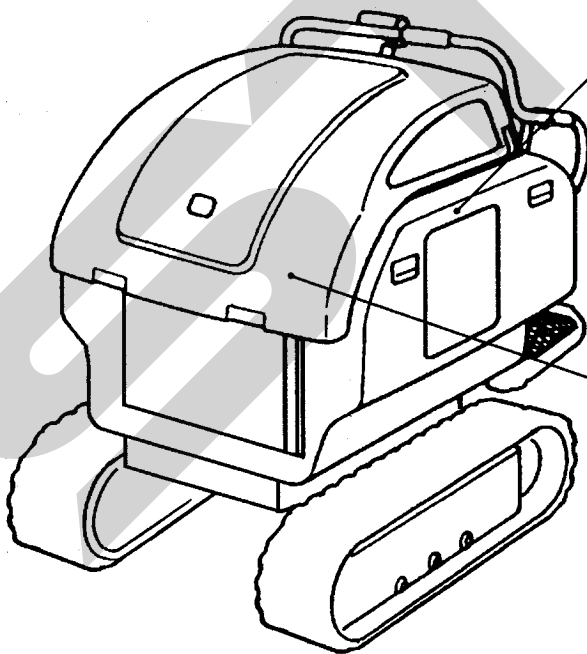
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

▲ 警告

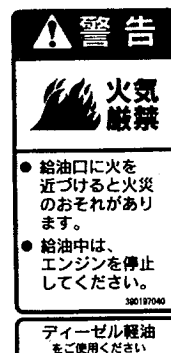
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

▲ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



(サイドカバー内)
部品番号 EG3901610



(ボンネット内燃料タンク上部)
部品番号 EG390197040

⚠ 注意 けん引ロープ掛け禁止
機体を破損するおそれがあります。
部品番号 EG39019768

⚠ 注意 マフラー高温注意
まわりを歩かずおそれがあります。
(サイドカバー内)
部品番号 EG39019609

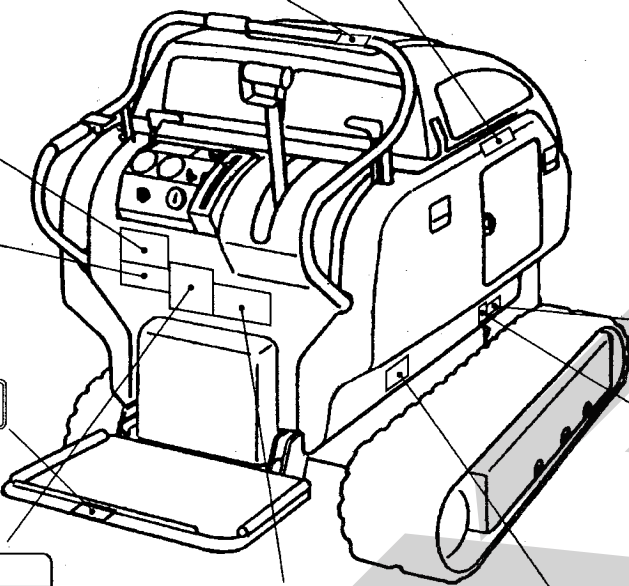
⚠ 警告
● 運転者は安全スイッチのヒモを、運転席に掛へず
解除してはいけません。
● スイッチのヒモは運転者がステップから降りた時、
キャップが外れるように調整してください。
もし解除しなかつたり、ヒモを解除していないと、燃料
ステップが外れたり、燃焼室が熱い、エンジンが停止し
ます。重大事故になるおそれがあります。

部品番号 EG39019773

⚠ 警告
燃料タンク禁止
● 燃料タンクの取扱いは説明書の指示に従って使用期限は
10年を超えてはいけません。
● 燃料タンクは10年を超えても定期的に点検し、必要に応じて
交換してください。

部品番号 EG39019858

⚠ 注意 けん引ロープ掛け禁止
機体を破損するおそれがあります。
部品番号 EG39019768



⚠ 注意
エンジンやベルト駆動の回転部分や火災の発生す
るおそれがある場所は警告表示して事故や怪我等
が起るおそれがある場合は清掃してください。
火災発生の原因となることがあります。

部品番号 EG39019694

⚠ 警告
● 手や衣服が巻き込まれる
おそれがあります。
● エンジンが回転している
部分には近づかないでくだ
さい。
● ベルト、プーリー、ワッ
プル等の回転部分には衣服を
触れないでください。

部品番号 EG39019701

⚠ 警告
加圧油漏れおよび高圧油の噴射は高圧高熱の油に注意してください。
1. 加圧油漏れや噴射を防止するためエンジン停止してから作業してください。
2. 漏れ止めパッキンが劣化している場合は交換してください。
3. 漏れ止めパッキンが劣化している場合は交換してください。
4. 漏れ止めパッキンが劣化している場合は交換してください。
5. 漏れ止めパッキンが劣化している場合は交換してください。

部品番号 EG39019699

⚠ 警告
排ガスに注意
室内および換気の悪い
場所での運転は排ガス
が有害です。

部品番号 EG39019611

⚠ 警告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、
理解して正しく取扱いください。
● エンジンが回転している間に作業用レバーが作動しないことを確認してください。
● エンジンが回転している間に作業用レバーを操作するときは必ず足で踏み込んで
ロックを解除してください。
● エンジンが回転している間に作業用レバーを操作するときは必ず足で踏み込んで
ロックを解除してください。
● エンジンが回転している間に作業用レバーを操作するときは必ず足で踏み込んで
ロックを解除してください。

公道走行禁止
部品番号 EG39019828

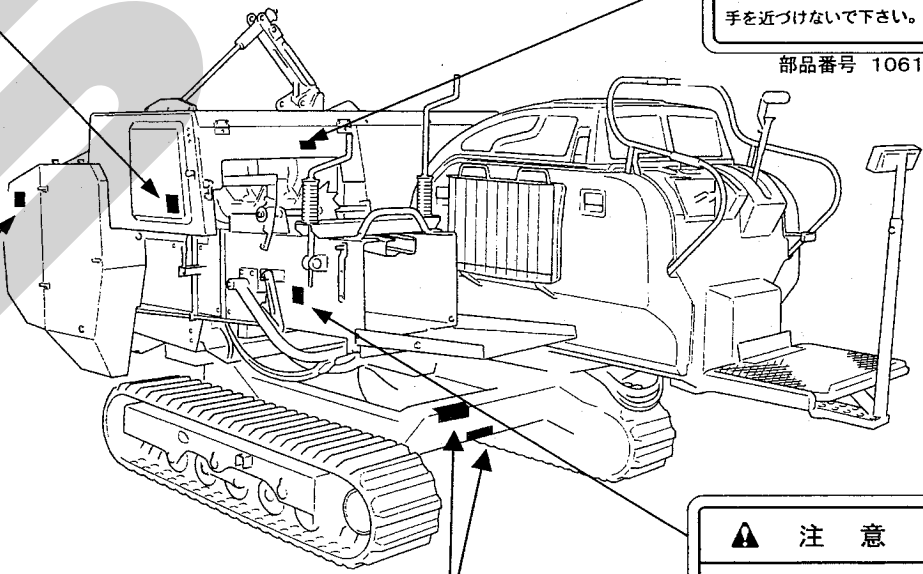
⚠ 注意
運転中又は回転中、カバーを
開けると回転物に巻き込まれ、
ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。
部品番号 106171

⚠ 注意
運転中又は回転中、ノック部
に接触すると巻き込まれ、ケ
ガをする事があります。
手を近づけないで下さい。
部品番号 106174

⚠ 注意
運転中又は回転中、カバーを
開けると回転物に巻き込まれ、
ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。
部品番号 106172

⚠ 注意 けん引ロープ掛け禁止
機体を破損するおそれがあります。
部品番号 EG39019768

⚠ 注意
運転中又は回転中、ニードル
およびニードルヨークに接触
すると挟まれ、ケガをする事
があります。
作動範囲には、手足を入らな
いで下さい。
部品番号 106173



⚠ 危険



運転中又は回転中、ピックアップおよびフィードフォークに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。


周囲に人を近づけないで下さい。

ガードを越えての手供給は、危険です。止めて下さい。

ピックアップやフィードフォークに草が詰まった時は、必ずPTOおよびエンジンを切ってから除去して下さい。

部品番号 106165

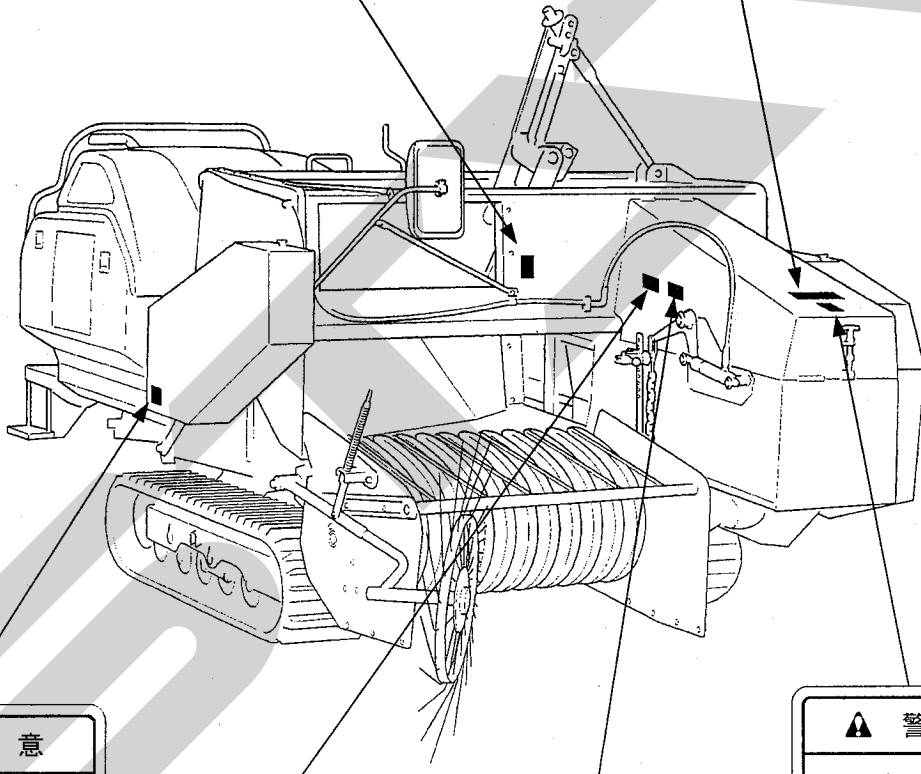
⚠ 注意




本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。

1. 作業に慣れた、だぶつきのない服装で行って下さい。
2. 酒を飲んだとき、疲労感、病気や怪傷しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力減速や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。

部品番号 106164



⚠ 注意



運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。

カバーを開けないで下さい。

部品番号 106172

⚠ 警告

ナイフを調整する時、不意にプランジャーが動き、ケガをする事があります。

プランジャーを動かないように固定して下さい。

部品番号 106168

⚠ 警告

フォークのタイミングを調整する時、不意に回転し手が巻き込まれ、ケガをする事があります。

フォークを動かないように固定して下さい。

部品番号 106167

⚠ 警告



運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。

カバーを開けないで下さい。

部品番号 106166

— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大切なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてから行ってください。

一般的な注意項目

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると、思わぬ事故を起こしケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

□ズボンや上着はだぶつきのないものを着用する。

□ヘルメットを着用する。

□はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

排気ガスには充分注意する

▲警告

- 締め切った屋内などでエンジンを始動させると、排気ガスによる中毒を起こし、死亡又は重大な傷害に至るおそれがあります。エンジンは風通しのよい屋内で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

安全スイッチを必ず装着する

▲警告

- 安全スイッチを装着しないと、転落・転倒事故を起こした場合に、死亡又は重傷を負うおそれがあります。機械を運転する場合は、必ず安全スイッチのヒモを体の一部に装着させてください。スイッチのヒモは運転者がステップから降りた時、キャップが外れるように長さを調節してください。

機械を他人に貸す時は

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

運転者以外に人を乗せない

▲警告

- 運転者以外に人を乗せると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

エンジン始動時は必ずステップに乗り周囲の安全を確認する

▲警告

- エンジン始動時に、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。エンジン始動時は必ずステップに乗り、周囲の安全を確認してください。

マフラの高温に注意

▲注意

- マフラに触れるとヤケドをするおそれがあります。運転中及びエンジン停止直後のマフラは高温ですので、触れないでください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは必ず当社指定製製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検・整備の励行

▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特にVベルトはキズなどないか、点検・整備をしてください。

作業前後の確認時の注意事項

バッテリー点検時は火気厳禁

▲危険

- バッテリーに火気を近づけると、引火、爆発してヤケドなどを引き起こすおそれがあります。バッテリーの点検・充電時は火気を近づけないでください。

注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

▲警告

- エンジンが熱を持った状態で注油・給油すると、燃料などに引火して、ヤケドや火災をおこすおそれがあります。エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください

燃料補給時は火気厳禁

▲警告

- 給油口に火気を近づけると、燃料に引火し、火災になる事があります。燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

バッテリー液は体につけないようにする

▲警告

- バッテリー液が身体に付着すると、ヤケドをしたり服が破れるおそれがあります。バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。万一付着した時は、すぐに水で洗い流し専門医の診断を受けてください

燃料もれに注意

▲警告

- 燃料パイプが破損していると、もれた燃料が引火し、火災事故を引き起こすおそれがあります。燃料パイプは必ず点検してください。

燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふきとる

▲警告

- 燃料を補給する際、こぼれた燃料が引火し、火災事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給した時は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

点検整備は平坦で安定した場所で行なう

▲警告

- 点検整備の際、機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で行ってください。

マフラー・エンジンまわりのゴミは取り除く

▲警告

- 草・枯葉・燃料などが原因で、火災事故を引き起こすおそれがあります。マフラーやエンジン周辺部Vベルト等回転部に、草・枯葉・燃料などが付着していないか毎日作業前に点検し、付着したり堆積しているときはきれいに取り除いてください。

電気部品・コードを必ず点検

▲警告

- 電気部品・コードがショートして、火災事故をおこすおそれがあります。配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

操作レバー類は必ず点検する

▲警告

- 操作レバーに問題があった場合、正常な走行ができず事故を引き起こしたり、機械を破損させる原因になります。走行レバーや、その他のレバー類に著しいガタや遊びがないか、また草、枯葉、粉塵等のつまりによる操作系の障害がないか点検してください。

点検整備中はエンジン停止

▲警告

- 点検・整備をする時エンジンをとめずに行くと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備・修理または掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。

カバー類は必ず取り付ける

▲警告

- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

バッテリーの取付・取外しは正しい手順で行なう

▲注意

- バッテリーのショート等で、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。バッテリーを取り付ける時は+側を先に取り付け、取り外す時は-側から取り外します。

クローラの摩耗を点検する

▲注意

- クローラの摩耗は、横滑りや転倒事故の原因になります。クローラが著しく摩耗していたり、キズがついていないか確認してください。

点検整備は過熱部分が充分冷めてから行なう

▲注意

- 点検整備の際、ヤケドをするおそれがあります。マフラやエンジンなどの過熱部分が充分に冷めてから行ってください。

高圧オイルに注意

▲注意

- 油圧の継手やホースに、緩みや損傷があると飛び出る高圧オイルで傷害事故を引き起こすおそれがあります。油圧の継手やホースに緩みや損傷がないか常に確認し、損傷があった場合は、補修もしくは部品交換してください。継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

目的に合った工具を正しく使用する

▲注意

- 整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。

運搬時の注意事項

トラックへの積み込み時、長さ・強度・幅の充分あるアユミ板を使用する

▲警告

- 適切なアユミ板を使用しないと、折れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準に合ったものを使用してください。

トラックへの積み込み時、アユミ板の平行を確認する

▲警告

- 確認を怠ると、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を起こすことがあります。アユミ板の平行や安定は必ず確認してください。

アユミ板の上では、進路変更禁止

▲注意

- バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。アユミ板の上での進路変更はしないでください。

登る時は前進、降りる時は後進で行なう

▲警告

- バランスがくずれて、転倒などの事故を引き起こすおそれがあります。トラックに積み込むときは前進で、降りるときは後進で行ってください。

ロープでトラックに確実に固定する

▲警告

- 固定しないと、荷台から機体が転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。トラックにのせて移動するときは、作業機を下げた強度の充分あるロープでトラックに機体を固定してください。

移動・ほ場出し入れ時の注意事項

一般道路走行禁止

▲警告

- 本機は、ほ場内作業機です。公道での乗車運行はできません。乗車運行した場合は道路交通法に違反します。一般道路を移動する時は、トラックなどで運んでください。

周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

▲警告

- 急発進すると事故をおこすことがあります。周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

移動時は路肩に注意

▲警告

- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると、転落事故を起こすことがあります。路肩は走行しないでください。

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ注意

▲警告

- 急発進、急停止、急旋回を行うと、運転者が振り飛ばされたり、周囲の人を巻き込んだり、その他転倒・転落事故や機械の破損などをおこすおそれがあります。発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、傾斜地や凹凸のある所では速度を落とすようにゆっくり移動してください。

畦を越える時は低速で畦に直角に行なう

▲注意

- 畦を越える時、機械が転倒し、傷害事故を起こすおそれがあります。畦越えは低速で畦に直角に行ってください。高い畦を越える時は、アユミ板などを使用してください。

他に人を乗せない

▲注意

- 機械に巻き込まれるなどの思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。作業中および走行中は、機械に人を乗せたり近づけたりしないでください。

作業時の注意項目

安全スイッチを必ず装着する

▲警告

- 安全スイッチを装着しないと、転落・転倒事故を起こした場合に、死亡又は重傷を負うおそれがあります。機械を運転する場合は、必ず安全スイッチのヒモを体の一部に装着させてください。スイッチのヒモは運転者がステップから降りた時、キャップが外れるように長さを調節してください。

周囲に人やペットを近づけない

▲警告

- 作業する時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故を引き起こすおそれがあります。周囲に人、特に子供やペットを近づけないようにしてください。近づいたら直ちに作業を中止してください。

異常な振動が出たら、直ちに点検・修理を行なう

▲警告

- 異常な振動が出たまま作業を続けると、事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べて、修理してください。

作業時はピックアップおよびフィードフォークに人を近づけない

▲危険

- 運転中又は回転中、ピックアップおよびフィードフォークに接触すると巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。周囲に人を近づけないでください。

ガードを越えての草の手供給はしない

▲危険

- 草を手供給すると機械に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。手供給は危険ですのでしないでください。

草が詰まった時は、エンジンを停止する

▲危険

- エンジンを止めずに草の除去を行うと、機械に巻き込まれ事故・ケガをするおそれがあります。ピックアップやフィードフォークに草が詰まった時は、必ずエンジンを停止して、作業機が完全に停止してから草を除去してください。

作業中にカバーを開閉しない

▲警告

- 運転中または回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれるなどの事故・ケガをするおそれがあります。カバーの開閉は、エンジンを停止して、作業機が完全に停止してから行ってください。

作業時はニードルおよびニードルヨークに手を入れない

▲注意

- 運転中または回転中、ニードルおよびニードルヨークに接触すると挟まれ、ケガをすることがあります。作動範囲には、手足を入れないでください。

作業時はノッタ部に手を近づけない

▲注意

- 運転中または回転中、ノッタ部に接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。手を近づけないでください。

機械の調整、付着物を除去する時はエンジンを停止する

▲注意

- エンジンを止めずに行うと、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすおそれがあります。必ずエンジンを停止して、作業機が完全に停止してから行ってください。

他に人を乗せない

▲注意

- 機械に巻き込まれるなどの思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。作業中および走行中は、機械に人を乗せたり近づけたりしないでください。

傾斜地での作業禁止

▲警告

- 傾斜地での旋回は、転倒・転落事故や機械の破損などを起こすおそれがあります。傾斜地での作業限界は10度以内としてください。地表条件では更に少なくなります。傾斜角10度以内であっても急停止は危険ですので、作業速度は押さえて低速で作業を行ってください。

作業機の下にもぐったり、足を入れない

▲警告

- 作業機が不意に降下し、傷害事故を起こすおそれがあります。下に入る時は、台などで落下防止を行ってください。

機械から離れる時は平坦地に置き、エンジンを停止する

▲警告

- 不意に作業機が動き出し、事故を起こすおそれがあります。機械から離れる時には、平坦で安定した場所に置き、エンジンをとめて、必ず作業機は地面に接地してください。

わき見運転はしない

▲警告

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

手放し運転はしない

▲警告

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。しっかりとハンドルを握って運転してください。

運転レバーはゆっくり操作する

▲警告

- 運転者が振り飛ばされたり、周囲の人を巻き込むなど事故・ケガをまねくおそれがあります。運転レバーを急激に倒したり、戻したりしないでください。

フォークの調整はフォークを固定して行なう

▲警告

- フォークのタイミングを調整する時、不意に回転し手が巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。フォークを動かないように固定して行ってください。

プランジナイフの調整はプランジヤを固定して行なう

▲警告

- ナイフを調整する時、不意にプランジヤが動き、ケガをすることがあります。プランジヤを動かないように固定して行ってください。

作業終了後・格納時の注意事項

機体を清掃する時はエンジンを停止する

▲注意

- エンジンを切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。エンジンを停止して、作業機が完全に停止してから行ってください。

終業点検の励行

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

▲警告

- エンジンが熱を持った状態で注油・給油すると、燃料などに引火して、ヤケドや火災をおこすおそれがあります。エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

ラジエータが熱いときはキャップを開けない

▲危険

- エンジン運転中や停止した直後などにキャップを開けると、熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。ラジエータ液の温度が高いときは、絶対にラジエータキャップを開けないでください。

シートは機械が充分冷めてからかける

▲警告

- 機械が熱をもった状態でシートをかけると、火災事故を引き起こすおそれがあります。マフラーやエンジンなどが充分冷えてからかけてください。

点検整備は平坦で安定した場所で行なう

▲警告

- 点検整備の際、機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で行ってください。

高圧オイルに注意

▲注意

- 油圧の継手やホースに、緩みや損傷があると飛び出る高圧オイルで傷害事故を引き起こすおそれがあります。油圧の継手やホースに緩みや損傷がないか常に確認し、損傷があった場合は、補修もしくは部品交換してください。継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

マフラー・エンジンまわりのゴミは取り除く

▲警告

- 草・枯葉・燃料などが原因で、火災事故を引き起こすおそれがあります。マフラーやエンジン周辺部Vベルト等回転部に、草・枯葉・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検し、付着したり堆積しているときはきれいに取り除いてください。

電気部品・コードを必ず点検

▲警告

- 電気部品・コードがショートして、火災事故をおこすおそれがあります。配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

長期格納時はバッテリーとキーを外す

▲警告

- 思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。長期間使用しないで格納する場合はバッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行なう

▲注意

- バッテリーのショート等で、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。バッテリーを取り付ける時は+側を先に取り付け、取り外す時は-側から取り外します。

点検整備中はエンジン停止

▲警告

- 点検・整備をする時エンジンをとめずに行くと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。

カバー類は必ず取り付ける

▲警告

- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

点検整備は過熱部分が充分冷めてから行なう

▲注意

- 点検整備の際、ヤケドをするおそれがあります。マフラやエンジンなどの過熱部分が充分に冷めてから行ってください

バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない

▲警告

- バッテリー液が「下限」以下になると、容器内の極板留めがバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

もくじ

▲ 安全に作業するために

安全に関する警告について	1	移動・ほ場出し入れ時の注意項目	7
一般的な注意項目	4	作業時の注意項目	7
作業前後の確認時の注意項目	5	作業終了後・格納時の注意項目	9
運搬時の注意項目	6		

1 運転をはじめる前に

1 各部の名称とはたらき	15	1. 解 梱	21
1. 走行部	15	2. 組立部品の明細	21
2. 作業部	19	3. 組 立	21
2 組 立 部 品	21	3 トワインの通し方	22
		4 ライトの点灯・消灯のし方	23

2 運転を始める前の点検

1 運 転 前 の 点 検	24	2 エンジン始動での点検	26
1. 前日の異常箇所	24	3 オイル, グリス, 不凍液について	26
2. 機械のまわりを回ってみて	24	4 給油・給水箇所一覧表	26
3. ボンネットを開けてみて	24	1. 走行部	26
4. ベーラ側へ回ってみて	25	2. 作業部	27
5. 運転席に立ってみて	25		

3 運搬のしかた

1 あゆみ板による積み込み・積降し	28	3 けん引の禁止	29
2 運 搬 の 方 法	29		

4 運転・作業のしかた

1 本製品の使用目的	30	5 ピックアップを上下させるには	34
2 作業を始める前に	30	6 発進・旋回・停止のしかた	34
3 作業のための調整	30	1. 発進のしかた	34
1. 終了の確認の方法	30	2. 旋回のしかた	34
2. 梱包密度の調整	31	3. 停止・駐車のみかた	35
3. 梱包長さの調整	31	7 作業のしかた	35
4. ピックアップ部の調整	31	1. 作業場所の下見	36
5. サイドリールの調整	32	2. ウインドロー(集草列)のつくり方	36
6. シャーボルトの交換要領	32	3. 梱包作業	36
4 エンジン始動・停止のしかた	33		
1. 始動のしかた	33		
2. 停止のしかた	34		

5 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	37	4 防塵カバーの開閉のしかた	38
2 ボンネットの開閉のしかた	37	5 防塵網の清掃のしかた	38
3 左右サイドカバーの開閉のしかた	38	6 ラジエータの清掃のしかた	38
		7 長期間使用しない場合の手入れ	39

6 ゴムクローラを取扱

1 ゴムクローラの使用上の注意	40
-----------------	----

7 点検・整備について

1 点検整備一覧表	41	14. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換	49
1. 走行部	41	15. クローラの張りの点検	49
2. 作業部	42	16. 走行モータ減速機オイルの点検・交換	50
2 各部の点検・調整	43	17. Vベルトの張りの調整	51
1. 燃料の点検・給油のしかた	43	18. ローラチェーンの張りの調整	52
2. 各部オイルの点検・交換	43	19. フォークの調整	52
3. 各部エレメントの交換	44	20. ノッタの調整	53
4. 冷却水の点検・交換	45	21. トワインフィンガーの調整	54
5. 燃料の空気（エア）抜きのしかた	46	22. ノッタブレーキの調整	55
6. エアクリーナエレメントの掃除と交換	46	23. プランジャストッパの調整	55
7. バッテリーの点検・整備	46	24. プランジャナイフとチャンバナ이프の調整	55
8. パイプ類の点検	47	25. ガイドレールの調整	56
9. 電気配線の点検	47	26. ニードルの調整	56
10. ファンベルトの点検・調整	47	27. トリップアームの調整	56
11. エアフィルタの点検・掃除	47	28. タイミングの調整	56
12. ラジエータ・オイルクーラー部の掃除	48	(1) プランジャとフォークのタイミング	56
13. 運転レバーの点検	48	(2) プランジャとニードルのタイミング	57

8 不調時の対応

1 不調処置一覧表	58
1. 走行部	58
2. 作業部	61

9 主な消耗部品65

10 標準付属品66

11 別売の取扱いについて67

12 仕 様.....68

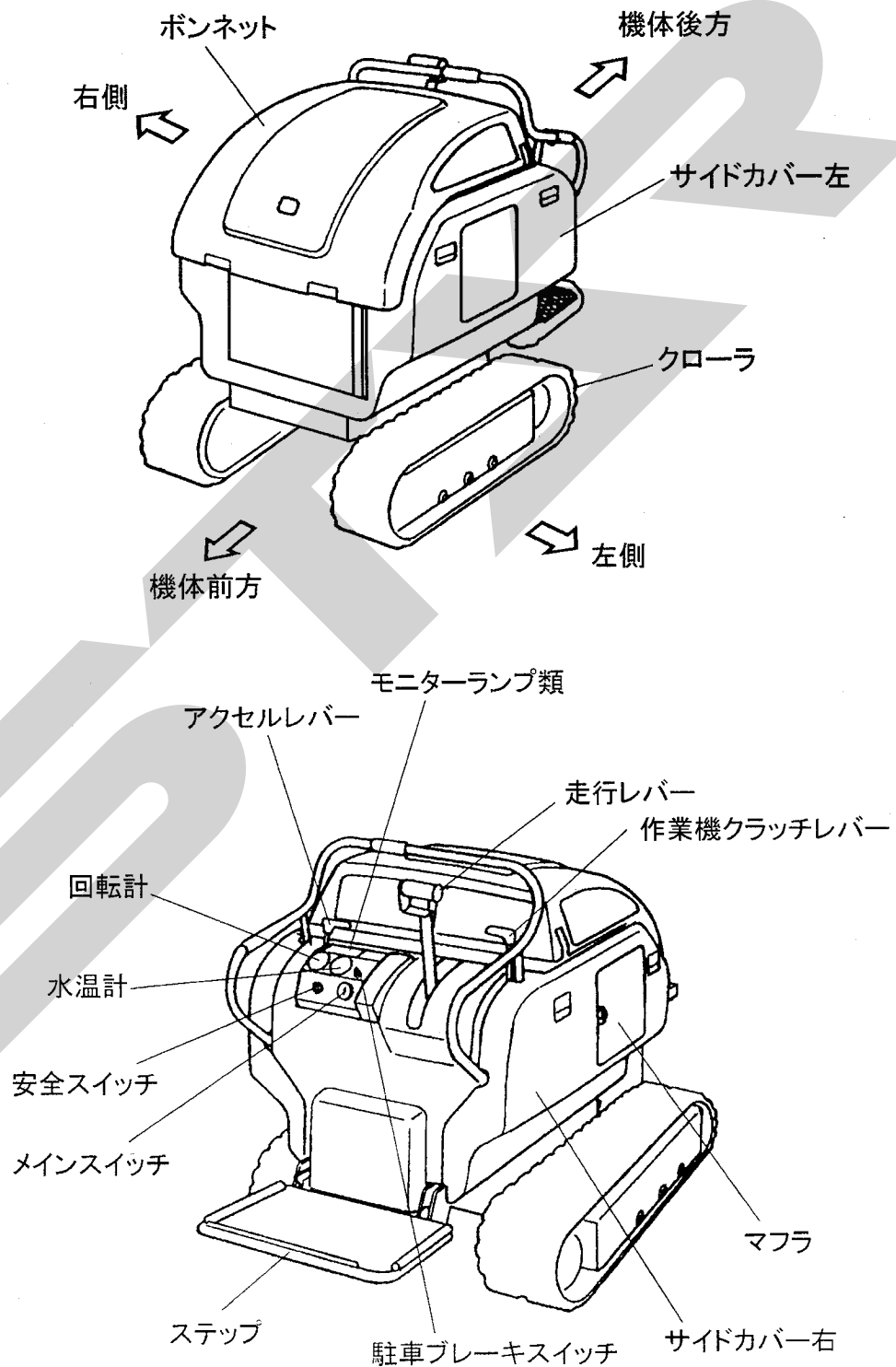
13 配線図69

14 部品表71

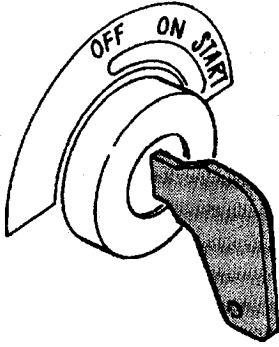
1 運転を始める前に

1 各部の名称とはたらき

1. 走行部



(1) メインスイッチ



▲ 注意

- 機械を使用しないときは必ずキーを抜いて、全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

エンジンの始動に使用します。

① 「OFF」

エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

② 「ON」

各電装品スイッチに電流が流れます。エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプ、チャージパイロットランプ、HST警告ランプ、グローランプが点灯します。また駐車ブレーキスイッチが「ロック」の位置にあると点灯します。

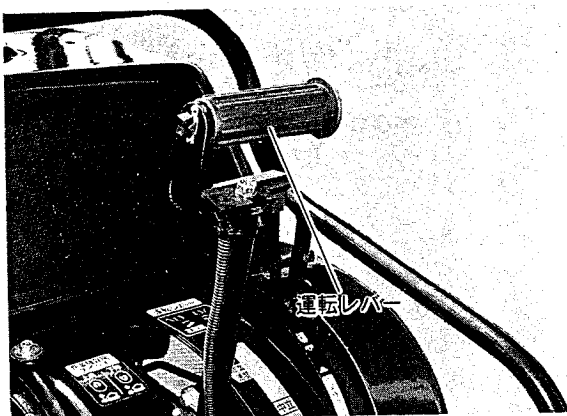
③ 「START」

セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。エンジンが始動するとパイロットランプは消灯します。

(2) アクセルレバー

エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。レバーを手前へ引くと、エンジン回転が高くなります。レバーを前へ押し、エンジン回転が低くなります。

(3) 運転レバー (走行レバー)



車両の前進、後進、停止、旋回はこのレバーで行います。

運転レバーが中立の位置では車両は停止しています。中立位置からレバーを前に押すことにより、前進、後ろに引くことにより後進します。

このレバーの動いた量により速度が速くなったり遅くなったりします。

中立位置からレバーを時計方向にひねることにより右旋回、反時計方向にひねることにより左旋回をします。ひねる角度の量により速度が速くなったり遅くなったりします。

平坦地においてレバーから手を離すと、レバーは自動的に中立位置に戻り車両は停止します。

▲ 警告

- 上り・下り勾配がきつい場所 (約10°以上) では運転レバーから手を離しても車両は停止しません。危険防止のため、斜面運転時は絶対に運転レバーから手を離さないでください。

(4) 駐車ブレーキスイッチ

スイッチが「ロック」の位置にあるとパイロットランプが点灯して駐車ブレーキが作動しています。

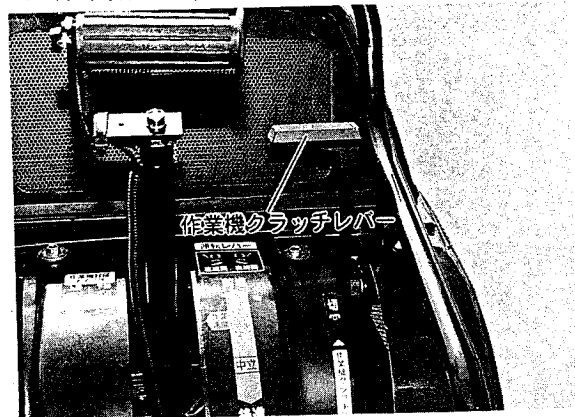
「解除」の位置にあるとパイロットランプは消灯します。

駐車ブレーキスイッチが「解除」の位置にあるとエンジンは始動しません。エンジン始動時は、「ロック」の位置になっているか確認してください。

▲ 注意

- 車両を停車、駐車する際に必ず駐車ブレーキをかけてください
- 車両を走行する場合は、必ず解除位置にしてください。

(5) 作業機クラッチレバー



ピックアップドライブに回転を伝達しピックアップを回転します。

作業機クラッチレバーを「入」にするとピックアップが回転します。作業機クラッチレバーを「切」にするとクラッチが切れ、ピックアップの回転が停止します。ピックアップ側の慣性が大いいため、すぐには止まりませんので配慮が必要です。

作業機クラッチはベルトテンション式です。クラッチを「入」にするときはゆっくり下げて半クラッチの状態にし、ピックアップが安定した回転になったら完全にレバーを下げてください。

取扱い上の注意

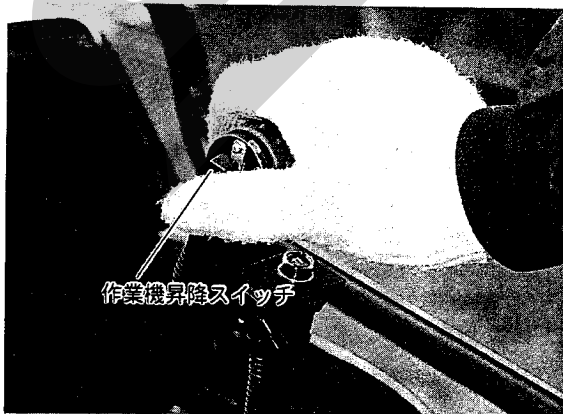
このレバーが「切」の位置にないと安全装置が働いてエンジンは始動できません。

警告

- 作業時以外は、必ず作業機クラッチレバーを「切」にしてください。
作業機を回転させたままでの移動は、周囲への危険が伴う場合がありますので行わないでください
- 作業機は、作業機クラッチレバーを「切」にしてもすぐには止まりません。
停止するまで少し時間がかかりますので完全に停止するまで作業機内に手を入れたり、物を入れたりしないでください。

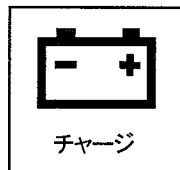
(6) 作業機昇降スイッチ

ピックアップの上昇・下降をこのスイッチで行えます。スイッチの上側を押すとピックアップは上昇します。スイッチの下側を押すとピックアップは下降します。スイッチを操作しないと、ピックアップは、その高さを保ちます。エンジン回転により上昇するスピードが異なります。回転が高いほど速く上昇します。



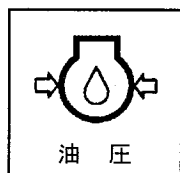
(7) 電装関係

① チャージランプ



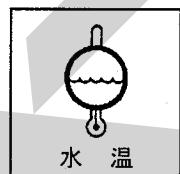
メインスイッチを「ON」位置にするとランプが点灯し、エンジン始動後、エンジン回転が上がり充電し始めるとランプは消えます。

② エンジン油圧パイロットランプ



メインスイッチを「ON」位置にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に油圧ランプが点灯するときは、潤滑油圧回路に異常が発生したからです。すぐにエンジンを停止して点検してください。

③ エンジン水温警告ランプ

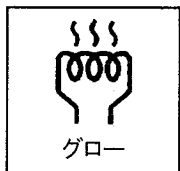


メインスイッチを「ON」位置にしても点灯しません。運転作業中にエンジンがオーバーヒートすると点灯します。点灯と同時にホーンが鳴ります。

運転中点灯したときは、エンジンをアイドルングにして、ダクトフィルタの清掃を行い、エンジンが充分冷えてから、冷却水などの点検を行ってください。

- ランプ点灯と同時にホーンが鳴ります。

④ グローランプ



メインスイッチを「ON」位置にすると、点灯してヒータに通電したことを示します。ランプが消えてから(自動的に消える)メインスイッチを「START」位置に回し、エンジンを始動します。

⑤ 駐車ブレーキランプ



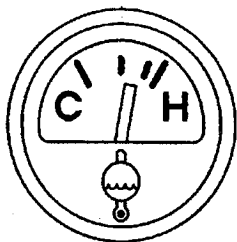
ブレーキスイッチが「ロック」の位置にすると点灯します。ランプ点灯中はブレーキが自動的に作動しています。ブレーキを解除する場合はスイッチを「解除」位置にしてください。ランプは消灯します。

⑥ HST油圧警告ランプ



メインスイッチを「ON」位置にすると点灯します。エンジン始動後、エンジン回転が上がるとランプは消えます。エンジン回転を上げてもランプが点灯する時は油圧回路に異常があります。すぐにエンジンを停止して点検してください。

⑦ 水温計



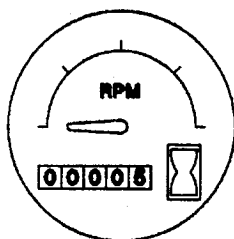
運転中冷却水温を指針で示します。針が「H」区域位置を示した場合は、作業を中断してエンジンを点検してください。

⑩ ホーンスイッチ



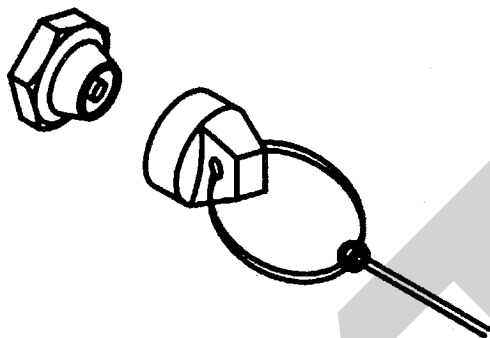
メインスイッチを「ON」位置にしてホーンスイッチを押すと、ホーンが鳴ります。

⑧ エンジン回転計／積算時間計



回転計はエンジン回転を指針で示します。積算時間計は、機械の使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間になります。

⑨ 安全スイッチ



ヒモの先端についているキャップが抜けると機械が停止（エンジンが止まる）します。運転する前にヒモを体に装着してください。非常時に体が機械から離れるとキャップが外れ機械が止まります。

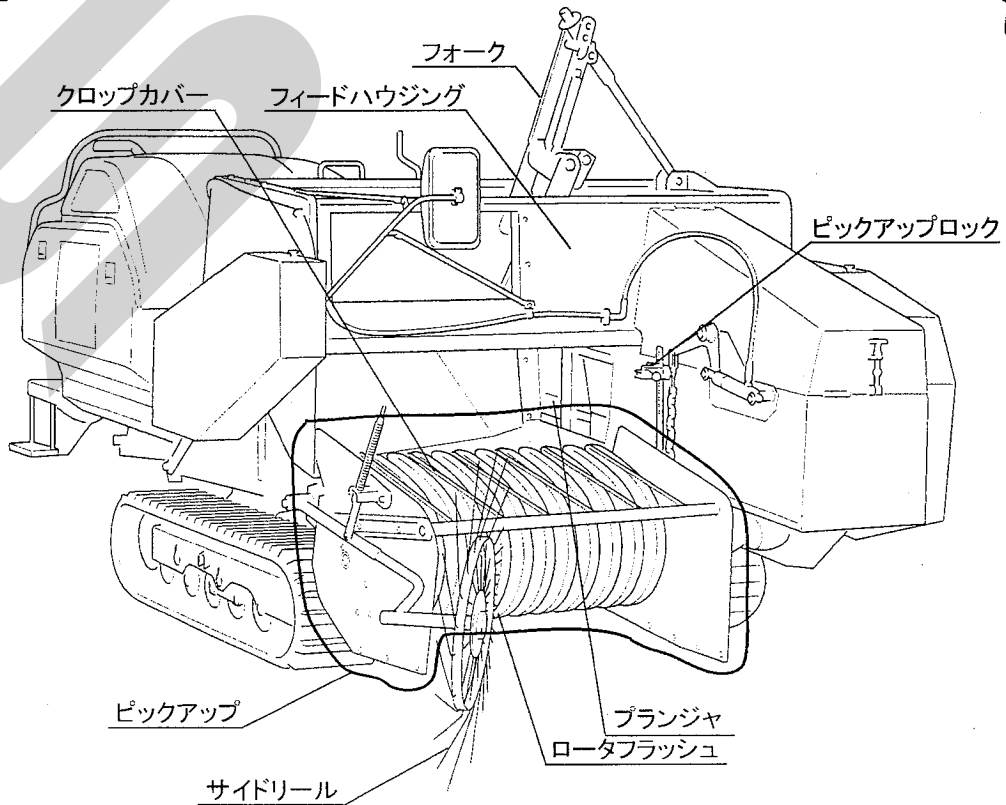
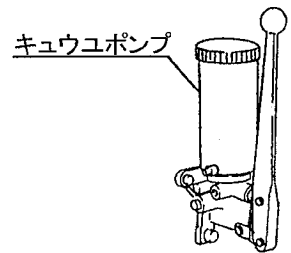
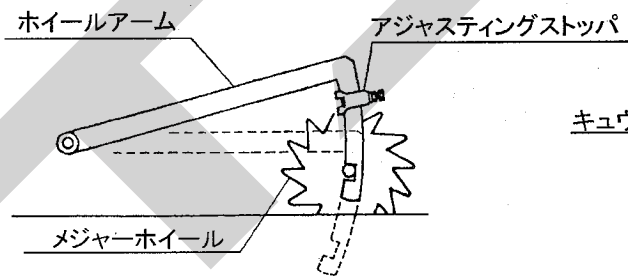
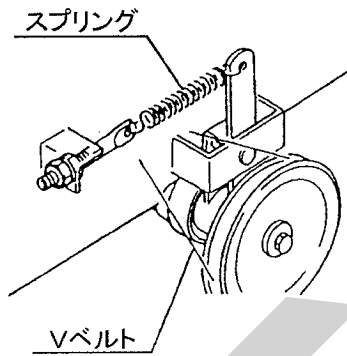
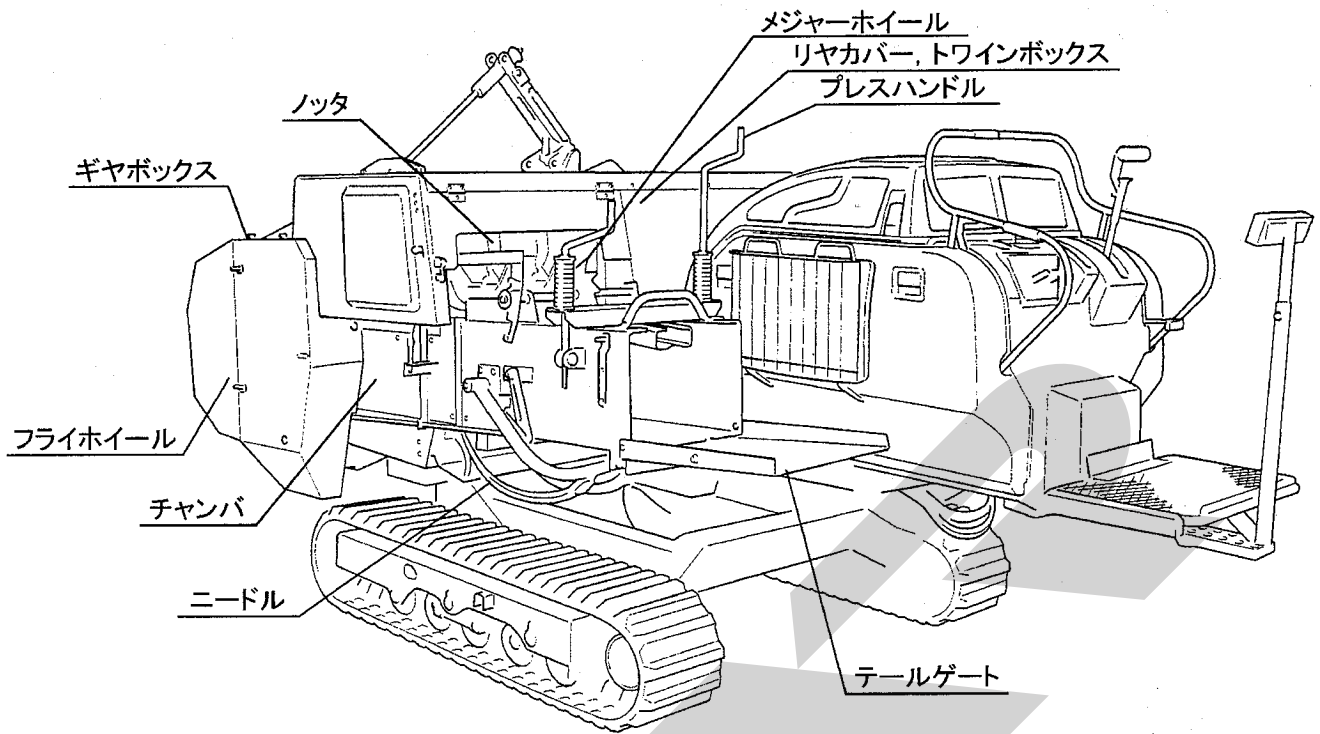
取扱い上の注意

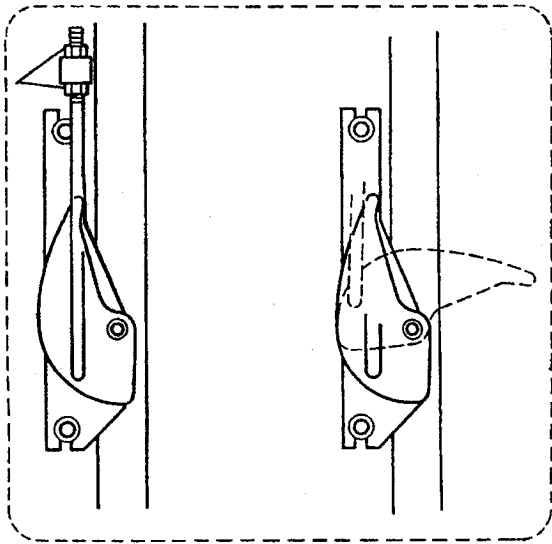
キャップが外れた状態だと安全装置が働いてエンジンは始動できません。

▲ 警告

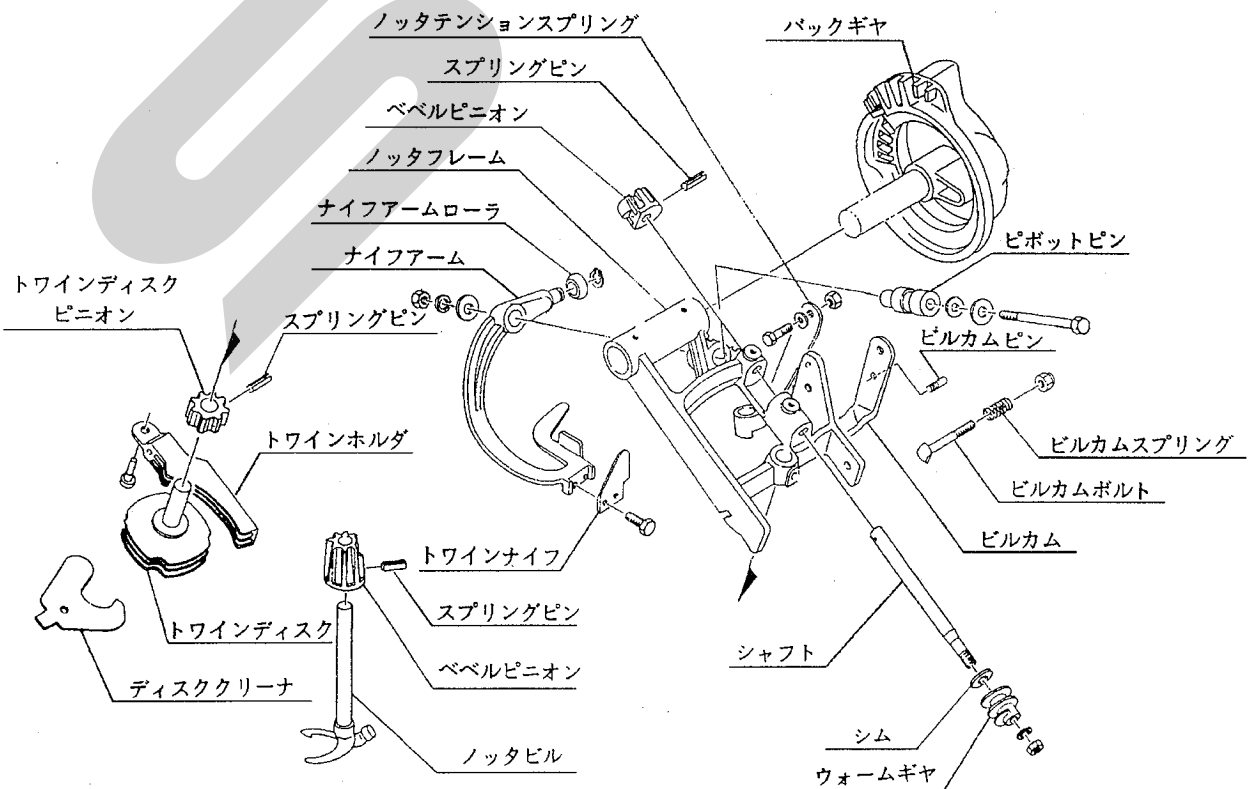
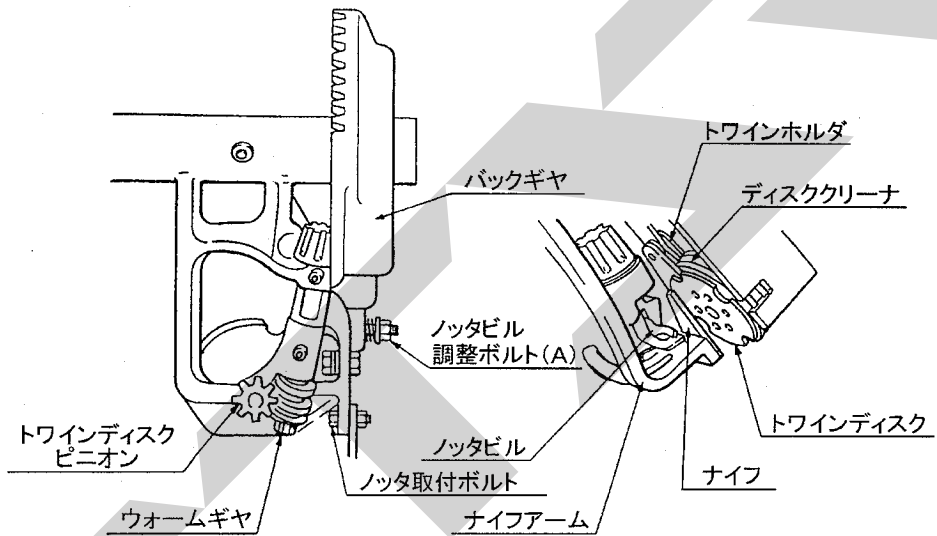
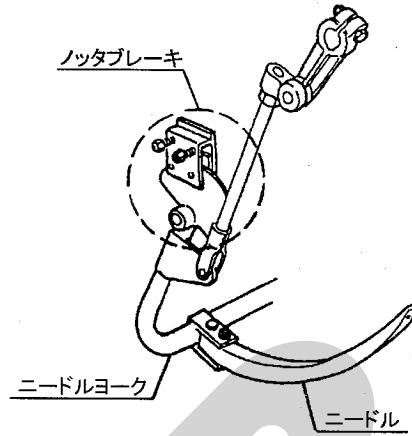
- 機械を運転する場合は、必ず安全スイッチのヒモを体の一部に装着してください
- スイッチのヒモは運転者がステップから降りた時、キャップが外れるように長さを調節してください。
- もし装着しなかったり、長さを調節していないと、緊急時ステップから降りたり、転落した時、エンジンが非常停止できず、重大事故になるおそれがあります。

2. 作業部





トワインフィンガー



- (1) **フライホイール**
回転力を高めます。
- (2) **ギヤボックス**
動力をプランジャ、フォーク、ノッタ及びピックアップの各駆動部へ伝達します。
- (3) **ピックアップ**
牧草、稲わらを拾いあげる部分です。
- (4) **ピックアップロック**
ピックアップの移動時のロック及び作業時の下限の規制をします。
- (5) **ピックアップドライブ**
多量の草を拾い上げたり、ピックアップに過大な負荷が発生した時Vベルトのテンションの作動で、Vベルトがスリップし、破損や故障を未然に防止します。
- (6) **サイドリール**
牧草、稲わらの集草列をピックアップ側に寄せます。
- (7) **フォーク**
ピックアップにより拾い上げられた牧草、稲わらをチャンバ内へ送りこみます。
- (8) **チャンバ**
牧草、稲わらをナイフで切断し圧縮し梱包をつくるところです。
- (9) **プランジャ**
チャンバ内に送りこまれた牧草、稲わらをナイフで切断し、圧縮します。
- (10) **トワインボックス**
トワインを収納しておくところ。
- (11) **メジャーホイール、ホイールアーム**
メジャーホイールが梱包によって回転しホイールアームと連動してノッタを作動させます。
- (12) **アジャスティングストッパ**
ホイールアームの取付位置をかえることにより梱包の長さをかえます。
- (13) **プレスハンドル**
梱包密度(硬さ)を調整する時に使用します。
- (14) **テールゲート**
梱包を後方に静かに置いていきます。
- (15) **キュウユポンプ**
集中給油装置のグリースを充てんしておきキュウユポンプのハンドル操作によりノッタ各部などに給油します。

- (16) **ノッタ**
トワインの結束装置です。
 - ① **ノッタビル**
結びつく目をつくる部分です。
 - ② **トワインディスク**
トワインを受け入れる部分です。
 - ③ **トワインホルダ**
トワインを保持する部分です。
 - ④ **ナイフアーム**
ノッタビルからトワインをはずす部分です。
 - ⑤ **トワインナイフ**
トワインを切断します。
- (17) **トワインフィンガー**
トワインをノッタビルに寄せる部分です。
- (18) **ノッタブレーキ**
ノッタを円滑に動かし、所定の位置に止め固定するものです。
- (19) **ニードル**
トワインで梱包を包み、トワインホルダにトワインを保持させます。
- (20) **プランジャストッパ**
ニードルの破損を防止するものです。

2 組立部品

- 1. **解 梱**
本製品に固定されている部品をほどいてください。
- 2. **梱包部品の明細**
梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品がそろっているか確認してください。
- 3. **組 立**
各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の符号を参照してください。
 - (1) サイドリールを取り付け、デルタピンで固定します。
 - (2) その他の部品は部品表を参考に取り付けてください。
 - (3) 付属品としてスパナ、シャーボルト、ナット、Sワッシャ、サイドプレート；R、Lがありますのでトワインボックスの中に保管してください。

3 トワインの通し方

▲ 注意

- 作業機クラッチレバーを「入」にしたままおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。作業クラッチレバーを「切」にして、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

取扱い上の注意

トワインはスター純正の次のものを使用してください。

サイザルトワイン	TH4500(4,500 フィート)
	TH6000(6,000 フィート)
PPTワイン	TP4500(4,500 フィート)
	TP6000(6,000 フィート)

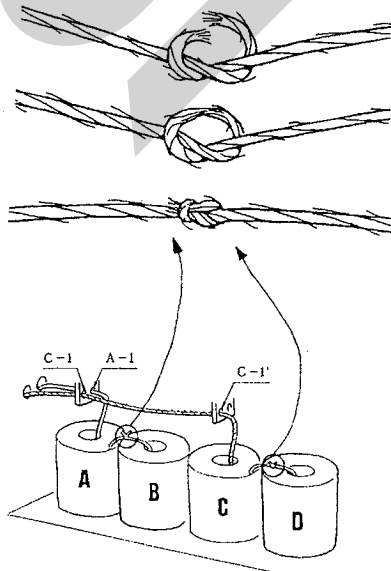
1. トワインの通し方

取扱い上の注意

トワインを収納する時及びトワインを通す時は、作業機クラッチレバーを「切」にし、エンジンをとめてから行ってください。

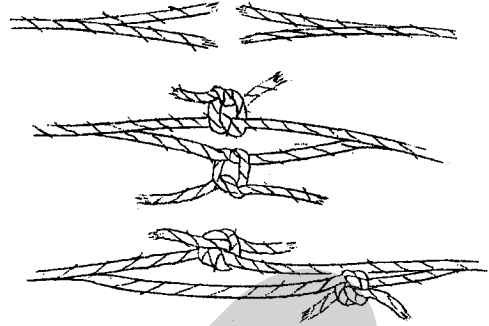
- (1) トワインを作業機のトワインボックス内に↑・上・TOP等のマークを上にして4個収納します。
- (2) トワインは、ABが1組、CDが1組となるようにAの外端とBの内端、Cの外端とDの内端を各々結び目ができるだけ小さくなるように結びます。

〈サイザルトワインの場合〉

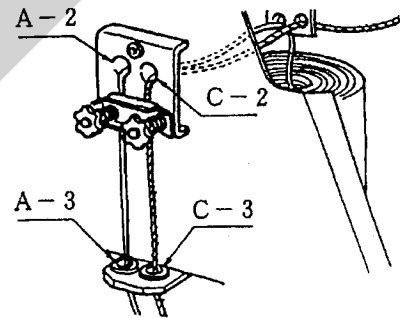


〈PPTワインの場合〉

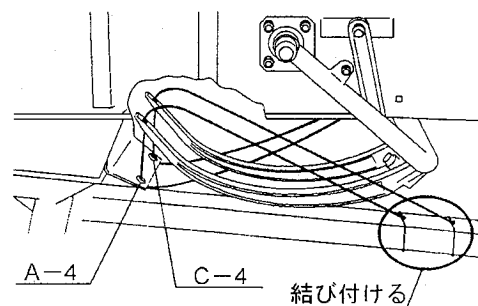
トワインを半分に裂きそれぞれの結び目がずれないように結んでください。



- (3) トワインボックスに入れたトワインのAの内側をトワインボックスのふたのすぐ上のガイドA-1の穴に通し、次にC-1の穴に通します。
- (4) Aトワインはトワインボックス上段のガイドの左側(A-2)を通しトワインテンショナを通し、更にA-3のガイドへ通します。
- (5) Cトワインはトワインボックス上段のガイドの右側(C-2)を通しトワインテンショナを通し、更にC-3のガイドへ通します。



- (6) A及びCトワインは2本まとめて、ニードルヨーク部へ交差しないように通します。
- (7) Aトワインは、走行部の角パイプの下を通し左ニードル下のガイドA-4へ通し、ニードルの穴へ通します。
- (8) Cトワインは、右ニードル下のガイドC-4へ通しニードルの穴へ通します。
- (9) A・Cのトワインをそれぞれニードルへ通し終わったら、トワインの端を走行部の角パイプへ結び付けます。



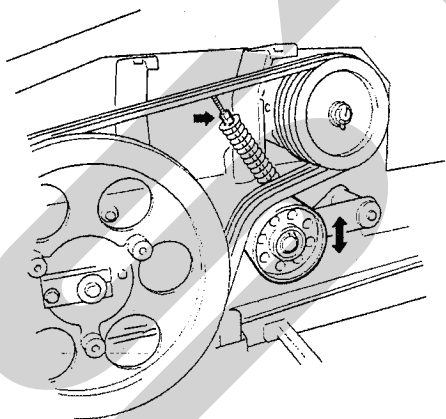
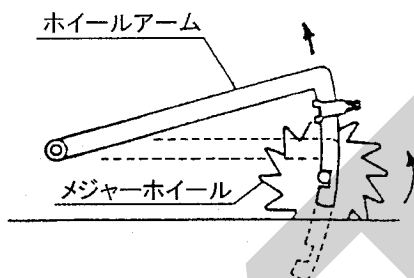
取扱い上の注意

- トワインの各ガイドへの通し方は、(1)～(9)に従って順序よく行い、トワインが交差したり、絡んだりしないように注意してください。
- トワインを補給する場合には、残っているトワインを奥へ移してから補給すると入れやすくなります。

2. トワインのノッタ(トワインホルダ)へのセットの仕方

トワインを通し終わったら次にトワインをノッタ(トワインホルダ)へ保持させる必要があります。

- (1) メジャーホイールを回して、ホイールアームを上げノッタを作動状態にします。
- (2) フライホイールを手で回しノッタを作動させるとニードルはゆっくりと上昇しノッタのトワインホルダへ、トワインを入れます。更にニードルがもとの位置へ戻るまでフライホイールを回してください。

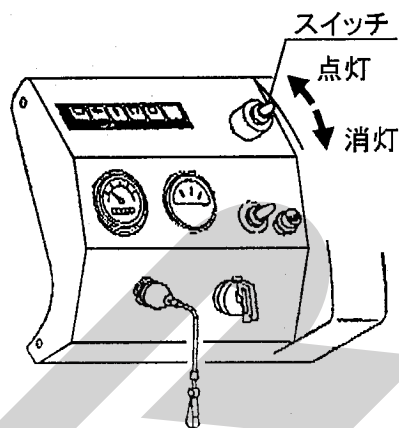


取扱い上の注意

- 作業機クラッチレバーを「入」にしてこの作業を行うと危険です。
作業機クラッチレバーを「切」にしてフライホイールを手で回しながら行ってください。
- この作業が終わったらノッタのノッタビルなどにかからんだトワインと走行部の角パイプへ結んだトワインの端は必ず取り除いてください。
- ノッタビルやトワインディスク・トワインホルダに付着している油やグリースは、洗油またはシンナー等で洗い流してください。

4 ライトの点灯・消灯のし方

スイッチを上へ倒すと点灯、下へ倒すと消灯します。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

▲ 警告

- 給油口に火気を近づけると、燃料に引火し火災になる事があります。
燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。
- エンジンが熱を持った状態で注油・給油すると、燃料などに引火して、ヤケドや火災をおこすおそれがあります。
エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。
- 燃料を補給する際、こぼれた燃料が引火し、火災事故を引き起こすおそれがあります。
燃料を補給した時は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- 燃料パイプが破損していると、もれた燃料が引火し、火災事故を引き起こすおそれがあります。
燃料パイプは必ず点検してください
- 点検整備の際、機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で行ってください。
- 作業機が不意に降下し、傷害事故を負うおそれがあります。
下に入る時は、台などで落下防止をして行ってください。

▲ 注意

- 点検・整備をする時、エンジンを止めずに行うと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。
- 点検整備の際、ヤケドをするおそれがあります。
マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。

- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行ってください

1. 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

2. 機械のまわりを回ってみて

- (1) 各部の損傷・汚れ・ボルトのゆるみ
- (2) クローラの損傷
「7-2-15 クローラの張りの点検」の説明に基づきクローラの接地面全面に亀裂、損傷がないか点検してください。
- (3) クローラの張り状態
「7-2-15 クローラの張りの点検」の説明に基づき点検し、損傷している時は補修もしくは部品交換してください。

3. ボンネットを開けてみて

- (1) 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷
「7-2-8 パイプ類の点検について」の説明に基づき点検してください
- (2) エンジンオイルの量と汚れ、油もれ
「7-2-2 各部オイルの点検・交換のしかた」の説明に基づき点検・交換してください。
- (3) 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷
「7-2-4 冷却水の点検・交換のしかた」の説明に基づき点検・交換してください。
- (4) バッテリー液の量
「7-2-7 バッテリーの点検・整備のしかた」の説明に基づき点検・整備してください。
- (5) エアクリーナーの汚れ
「7-2-6 エアクリーナエレメントの掃除と交換のしかた」の説明に基づき掃除・交換してください。

- (6) ボンネット部ダクトフィルタのほこりやゴミ
「7-2-11 エアフィルタの点検・掃除のしかた」の説明に基づき点検・掃除してください。
- (7) ラジエタやエンジンルーム内のほこりやゴミ
「7-2-12 ラジエタ・オイルクーラー部の掃除について」の説明に基づき点検・掃除してください。
- (8) 各Vベルトの張り と 損傷
「7-2-17 Vベルトの張りの調整」の説明に基づき点検調整してください。
- (9) 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
「7-2-9 電気配線の点検について」の説明に基づき点検してください。
- (10) 油圧オイルの量と油もれ
「7-2-2 各部オイルの点検・交換のしかた」の説明に基づき点検・交換してください。

4. ベーラー側へ回ってみて

- (1) 錆止めのために塗布したグリース、オイルなどは拭き取ってください。
- (2) フライホイール部のシャーボルトの点検
緩んでいる時は増し締めしてください。
- (3) ピックアップ駆動部の点検
「7-2-17 Vベルトの張りの調整」の説明に基づき点検調整してください。
- (4) フォーク及びノッタの駆動部点検
「7-2-18 ローラチェーンの張りの調整」の説明に基づき点検調整してください。
- (5) ノッタ部シャーボルトの点検
緩んでいる時は増し締めしてください。
- (6) タイン・ロータフラッシュ・クランプカバーの点検
損傷している時は補修もしくは部品交換してください。
- (7) フォーク部シャーボルトの点検
緩んでいる時は増し締めしてください。
- (8) ガイドレールの点検
「7-2-25 ガイドレールの調整」の説明に基づき点検調整してください。
- (9) プランジャストッパの点検
「7-2-23 プランジャストッパの調整」の説明に基づき点検調整してください。
- (10) ナイフのスキマ点検
「7-2-24 プランジャナイフとチャンバナイフの調整」の説明に基づき点検調整してください。

警告

- ナイフを調整する時、不意にプランジャが動き、ケガをすることがあります。
プランジャを動かないように固定して行ってください。

- (11) トワインの点検
「1-3 トワインの通し方」の説明に基づき点検調整してください。
- (12) トワインの結束部点検
「4-3-1 結束の確認の方法」の説明に基づきトワインの結束部を点検し、不具合が見つかった時は「8-1 不調処置一覧表」の説明に基づき不具合を解消してください。
- (13) プランジャとフォークのタイミング点検
「7-2-28 プランジャとフォークのタイミング」の説明に基づき点検調整してください。

警告

- フォークのタイミングを調整する時、不意に回転し手が巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
フォークを動かないように固定して行ってください。

- (14) プランジャとニードルのタイミング点検
「7-2-28 プランジャとニードルのタイミング」の説明に基づき点検調整してください。
- (15) 各部のボルト・ナットの点検
緩んでいる時は増し締めしてください。
- (16) 給油箇所の点検
「2-4 給油箇所一覧表」に基づき点検しオイル・グリースが不足している時は補充してください。
尚、オイルがよごれている時は交換してください。

5. 運転席に立ってみて

- (1) ステップの状態、損傷、取付ボルトの緩み
- (2) ランプ・メータ・スイッチの作動状態
「1-1 各部の名称とはたらき」の説明に基づき点検してください。

2 エンジン始動での点検

エンジンの始動は「4-4-1 始動のしかた」の説明に基づき行ってください。

1. エンジン始動後の異音
2. 運転レバーの作動具合

「7-2-13 運転レバーの点検」の説明に基づき点検してください。

3. 作業機クラッチレバーの作動状態
4. 作業機クラッチレバーを「入」にして作業機を回転してみる

(1) 新品の使いはじめの時

- ① エンジン回転数 1,000rpm 程度で約 5 分、ならし運転を行い、異常な発熱や音及び振動がないか点検してください。
- ② 異常がなければエンジン回転数 2,800rpm で約 5 分、空運転を行い、異常な発熱や音及び振動がないか点検してください。

(2) シーズンが開始する時

- ① エンジン回転数 1,000rpm で約 10 分、空運転を行い、異常な発熱や音及び振動がないか点検してください。

不具合が見つかった時は、「8-1 不調処置一覧表」の説明に基づき不具合を解消してください。

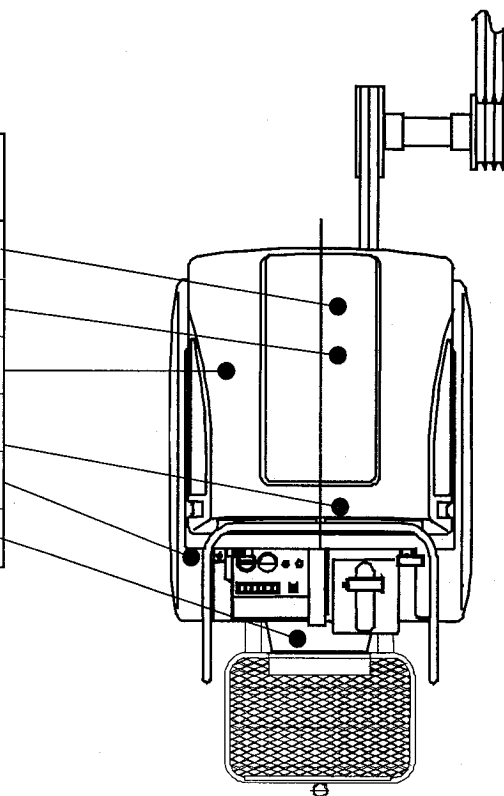
3 オイル・グリース・不凍液について

燃 料	ディーゼル軽油
エンジンオイル	10W-30(API 分類 CC・CD 級)
ミッションオイル	80W(SAE90 API 分類 GL-5)
油 圧 オ イ ル	HST オイル(ISO VG46)
冷 却 水	不凍液、キャストロール LLC-95 (出荷時は、不凍液混合比率は、 外気温度-30°Cとしてあります。)
グ リ ー ス	万能グリース No.2

4 給油・給水一覧表

1. 走行部

No	給油等の項目	給油の種 類	給油量 (ℓ)	点検時間	交換時間	給油等の箇所
1	燃 料 タ ン ク	軽油	22	始業前		1
2	エンジンオイル	E.O.	4.5	始業前	50	1
3	ラ ジ エ ー タ	水	4	始業前		1
4	油 圧 タ ン ク	H.O.	10	始業前	300	1
5	走 行 モ ー タ	G.O.	0.33	50	200	2
6	バ ッ テ リ	蒸留水	—	始業前		6



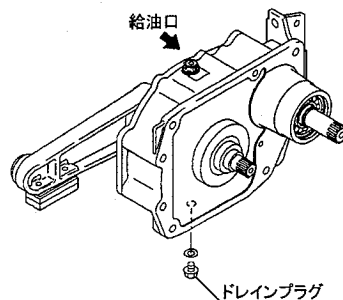
2. 作業部

○給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。

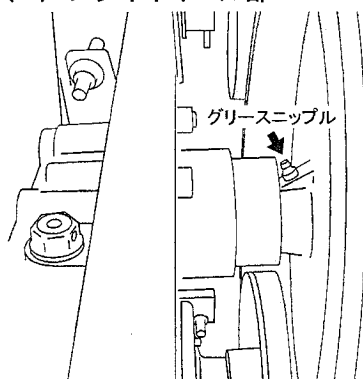
○グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。

(1) ギヤボックス

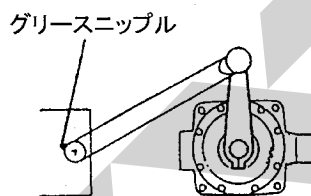
オイルの交換は1回目 20時間又は2,000 ベール毎に、2回目以降は100時間又は10,000 ベール毎に行ってください。



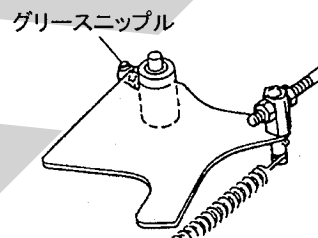
(2) フライホイール部



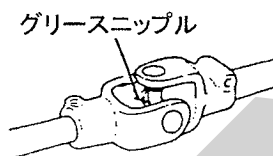
(3) プランジヤ



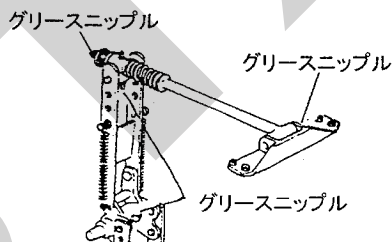
(4) プランジヤストッパ



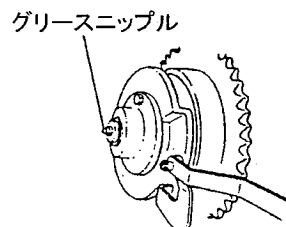
(5) ピックアップドライブ



(6) フォーク



(7) ノッタシャーボルトホルダ



No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	交換時間	給油量	備考
1	ギヤボックス	1	※ギヤオイル SAE 90 API GL-5	1回目 20時間又は梱包 2,000ベール 2回目以降 100時間又は梱包 10,000ベール	0.9ℓ (交換時)	オイル量が不足している時は、オイルレベル穴にオイルが達するまで補給してください。
2	フライホイール部	2	グリース;2号	5時間又は梱包 500~1,000ベール	適宜	グリースニップル ・グリースニップル ・スライド部はグリース塗布
3	プランジヤ	2				
4	プランジヤストッパ	1				
5	ピックアップドライブ	2				
6	フォーク	4				
7	ノッタシャーボルトホルダ	1				
8	ノッタ部	16	スター純正グリース (部品番号 67817)	使用ごと	-	
9	トリップアームホルダ	1				
10	ニードルヨーク	2				
11	ニードルドライブクランク	1				

No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	交換時間	給油量	備考
12	メジャーホイール軸受部	1	オイル	適宜	適宜	注油
13	トップドック軸受部	1				
14	ボトムドック軸受部	1				
15	プレスハンドルのネジ部	2				
16	ローラチェーン	2				

※ コスモ石油「コスモギヤー GL-5 80W-90」又は相当品をお使いください。

取扱い上の注意

- ローラチェーンにグリースを塗布したり給油をしすぎると、ローラチェーンに土やゴミ（草くず）が付着し、トラブルが発生しやすくなります。
- ローラチェーンに給油する時は、土やゴミが付着しない程度に適宜行ってください。

3 運搬の仕方

▲ 警告

- トラックへの積込み・積降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めしてください。
- 使用するあゆみ板（道板）は、幅・長さ強度が十分あり、スリップしない物を選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積込みは前進で行ってください。
- 車両があゆみ板の上で横すべりしないようにクローラに付いた泥などを落としてください。
- あゆみ板の上では絶対に方向転換しないでください。
方向転換が必要な場合は、いったんあゆみ板より降りてからやり直してください。
- 車両があゆみ板とトラックの継目を越えるときには、急に重心位置が変化（バタン現象）しますので十分注意してください。
特にスピードが早いと転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

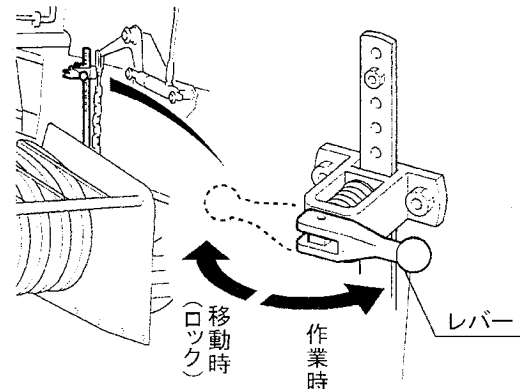
1 あゆみ板による積込み・荷降ろし

1. あゆみ板の基準

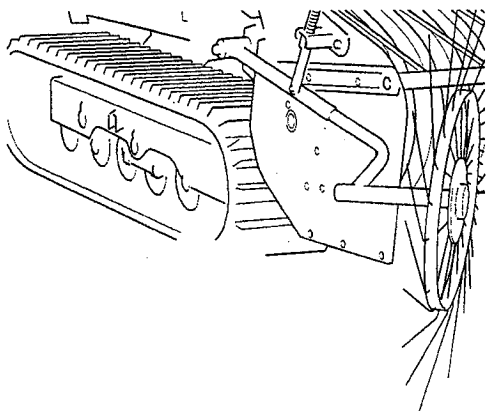
- 長さ……車の荷台高さの4倍以上
- 幅 ……400mm以上
- 強度……2000kgに十分耐えられるもの
- 表面がすべらないように処理してあること
- あゆみ板は、左右段違いにならないようにし、また荷台中心に対して、左右均等な位置へ確実に取り付けます。

2. 作業機のセット

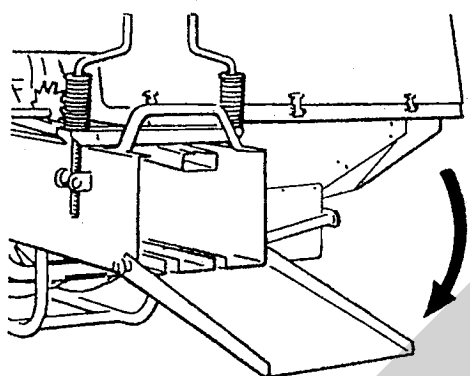
- (1) ピックアップを持ち上げてピックアップをロックしてください。



- (2) サイドリールのロッドの穴を下の穴から上の穴にしてサイドリールを上げてください。



- (3) テールゲートを上げ、ロックしてください。



3. 操作方法

- (1) 作業機をあゆみ板にあたらぬ程度に上昇します。
- (2) あゆみ板に対して真っすぐに方向を定めてゆっくり積込みます。
- (3) 落輪しないように、運転レバーは慎重に操作してください。
- (4) 車両があゆみ板とトラックに継目を越えるときには、急に重心位置が変化（バタン現象）しますので十分注意してください。
- (5) 積込みが終了したら、作業機を荷台と接するまで下降し、メインスイッチを「OFF」にし、駐車ブレーキスイッチを「ロック」の位置にして、ロープで車両を確実に固定してください。

2 運搬の方法

▲ 警告

- じょうぶなロープを車両に掛け、確実に固定してください。
作業機は必ず荷台に接地するまで下降させてください。
守らないとトラックのブレーキを急にかけた時などに車両が荷台から転落し、思わぬ傷害事故の原因になります。

▲ 注意

- トラック運搬時で、高速道路を走行する場合は、ボンネットおよびボンネット部上カバーが開かないようにロープで固定してください。
守らないと、風などによりカバーが開いて、思わぬ事故の原因になります。

3 けん引の禁止

▲ 警告

- この機械ではけん引作業は絶対しないでください。
けん引をすると思わぬ重大事故になるおそれがあります。
- 故障時の車両本体のけん引はできません。
この車両は油圧駆動方式のため無理にけん引すると油圧機器が破損する場合があります。
故障時はクレーンで吊り上げるか、コロを利用して搬送可能な場所まで移動してください。

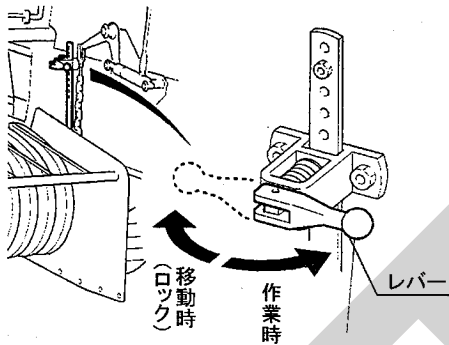
4 運転作業の仕方

1 本製品の使用目的

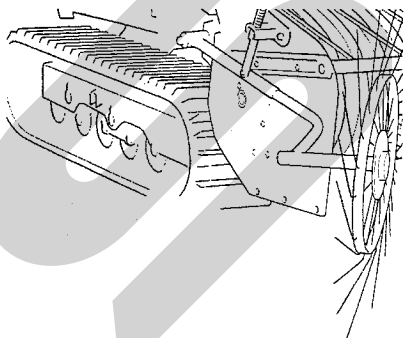
1. 本製品は、ほ場においての牧草、稲わらの梱包作業に使用します。
他の用途には使用しないでください。

2 作業を始める前に

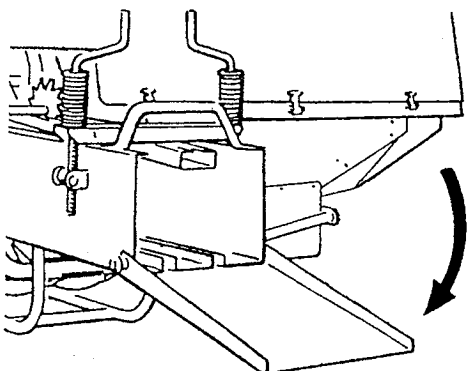
1. ピックアップロックのレバーでロックを解除し、ピックアップが上下に浮動するようにしてください。



2. サイドリールに取付けているベータピンをはずし、ロッドの穴を上側の穴から下側の穴にし、サイドリールを下げベータピンを取付けてください。



3. テールゲートのロックを解除し、下げてください。



取扱い上の注意

テールゲートを上げたまま作業するとベールが排出されず、作業機が破損します。
テールゲートは下げて作業してください。

3 作業のための調整

▲ 注意

- 作業機クラッチレバーが「入」の位置およびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
作業機クラッチレバーを「切」にして、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

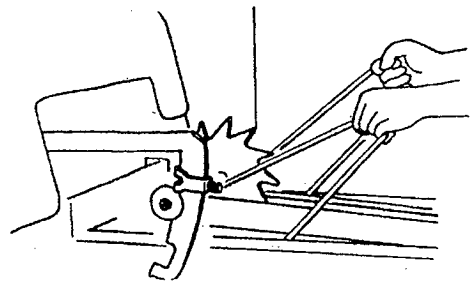
1. 結束の確認（ノットの結束テスト）の方法

切断面がきれい 20mm以上ある
結目が確実にできている

良い結束の例



- (1) トワインがゆるんだり、すべらないよう両手でトワインをしっかりと握り後方へ引き、チャンバ内へ草が入った時と同じ状態にします。



- (2) メジャーホイールを回してノットを作動状態にします。
- (3) フライホイールをゆっくり手で回し、ノットを作動させます。更にニードルがもとの位置へ戻るまでフライホイールを回してください。

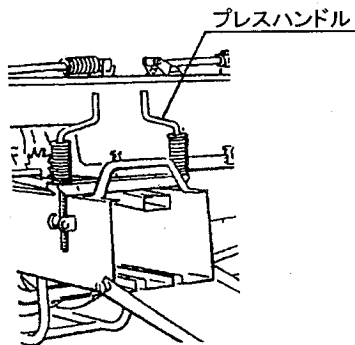
取扱い上の注意

- 作業機クラッチレバーを「入」にしてこの作業を行うと危険です。作業機クラッチレバーを「切」にしてフライホイールを手で回しながら行ってください。
- 結束ミスが発生した時は、「8-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。

2. 梱包密度の調整

高い梱包密度の梱包を作る時は、プレスハンドルを右（時計回り方向）へ回してください。

低い密度の梱包を作る時は、プレスハンドルを左（反時計回り方向）へ回してください。



調整する時は、左右のプレスハンドルを均等に回し、調整してください。

水分 20% の牧草で $70 \sim 180 \text{ kg/cm}^3$ の梱包を作ることができます。

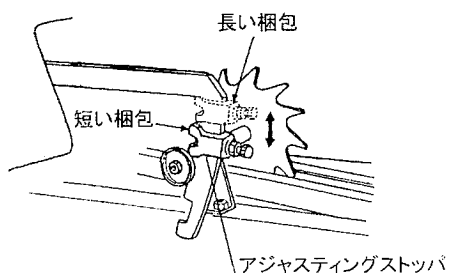
取扱い上の注意

- 梱包密度をあげ過ぎると結束ミスの原因となるばかりでなく、故障や破損の原因にもなります。梱包密度をあげ過ぎないでください。
- 湿った草や生草を梱包する時は、バールプレススプリングはゆるくし、梱包密度を低くしてください。

3. 梱包長さの調整

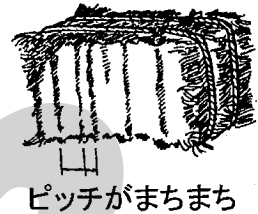
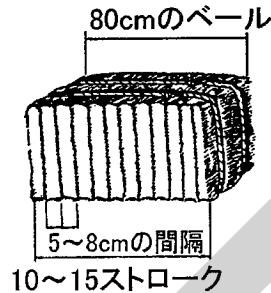
(1) 梱包長さは 30~100 cm まで目的に応じた長さに調整できます。

アジャスティングストップの位置を上にあげれば、長い梱包になり、下にさげると短い梱包になります。



(2) 梱包の長さ及び切断ピッチは、作業速度や集草状態によっても変わります。梱包の長さ及び切断ピッチを均一にするため、作業速度や集草列の草量が一定になるよう調整してください。

(適正な梱包の例) (不良な梱包の例)



取扱い上の注意

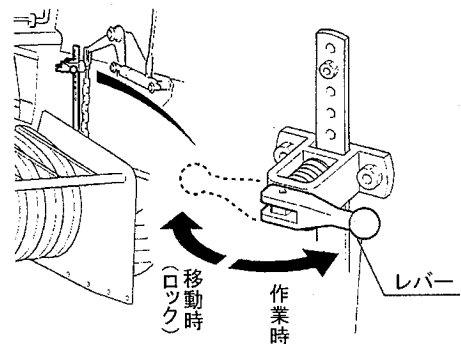
切断ピッチが不均一であると、不良梱包の原因になり、梱包の長さが不均一になるばかりか、梱包が不整形になりやすくなります。切断ピッチが一定になるよう調整してください。

4. ピックアップ部の調整

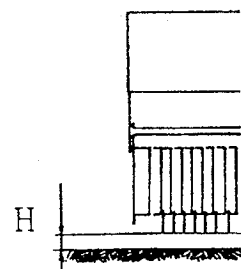
(1) ピックアップの上下の調整

移動時にはピックアップを持ち上げてロックしてください。

ピックアップの下限の規制は、ボルトの位置を変えることによって行い、ほ場状態により調整します。

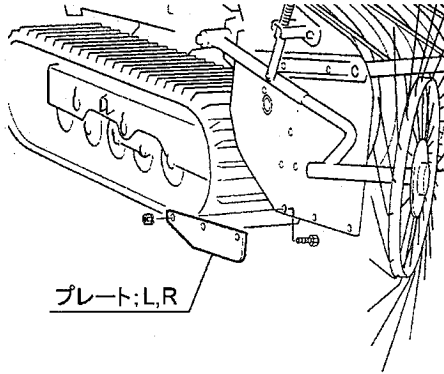


- ① 牧草、長わらの時は、 $H=20 \text{ mm}$ 位になるように調整してください。
- ② 切わらの時は、 $H=0 \text{ mm}$ 位（ピックアップタインが少し地面をこする程度）になるように調整してください。



(2) サイドプレートの調整

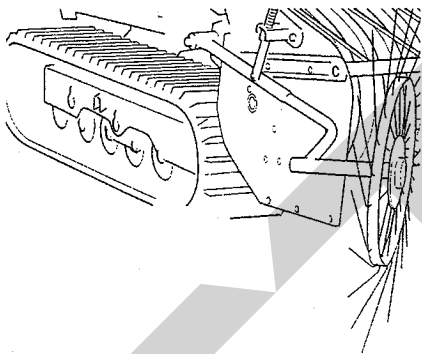
- ① 牧草や長わらの時、サイドプレート部に草がひっかかることがあります。
この時には、左右のプレートはずしてください。
- ② 切わらの時は、左右のプレートを取付けてください。



5. サイドリールの調整

(1) サイドリールの高さの調整

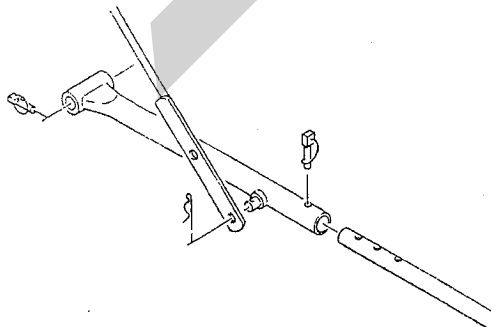
サイドリールのタインが地面に 20~30 mm くいこむようにスプリング長さを調整してください。



(2) サイドリールの前後の調整

サイドリールは、3カ所の穴で前後に調整できる構造になっています。

- ① 牧草や長わらの時は、ピックアップとあいだがあくように調整してください。
- ② 切わらの時は、ピックアップとあいだがあかないように調整してください。



6. シャーボルトの交換要領

一定以上の過負荷が発生したり、タイミングに狂いが発生した時、シャーボルトが切断し作業機を保護します。

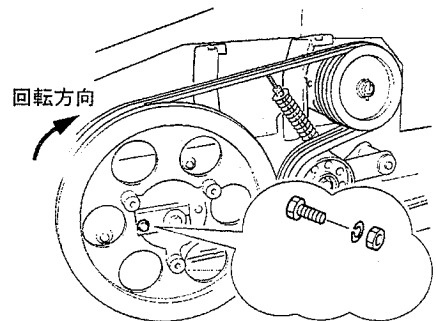
シャーボルトが切断した時は、必ず原因を調べ、その原因を取り除いてからシャーボルトを交換してください。

取扱い上の注意

- シャーボルト切断の原因を取り除かず、新しいシャーボルトを取り付けても、再度切断されます。原因を調べ、その原因を取り除いてから行ってください。
- シャーボルトはスター純正部品を使用してください。付属のシャーボルトが少なくなったら早目に販売元か当社営業所へ注文し、補充してください。
スター純正品以外のボルトの使用による破損や故障については、保証できませんので注意してください。
- シャーボルトの交換をしたら、シャーボルトホルダヘグリースを給油してください。

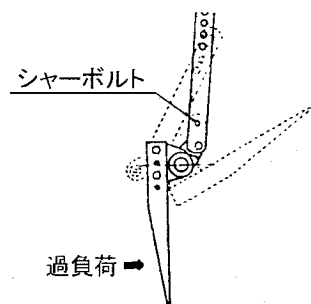
(1) フライホイール部

- ① 切断されたシャーボルトをシャーボルトホルダから取り除いてください。
- ② フライホイールを手で回し、それぞれのシャーボルト穴を合わせてください。
- ③ 付属品の #44028 シャーボルト (M10×55) を通し、ナット、Sワッシャを取付け、締付けてください。



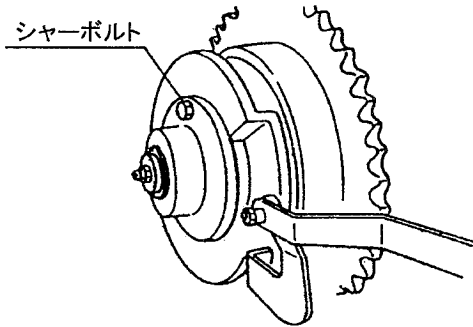
(2) フォーク部

- ① 切断されたシャーボルトをシャープブッシュから取り除いてください。
- ② フォークをもとの状態にもどし、シャーボルトの穴を合わせてください。
- ③ 付属品の #62969 シャーボルト (M8×45) を通し、ナット、Sワッシャを取付け、締付けてください。



(3) ノッタ部

- ① 切断されたシャーボルトをシャーボルトホルダから取り除いてください。
- ② シャーボルトホルダを手で回し、それぞれのシャーボルト穴を合わせてください。
- ③ 付属品の#44691 シャーボルト (M8×32) を通し、ナット, Sワッシャを取付け、締付けてください。



取扱い上の注意

- ノッタのシャーボルト切断時には、フライホイールのシャーボルトも同時に切断する場合がありますので確認してください。
- シャーボルトの交換をしたら、シャーボルトホルダへグリースを給油してください。

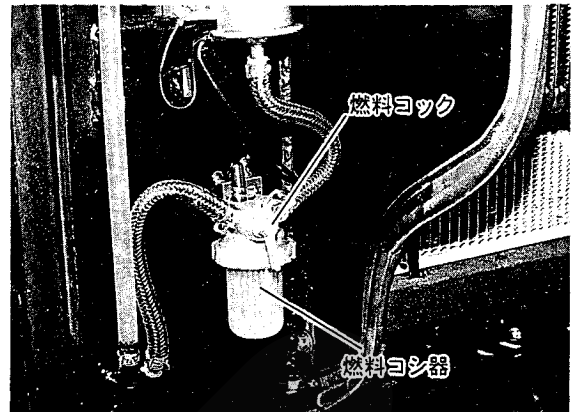
4 エンジンの始動・停止の仕方

1. 始動のしかた

▲ 警告

- エンジン始動時に、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
エンジン始動時は必ずステップに乗り、周囲の安全を確認してください。
- 締め切った屋内などでエンジンを始動させると、排気ガスによる中毒を起こし、死亡または重大な傷害に至るおそれがあります。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。
やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねくおそれがあります。
機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。
特に、Vベルトはキズなどないか、点検・整備をしてください。

- (1) 燃料コックを「ON」(開の状態)位置にします。



- (2) 運転レバーが「中立」の位置にあるか確認します。
- (3) 作業機クラッチレバーが「切」の位置にあるか確認します。
- (4) 安全スイッチが差し込まれているか確認します。
- (5) 駐車ブレーキスイッチが「ロック」位置にあるか確認します。
- (6) アクセルレバーを「最高回転」位置にします。
- (7) メインスイッチを「ON」位置にして、グローランプが消灯してからメインスイッチを「START」(スタート)位置にします。
- (8) エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離します。
- (9) エンジン始動後、アクセルレバーを「低」位置にもどし、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

〈暖機運転について〉

本機は、全て油圧にて動いています。暖機運転を怠ると油圧システムの故障を引き起こし、事故の原因になります。

特に寒冷地などで気温が下がって冷え込むと、油の粘度が高くなり、油圧の作動が遅くなったり、正常な圧力が得られなくなることがあります。これを防ぐために必ず、暖機運転を約5分行ってください。

取扱い上の注意

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
(10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、(7)操作を繰り返してください。)
- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。
セルモータが破損することがあります。

2. 停止のしかた

アクセルレバーを「低速回転」位置にして、メインスイッチを「OFF」位置にするとエンジンが停止します。

5 ピックアップを上下させるには

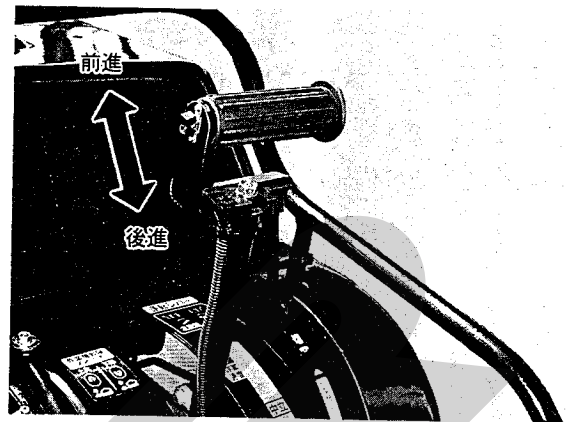


ピックアップを上下させるには、運転レバー部にある作業機昇降スイッチを使用します。

作業機昇降スイッチを「上」側を操作するとピックアップは上がり、「下」側を操作するとピックアップは下がります。スイッチを操作している間だけピックアップは動き、その位置を保ちます。

(3) 作業機昇降スイッチを操作して、ピックアップを地面から浮かせてください。

(4) 運転レバーをゆっくり前に押すと、車両が前進します。後方に引くことにより、車両が後進します。



2. 旋回のしかた

▲ 警告

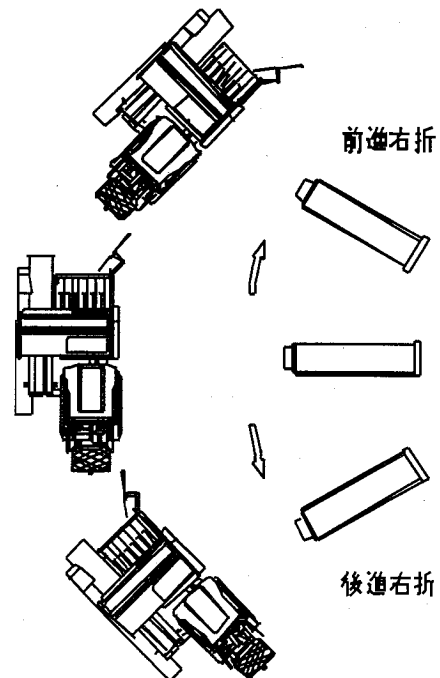
●急激な方向転換はゴムクローラの早期摩耗や欠損、路面を荒らす原因になるばかりか、危険です。

ゆっくりとしたレバー操作をしてください。特に超信地旋回をするときには、いったん車両が停止してからゆっくり行ってください。

旋回したい方へ運転レバーを回すと、その方向に車両は旋回します。

(1) 右旋回

前進しながら右折する時は、運転レバーを前に押しながら右方向（時計方向）にひねると右旋回します。後進しながら右折する時は（反時計方向）にひねると右旋回します。



6 発進・旋回・停止のしかた

▲ 警告

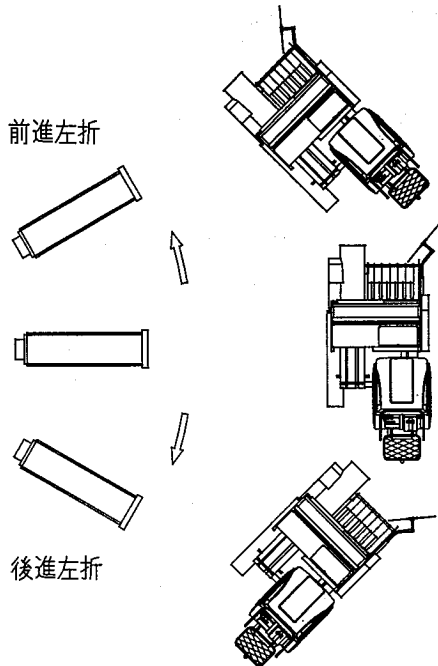
- 車両を走行する場合は、必ずブレーキスイッチを解除位置にしてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 本機は、特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路（公道）の走行はできません。道路交通法違反となります。
- 作業中および移動中は、安全のためヘルメットをかぶってください。
- 運転者の他に人を乗せないようにしてください。
- 急な発進・旋回・停止やスピードの出しすぎは禁止です。運転レバーはゆっくり操作してください。

1. 発進のしかた

- (1) アクセルレバーを「最高回転」にします。
- (2) 駐車ブレーキスイッチを「解除」位置にします。

(2) 左旋回

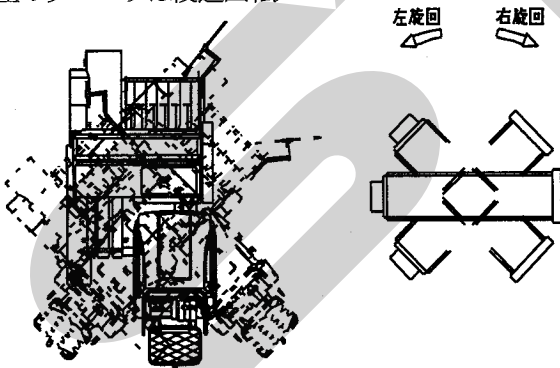
前進しながら左折する時は、運転レバーを前に押しながら左方向（反時計方向）にひねると左旋回します。後進しながら左折する時は、（時計方向）にひねると左旋回します。



(3) 超信地旋回

運転レバーを中立の位置で右側にひねると、右へ超信地旋回します。（右のクローラは後進回転、左のクローラは前進回転）

運転レバーを中立の位置で左側にひねると、左へ超信地旋回します。（右のクローラは前進回転、左のクローラは後進回転）



3. 停止・駐車のかた

警告

- 車両から離れるときには、地盤のしっかりした平坦で安定した場所を選び、軟弱地や斜面など危険な所は避けてください。やむを得ず斜面に止めるときは、車両を横向きにし、クローラには車止め等を行ってください。
- 作業機クラッチは必ず「切」にしてピックアップを地面に接地させ、ピックアップの回転が止まったことを確認してから機械をはなれてください。

- (1) 運転レバーを中立の位置に戻してください。
- (2) 駐車ブレーキスイッチを「ロック」位置にしてランプが点灯したことを確認してください。
- (3) 作業機クラッチレバーを「切」の位置に戻してください。
- (4) アクセルレバー「低速回転」にしてください。
- (5) ピックアップを地面と接するまで下げてください。
- (6) ピックアップの回転が停止したことを確認してください。
- (7) メインスイッチを「OFF」位置にして、エンジンを停止します。

7 作業のしかた

警告

- 安全スイッチを必ず体の一部に装着してください。
- 作業前にほ場内の石等障害物を取り除いてください。飛散して傷害事故および、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 子供やペットが周りにいないか注意してください。もし近づいたら直ちに作業、走行を中止してください。
- 異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べてください。
- ピックアップを上昇させて点検、整備する場合は必ず台などで落下防止をして行ってください。
- 運転レバーを急激に倒したり、引いたりしないでください。ゆっくり操作してください。
- わき見、手放し運転はしないでください。
- 傾斜地での作業は行わないでください。横転・転倒・スリップ等の危険が伴いますので作業限界は10度以内としてください。地表条件では更に少なくなります。傾斜角10度以内であっても急停止は転倒の危険がありますので、作業速度は押さえて低速で作業を行ってください。
- 傾斜地での旋回は転倒の危険性が高いので避けてください。
- 防塵網が藁等で目詰まりしますと、オーバーヒートの原因になります。目詰まりしている物を取り除いて下さい。

1. 作業場所の下見

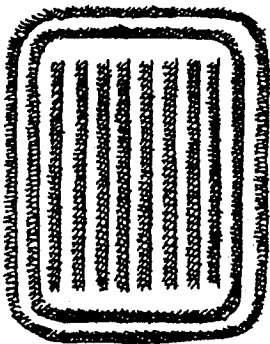
作業を始める前に、作業場所の下見を行ってください。

- 地形をよく把握してください。溝や、軟弱地など危険な場所は目印を付けるなどしてください。
- 旋回する場所を確認してください。特に、傾斜地での旋回は危険ですので地盤を確認してください。

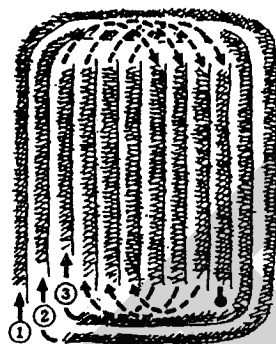
2. ウインドロー（集草列）の作り方

本作業機を効率よく使用するために、ウインドローは均一で巾 60～80cm、高さ 30～40cm とし、間隔は 2～2.5 m となるように作ってください。

また、本作業機が圃場内をスムーズに作業できるような作業効率のよいウインドローの作り方を工夫しましょう。



仕上り



作業順序

取扱い上の注意

- バインダで作業後の結束された稲ワラを梱包すると切断時の抵抗が増し、作業機の寿命を短くするばかりでなく、梱包形状も安定せず、トワインが外れたりもします。また結束部のトラブルの要因ともなります。結束された稲ワラは必ず結束をほどこき、ウインドローを作って作業してください。
- コンバインでの作業後の切断された稲ワラの梱包作業では切断長が約 8cm 以下になると拾い上げ時、またはチャンパー内への送り込み時に流れが停滞することがあり能率が低下したり、梱包形状も良いものが出来ないことがあります。ウインドローをつくり、能率の良い作業をしてください。

3. 梱包作業

警告

- 運転中又は回転中、ピックアップおよびフィードフォークに接触すると巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。周囲に人を近づけないでください。

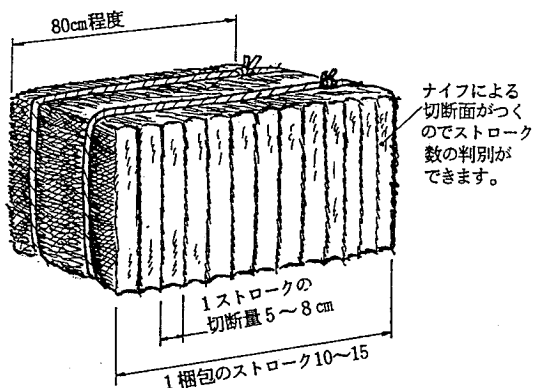
- 草を手供給すると機械に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。手供給は危険ですのでしないでください。
- エンジンを止めずに草の除去を行うと、機械に巻き込まれ事故・ケガをするおそれがあります。ピックアップやフィードフォークに草が詰まった時は、必ずエンジンを停止して、作業機が完全に停止してから草を除去してください。
- 運転中または回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれるなどの事故・ケガをするおそれがあります。カバーの開閉は、エンジンを停止して、作業機が完全に停止してから行ってください。
- 運転中または回転中、ニードルおよびニードルヨークに接触すると挟まれ、ケガをするおそれがあります。作動範囲には、手足を入れしないでください。
- 運転中または回転中、ノック部に接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。手を近づけないでください。

- (1) 安全スイッチを体の一部に装着してください。
- (2) エンジンを始動してください。
- (3) 作業機クラッチレバーを「入」にして作業機の回転が上がったことを確認してから作業を行ってください。

取扱い上の注意

- エンジン回転が低いと、フライホイールのシャーボルトの負荷が増し、切断しやすくなるばかりでなく、故障の原因となり、本来の性能を発揮できなくなります。アクセルレバーを常に「最高回転」の位置で作業してください。
 - 牧草、稲ワラ以外の異物は、ナイフの破損をまねくだけでなく各部に影響します。作業中は、異物の混入に注意してください。
 - むやみに重い梱包を作って、後作業が困難にならないよう注意してください。適正な梱包密度と大きさに調整してください。
- (4) ウインドローは、均一で少な目とし、走行速度をアップして作業すれば能率よく作業できます。
 - (5) 圃場条件やウインドローの状態に合わせて作業機速度を調整してください。
 - (6) ウインドローが不均一な時は、作業速度を調整し作業機がなるべく一定負荷で作業できるようにしてください。

- (7) 80~90 cmの長さの梱包が10~15回のプランジャ圧縮で梱包されるのが、バランスのとれた理想的な作業です。作業速度とウインドローの大きさを調整して無理のない作業をしてください。



- (8) 傾斜地での旋回は地形をよく確認し運転者が車両より上側になるように低速で旋回してください。
- (9) エンジン冷却用の空気は、ボンネットの空気取り入れ口から入り、フィルタで稲わら等を除いて、ラジエータに導かれます。
ボンネット部の空気取り入れ口の金網は、作業環境によっては稲わら等によりすぐつまります。こまめに清掃してください。オーバーヒートの原因になります。
- (10) 大小の転石が多量にある場所での走行は、石を噛み込みクローラを痛めたり、クローラ外れの原因になりますので注意して走行してください。
- (11) 異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止して、原因を調べてください。

5 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

1 作業後の手入れ

▲ 危険

- 機械が熱をもった状態でシートをかけると、火災事故を引き起こすおそれがあります。マフラやエンジンなどが充分冷えたことを確認してからかけてください。

▲ 警告

- 点検・整備をする時、エンジンを止めずに行くと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。

▲ 注意

- 点検整備の際、ヤケドをするおそれがあります。マフラやエンジンなどの過熱部分が充分に冷めてから行ってください。

1. フィードフォーク部、ノッタ部、チャンバ内側、カバー内部や、クローラ回りを点検し、ゴミや草、ホコリなどがたまっていたり、巻き付いていたら取り除いてください。特に、Vベルト回り、エンジン回り、ラジエータ回りなど回転部に堆積した草は完全に取り除いてください。

シール部品、軸受部品等に傷を付けたり、発火するおそれがあります。

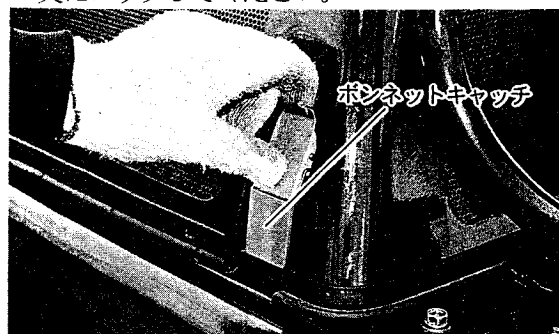
2. 破損した部品、消耗した部品を交換補充してください。
3. 点検整備一覧表に基づき、駆動部、連結部などを点検してください。
4. 給油箇所一覧表に基づき油脂を補給してください。

取扱い上の注意

電装品には水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2 ボンネットの開閉のしかた

1. 左右のキャッチを解除します。
2. 両手でボンネットをスタンドが確実にロックしているか確認してください。
3. ボンネットを閉じる場合は、ボンネットを持ち上げて、ロックを解除し、左右のキャッチを確実にロックしてください。



3 左右サイドカバー開閉のしかた



1. 左右のロックハンドルを上げサイドカバー全体を手前に引きサイドカバーを後方にスライドさせ取り外します。
2. 取付ける場合は、サイドカバー下部のブラケット穴にピン（2ヶ所）を入れサイドカバーを前方にスライドロックしてロックハンドルを確実にロックしてください。

4 防塵カバーの開閉のしかた

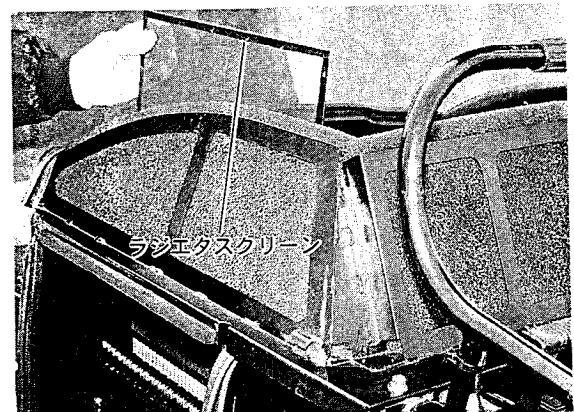
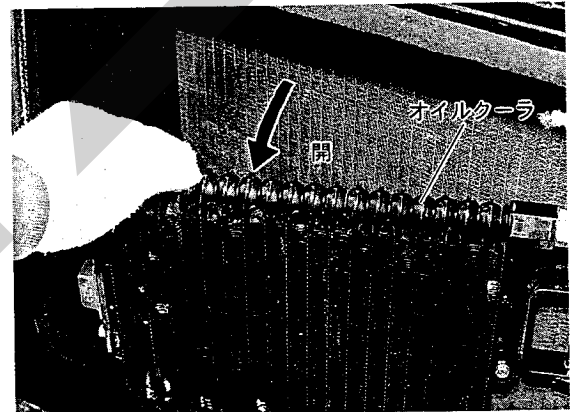
1. 防塵カバーの握りを両手で持ち手前に引きロックを解除し、防塵カバーを持ち上げると外れます。
2. 防塵カバーを取り付けるときは外したときの逆の手順で取り付けます。
3. 下側のガイド2ヶ所と防塵カバーの切り欠きを合わせ、はめ込みます。防塵カバーの握りを両手で持ちサイドカバー側に押し付けるとロックされます。確実にロックしたか確認してください。

5 防塵網の清掃の仕方



1. 防塵カバーを取り外します
2. 防塵網に目詰まりした藁やゴミなどを取り除きます。
3. 防塵網をくぐり抜けサイドカバーの網に目詰まりした藁やゴミなどを取り除きます。

6 ラジエータの清掃のしかた



1. 左側サイドカバーを取り外します。
2. オイルクーラフィンに目詰まりした藁やゴミなどを取り除きます。
3. オイルクーラを手前に開きます。
4. ラジエータスクリーンを上部に引き上げ、ゴミ等を取り除きます。

7 長時間使用しない場合の手入れ

▲ 警告

- 格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこしたりするおそれがあります。
- 機械が熱をもった状態でシートをかけると、火災事故を引き起こすおそれがあります。マフラーやエンジンなどが充分冷えてからかけてください

車両を長時間（1ヶ月以上）使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

1. 乾燥した風通しの良い所で、ピックアップを降ろした状態にして、下には板を敷いてください。
2. 機械各部の清掃をしてください。チャンバ内部に残った梱包は、必ず取り除いてください。
3. 点検整備一覧表に基づき駆動部、連結部などを点検してください。また摩耗した部品、破損した部品は、交換補充してください。
4. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。また、回転、回転支点にはグリースを塗布してください。
5. さび止めのために、ノッタ部、プランジャナイフ、チャンバナイフ、チャンバ内部、プレスハンドル及びテールゲート部は必ずグリース又はオイルを塗布してください。また塗装損傷部は補修塗装、あるいは、油を塗布し、さびの発生を防いでください。
6. 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは、「OFF」（閉の状態）にしてください。
7. バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また車両に取付けたまま保管するときは、必ずアース側（一側）を取外してください。
8. 冷却水を抜き取ってください。
9. キースイッチを抜き取り、車両以外の場所に保管してください。
10. やむを得ず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

取扱い上の注意

バッテリーは、使わなくても自然放電します。
1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。

6 ゴムクローラの取扱い

1 ゴムクローラ使用上の注意

ゴムクローラは材料特性上、多くの特長を備えています。取扱いを誤ると早期摩耗や破損をおこす場合があります。

1. ゴムクローラの張力（張り具合）

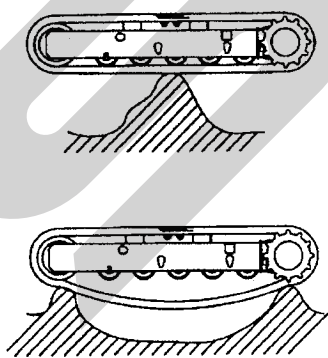
ゴムクローラは、張力の管理が必要です。張力が緩いと、走行中に脱輪（ゴムクローラが外れる現象）が発生しやすくなり、ゴムクローラの故障の原因になります。…「7-2-15 クローラの張りの点検」

2. 走行路面

- (1) 下記のような路面を走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生しやすいのでなるべく避けてください。やむを得ず走行する場合は、急発進、急停車、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。守らないと、クローラ損傷の原因となり寿命が短くなります。

碎石路面、凹凸の激しい固い岩盤、石の多い林道、切り株の上、鉄筋、鉄屑上

- (2) 下図のような断面形状の路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラの状態に注意しながらゆっくりと走行してください。



- (3) コンクリートの壁に、こすりつけて走行すると、ゴムクローラの端部に亀裂が発生しやすくなりますので注意してください。

3. 走行方向

- (1) 縁石のような大きな段差のある場所での旋回は避けてください。段差を乗り越えるときは、段差に対して直角に進入してゆっくり乗り越えてください。

- (2) 平坦地から傾斜地への進入は片側のクローラに大きな荷重がかかりますので旋回は避けてゆっくり走行してください
- (3) 片側のクローラを傾面に乗り上げた状態での長時間走行は避けてください。

4. 油類の付着防止

ゴムクローラに燃料や作動油が付着していないように気をつけてください。もし付着した場合、すぐにふき取ってください。

5. 塩分に注意

ゴムクローラを塩分の多い条件で使用すると、内部の芯金が腐食して、故障の原因になりますのでなるべく避けてください。やむを得ず使用される場合は、使用後によく水洗いをしてください。

6. 保管方法

機械を長期間使用せずに保管する場合は、なるべく直射日光を避けて、室内に保管してください。

7 点検整備について

点検・整備を毎日行うことにより、機械の性能を十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。

機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検・整備を行い、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプ・ラジエータホースなどの、ゴム類や電気配線は2年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。タイヤ、シャーボルト、ナイフ、トワイン等は消耗部品となっています。摩耗、または折損したときは交換補充してください。

▲ 注意

- 点検・整備をする時、エンジンを止めずに行うと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。
- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

1 点検整備一覧表

1. 走行部

○点検 ●交換

アワメータ表示時間	50 時 間 目	100 時 間 目	150 時 間 目	200 時 間 目	250 時 間 目	300 時 間 目	350 時 間 目	400 時 間 目	450 時 間 目	500 時 間 目	550 時 間 目	600 時 間 目
エンジンオイル交換	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ミッションオイル点検、交換	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○
HSTオイル点検、交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
走行モータ減速機オイル点検、交換	●	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○
エンジンオイルエレメントの交換	●				●				●			
油圧ラインフィルタの点検、交換						●						●
エアクリーナエレメントの点検、交換	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●	○	○
冷却水の点検	作業時毎に点検(1年毎に交換)											
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時											
燃料フィルタの交換					●					●		
バッテリー液の点検	作業時毎に点検											
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
燃料パイプの交換	2年毎に交換											
ラジエータホースの交換	2年毎に交換											
電気配線の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
冷却ファンベルトの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
HST駆動ベルトの点検	作業時毎に点検											
クラッチベルトの点検	作業時毎に点検											
作業機駆動ベルトの点検	作業時毎に点検											
ごみ、草などの堆積の点検、清掃	作業時毎に点検											
エアフィルタの点検、清掃	作業時毎に点検											
オイルクーラ・ラジエータの草詰まり点検	作業時毎に点検											

2. 作業部

時 間	点 検 項 目	処 置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
	Vベルトの張り	「7-2-17 Vベルトの張りの調整」に基づき調整
	ローラチェーンの張り	「7-2-18 ローラチェーンの張りの調整」に基づき調整
作 業 前 作 業 後	フライホイール部のシャーボルトのゆるみ、切断	増し締め・交換
	フライホイール部のシャーボルトブッシュのガタ	交換
	ギヤボックスのオイル量	「2-4 給油箇所一覧表」に基づき補給
	ギヤボックスのオイルのよごれ	「2-4 給油箇所一覧表」に基づき交換
	ギヤボックスのオイルもれ	Oリング・オイルシールの交換
	ピックアップ部のVベルトの張り	「7-2-17 Vベルトの張りの調整」に基づき調整
	タイン、ロータフラッシュ、クランプカバーの摩耗、破損	交換
	フォーク部のローラチェーンの張り	「7-2-18 ローラチェーンの張りの調整」に基づき調整
	フォークの曲がり、破損	交換
	フォーク部のシャーボルトのゆるみ、切断	増し締め・交換
	フォーク部のシャーブッシュのガタ	交換
	ノットドライブ部のローラチェーンの張り	「7-2-18 ローラチェーンの張りの調整」に基づき調整
	ノットドライブ部のシャーボルトのゆるみ、切断	増し締め・交換
	ガイドレールとプランジャのスキマ	「7-2-25 ガイドレールの調整」に基づき調整
	プランジャストッパ	「7-2-23 プランジャストッパの調整」に基づき調整
	プランジャ、チャンバナイフの刃のこぼれ	研磨
	プランジャ、チャンバナイフのスキマ	「7-2-24 プランジャナイフとチャンバナイフの調整」に基づき調整
	トワインの通し方	「1-3 トワインの通し方」に基づき調整
	トワインの結束状態	「4-3-1 結束の確認の方法」に基づき調整
	プランジャとフォークのタイミング	「7-2-28-1 プランジャとフォークのタイミング」に基づき調整
	ボルト・ナット・ピン類のゆるみ脱落	増し締め・部品交換
	回転部・可動部の給油	「2-4 給油箇所一覧表」に基づき補給
	駆動系の異常音・異常発熱・異常振動	「8-1 不調処置一覧表」に基づき処置
シーズン 終了後	破損部	補修
	タインなどの消耗部品	早目の部品交換
	各部の清掃	
	塗装損傷部	塗装または油塗布
	回動支点、ピン等の摩耗	部品交換

2 各部の調整

▲ 警告

- 点検整備の際、機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、クローラに車止めを行ってください。

▲ 注意

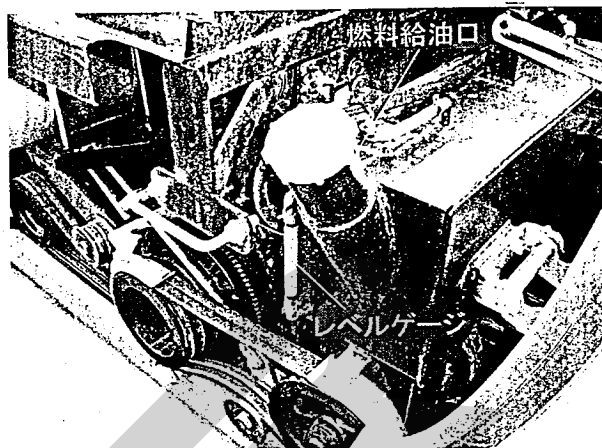
- 定期点検・整備を怠ると、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。半年毎に定期点検・整備を行い、各部の保守をしてください。特に燃料パイプ、ラジエータホースは2年毎に交換してください。
- 点検・整備をする時、エンジンを止めずに行うと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。
- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

1. 燃料の点検・給油のしかた

▲ 警告

- 給油口に火気を近づけると、燃料に引火し火災になる事があります。燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。
- 燃料を補給する際、こぼれた燃料が引火し、火災事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給した時は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- エンジンが熱を持った状態で注油・給油すると、燃料などに引火して、ヤケドや火災をおこすおそれがあります。エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

- (1) 燃料タンクのレベルゲージで残量を点検して少ないようでしたらボンネットを開き燃料キャップを外して給油口より補給してください。



取扱い上の注意

- タンク内の燃料が少ないと、斜面走行時に燃料切れをおこす可能性があります。早めに給油してください。
- 給油するときは、ゴミが入らないようフィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミが詰まったときはゴミを取除いてください。
- 外気温が -10°C 以下のとき、燃料は特号軽油を使用してください。燃料が流れなくなることがあります。

2. 各部オイルの点検・交換のしかた

▲ 危険

- エンジンが熱を持った状態で注油・給油すると、燃料などに引火して、ヤケドや火災をおこすおそれがあります。エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

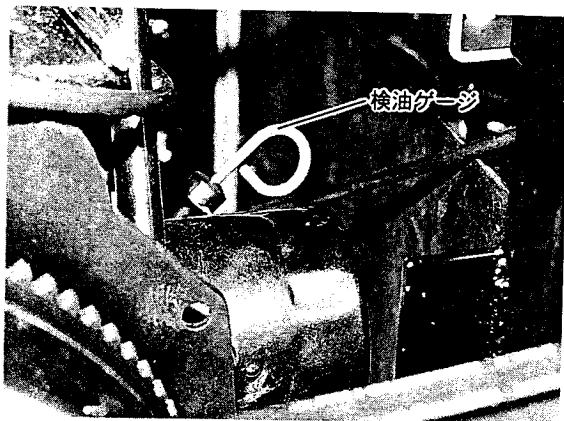
▲ 注意

- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります

(1) エンジンオイル

① 点検

サイドカバーを外して、エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージ上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



取扱い上の注意

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイルの量を点検するときは、水平なところにとめ、点検してください。

② 交換

エンジン下部のドレンプラグより排出してください。給油はエンジンの給油口からしてください。



(2) 油圧オイル

① 点検

ピックアップを下降させて、サイドカバーを外して、油圧タンクのレベルゲージの油面を確認してください。レベルゲージの2本の赤い線の間にお油面があるか調べます。不足しているときは、上面の給油口よりレベルゲージ規定量まで入れてください。



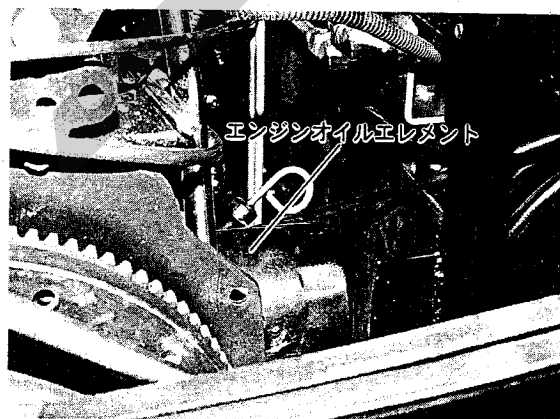
② 交換

作動油タンク下部のドレンプラグより排出してください。
給油は上部の給油口より入れてください。

3. 各部エレメントの交換のしかた

【エンジンオイルエレメント】

最初は50時間、2回目以降は200時間ごとにエレメントを取り替えてください。

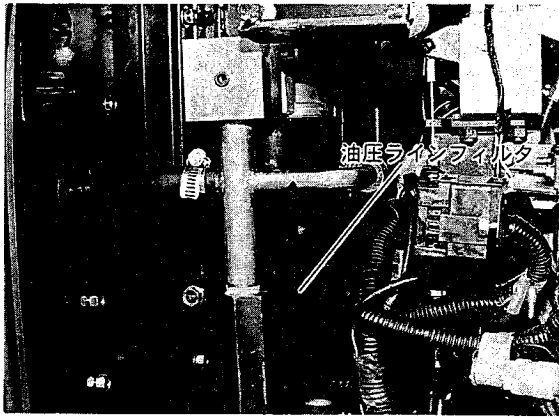


(1) 交換

- ① エンジンオイルを抜き取ったあと、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- ② 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、フィルタレンチで確実に取り付けてください。
- ③ エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
- ④ 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止して、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば補給します。

【油圧ラインフィルタ】

ラインフィルタはカートリッジタイプになっています。300時間ごとに交換してください。



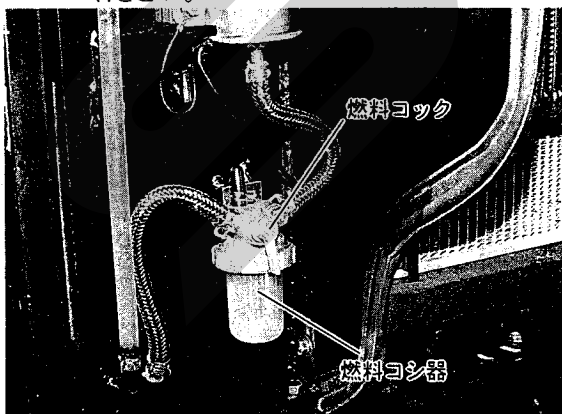
(1) 交換

- ① 作動油を抜き取ったあと、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。
- ② 新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、手で確実に取り付けてください。
- ③ 作動油交換後、エンジンをアイドルングにして、レベルゲージの油面を点検し、不足している場合は補給してください。

【燃料フィルタの清掃・交換】

(1) 交換

- ① 燃料コックを「OFF」(閉の状態)位置にします。
- ② コシ器を外し、コシ器内の水、ゴミを取り除きます。
- ③ コシ器の洗浄が終わったら元通りに取付け、燃料コックを「ON」(開の状態)位置にし、メインスイッチを「ON」位置にして燃料のエア抜きを行います。
- ④ 燃料フィルタは、250 時間ごとに交換してください。



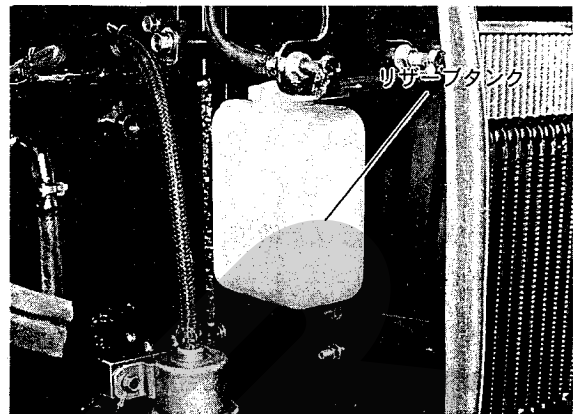
4. 冷却水の点検・交換のしかた

▲ 危険

- エンジン運転中や停止した直後などにキャップを開けると、熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。
ラジエータ液の温度が高いときは、絶対にラジエータキャップを開けないでください。

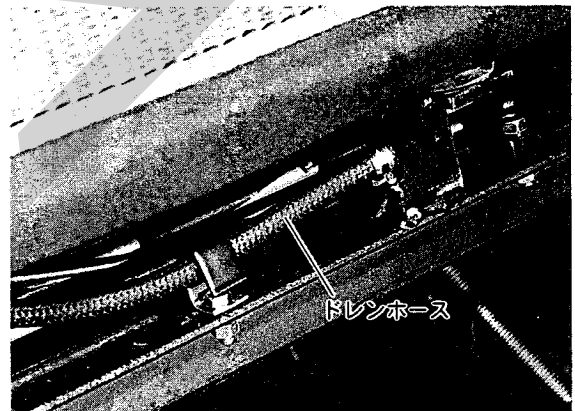
(1) 点検

サイドカバーを外して、リザーブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。不足しているときは、リザーブタンクの給水口より不凍液を補給してください。



(2) 交換

- ① ラジエータキャップを外し、ドレンホースを外して、ラジエータ内の水を全て抜きます。



- ② 水道水で、ゴミや錆がでなくなるまでラジエータ内部を洗います。

※ ラジエータ洗浄剤と混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はあっさりきれいになります。

- ③ ドレンホースを取付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れてください。
- ④ ラジエータキャップを取付け、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

不凍液の取扱いについて

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果を持っています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などにおいては次表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は外気温度-30℃としてあります。

不凍液混合比率表

外気温度	-5	-10	-15	-20	-25	-30
比 水(%)	82	73	66	61	55	39
率 不凍液(%)	18	27	34	39	45	51

取扱い上の注意

- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には清水だけを入れてください。(セミパーマナントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

5. 燃料の空気(エア) 抜きのしかた

燃料切れを起こし、エンジンが停止したときまたは、点検整備で燃料エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア) 抜きをしてください。

- (1) 燃料タンクに燃料を補給します。
- (2) 燃料コックを「ON」(開の状態)の位置にします。
- (3) メインスイッチを「ON」の位置にして、自動的に、燃料コシ器に燃料が満たされるのを確認します。

以上で空気(エア) 抜きは完了です。

6. エアクリーナエレメントの掃除と交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。50時間ごとに掃除・250時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても1年間でエレメントを交換してください。



(1) エアクリーナエレメントの掃除のしかた

- ① サイドカバーを外してください。
- ② クリップを外し、ダストカップを取外して中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落とします。フィンに傷をつけないよう気をつけてください。

7. バッテリーの・点検・整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

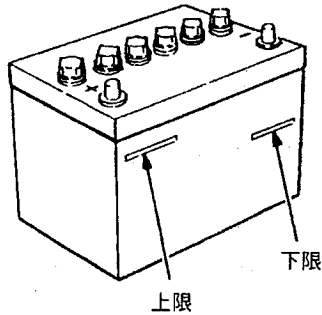
⚠ 警告

- バッテリー液が「下限(LOWER)」以下になると、容器内の極板留めがバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣類についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリーのショート等で、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。バッテリーを取り付ける時は+側を先に取り付け、取り外す時は一側から取り外します。

取扱い上の注意

- バッテリー各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した要領のバッテリーを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりしないでください。必ず、バッテリーを購入したお店に渡してください。資源としてリサイクルされます。

- (1) バッテリー液の点検・補給のしかた
各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



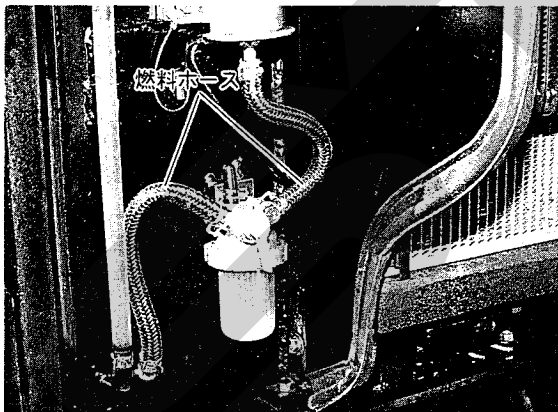
取扱い上の注意

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

8. パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプ、ラジエータホースなど傷んで燃料がもれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでいないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。



取扱い上の注意

燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。

9. 電気配線の点検について

⚠ 警告

- 電気部品・コードがショートして、火災事故をおこすおそれがあります。配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

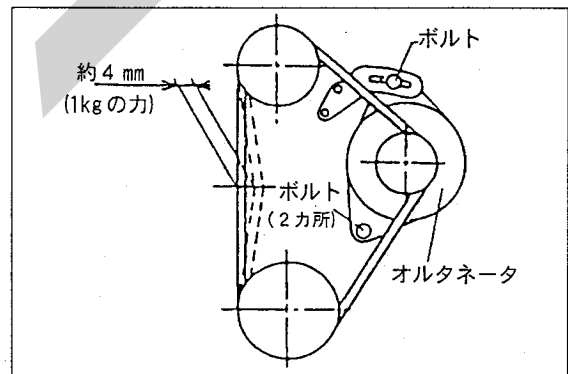
- バッテリーや配線に草やゴミを付着したままにしておくと、ショートして火災をおこすおそれがあります。バッテリーや配線に付着している、草やゴミは作業前、作業後にきれいに除去してください。

10. ファンベルトの点検・整備について

⚠ 注意

- エンジンが熱を持った状態で行うと、ヤケドを負うおそれがあります。エンジンが十分冷えた状態で行ってください。

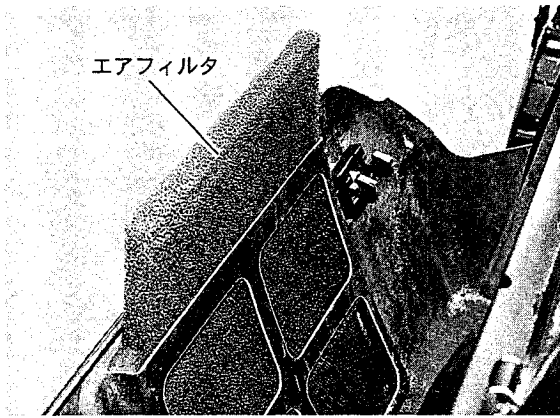
ボンネットを開け、天板を外して、ファンベルトの中間を指で押さえ、ベルトのたわみが、約4mmあるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときはオルタネータ締付けボルトをゆるめ、オルタネータを移動させて張りを調節します。また、オルタネータをいっぱい動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。



11. エアフィルタの点検・掃除のしかた

エアフィルタはボンネット内部と左サイドカバー内部に装着してあります。吸入された空気に含まれている、砂塵を取りエンジン関係の冷却をおこなっています。定期的に点検・清掃してください。

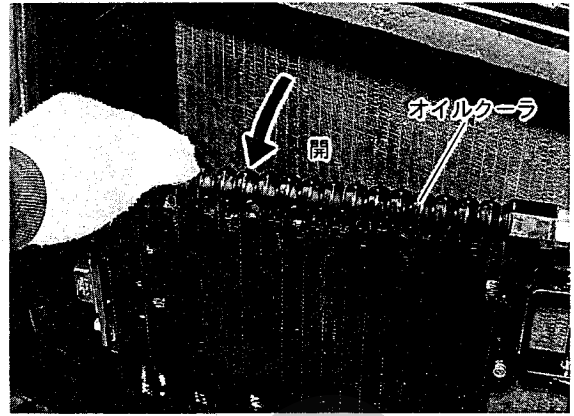




(1) エアフィルタの掃除のしかた

ボンネットを開けると内部に4箇所装着してあります。また、左サイドカバー内部に1箇所あります。フィルタを外し空気を吹き付けるか、振動を与えて付着しているホコリ、ゴミ等を取り除いてください。

なお、エアフィルタが破損しているときは速やかに新品と交換してください。



12. ラジエータ・オイルクーラ部の掃除について

▲ 警告

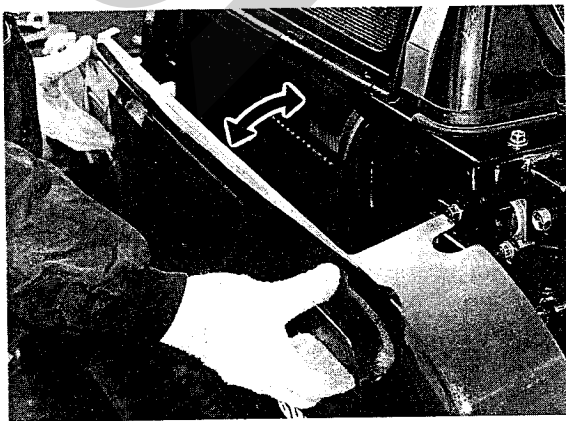
- カバー内部のゴミなどにより、火災をおこすおそれがあります。ゴミや草などがたまっていたり巻き付いていたら取り除いてください。特にVベルト回りやエンジン回りに堆積したゴミなどはすみやかに取り除いてください。

オイルクーラ、ラジエータにゴミなどが付着していると、オーバーヒートの原因となります。

作業前、作業後には必ず点検してください。また、作業条件によっては作業中にも点検してください。

(1) ラジエータ、オイルクーラ部の掃除のしかた

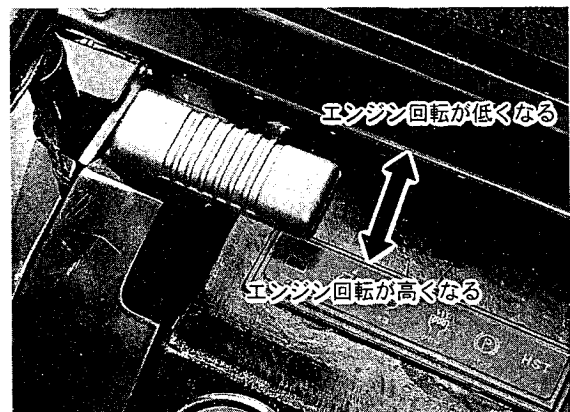
- ① 左側サイドカバーを取り外します。
- ② オイルクーラフィンに目詰まりしたゴミなどを取り除きます。
- ③ オイルクーラを手前に開きます。
- ④ ラジエタスクリーンを上部に引き上げ、ゴミ等を取り除きます。



13. 運転レバーの点検について

▲ 警告

- 操作レバーに問題があった場合、正常な走行ができず事故を起こしたり、機械を破損させる原因になります。走行レバーやその他のレバー類に著しいガタや遊びがないか、また、草、枯葉、粉塵等のつまりによる操作系の傷害がないか点検してください。



運転レバーを操作して、正常に動くか点検してください。

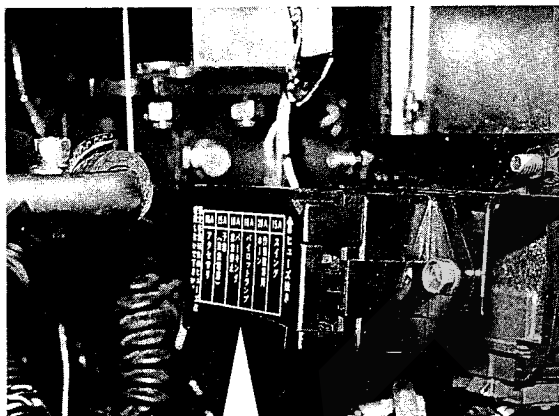
平坦地でレバーを動かし、レバーから手をはなしたら「中立」の位置で止まり、車両も停止すれば正常です。運転レバーを動かし異常がある場合は、作業を行わずに、購入先、または弊社営業所にお問い合わせください。

14. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換について

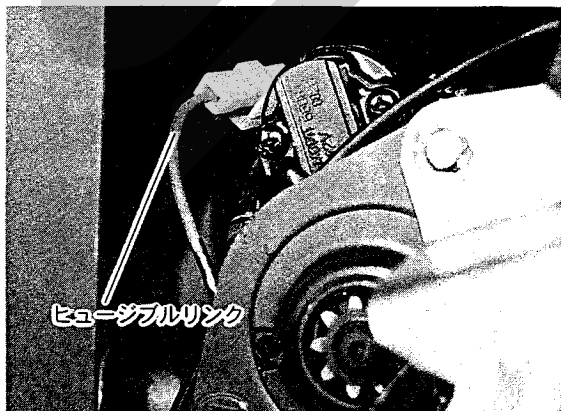
ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

また、エンジンを停止して、メインヒューズ（ヒューズブルリンク）を点検してください。

ヒューズブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被（ビニール）が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。



5A	15	10	5A	10	
アクセサリ	予備 (取り出し電源)	安全スイッチ	パイロットランプ	ホーン	作業機昇降



ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

取扱い上の注意

ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。

15. クローラの張りの点検について

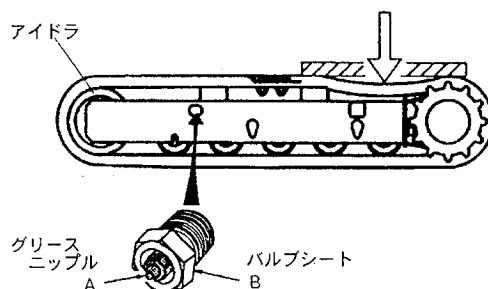
警告

- ゴムクローラに張力がかかっている時は、グリスシリンダ内部の高圧グリスによりバルブシートが飛び出す危険があります。バルブシートを12回転以上ゆるめないでください。また、グリスニップルは外さないでください。
- 顔や体をバルブシートBの正面に向けしないでください。
- ゴムクローラの左右の張りを等しくしてください。
- ゴムクローラを張りすぎると走行力が減少することがあります。

(1) ゴムクローラの張りの点検

作業前、作業後にクローラの張り具合を点検し、必要に応じて調整してください。

- ① 車両を平坦で安定した場所に停止してください。
- ② 駆動プロケットと上部クローラガイド間に約5cmの角材を渡し、クローラ中央部に人(60kg)を乗せた時に、角材とクローラ間の隙間が8mmから13mmあるか点検してください。



(2) ゴムクローラの張りの調整

張りを強くするとき

- ① “A”のグリスニップルに張りが適正になるまでグリスを注入します。
- ② 車両を前後進させた後、張りの確認をしてください。
- ③ 適正な張りになっていなければ、もう一度調整してください。
- ④ グリスを注入しても張りがゆるいときは、シリンダシールの交換、またはゴムクローラの交換が必要です。

張りをゆるめるとき

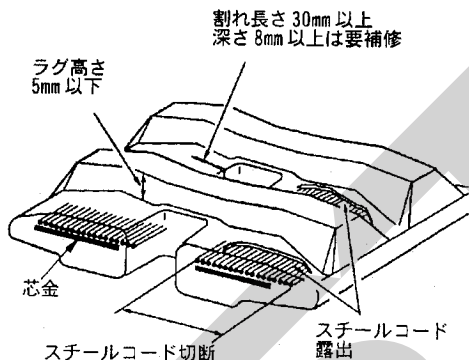
- ① 足まわりに付着している泥などを取り除いてください。
- ② “B” のバルブを 10~12 回転(15~18 mm) ゆるめ内部のグリスを排出してください。
- ③ バルブシートを締付けてください。
- ④ 車両を前後進させた後、張りを確認してください。
- ⑤ 適正な張りになっていなければ、もう一度調整してください。

(3) クローラの交換

クローラの交換は、“B”のバルブをゆるめてシリンダ内部のグリスを排出して、アイドルを後方へスライドさせ、ジャッキ等でクローラ部を地上より浮かして取外してください。交換後、クローラを接地させてから張りを調整してください。

(4) クローラの点検

ゴムクローラがつぎの状態になったら補修または交換が必要です。購入店または、弊社営業所に依頼してください。



① ラグの高さ

摩耗が進行してもゴムクローラは使用可能ですが、滑りやすくなるだけでなく、けん引力が低下してきますので、残りのラグ高さが、5mm以下になったら新品と交換してください。

② スチールコードの露出

ゴムの摩耗や損傷によりスチールコードが露出した場合は、新品と交換してください。

③ ゴムクローラのスチールコードの切断

スチールコードの切断があるときは、すみやかに交換してください。放置すると、作業中に予告なしにゴムクローラが切れ、大きな事故の原因になります。

④ カバーゴムの傷の補修

傷の長さ 30 mm以上、深さ 8 mm以上あるときは、補修をしてください。

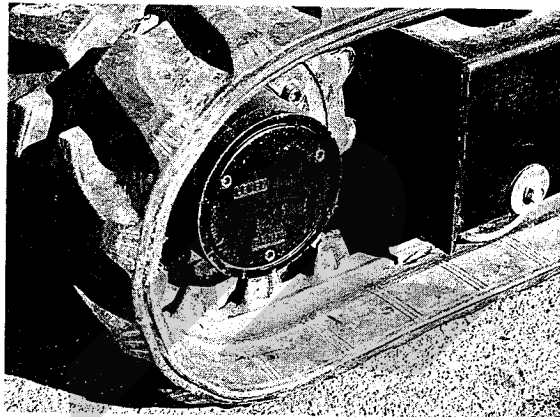
傷の大きさは小さくてもスチールコードが見えるときはすみやかに補修をしてください。放置すると水が浸入してスチールコードが錆びてゴムクローラが切断することがあります。

⑤ ゴムクローラ芯全の離脱

ゴムクローラの芯全が1箇所以上離脱したものは新品と交換してください。

16. 走行モータ減速機オイルの点検・交換のしかた

(1) 走行モータ減速機オイルの点検



- ① 走行モータ減速機カバーの外側にあるドレンプラグを下方の位置にしてください。
- ② 六角レンチを使用して、オイルレベルプラグを外し、オイルがレベル位置まであるか点検してください。
- ③ オイルが不足している場合は、給油プラグより補給して、レベルプラグ穴よりオイルがこぼれるまで入れてください。

(2) 走行モータ減速機オイルの交換



- ① 減速機カバーの外側にあるドレンプラグを下方の位置にしてください。
- ② 排油受を入れ、六角レンチを使用し、ドレンプラグとオイルレベルプラグを外し排油してください。
- ③ 給油穴からギヤオイルを規定量入れてください。
- ④ オイルがレベル穴から出たら、プラグを締付けてください。

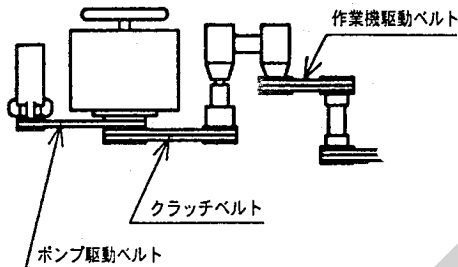
使用オイル	容量
ギヤオイル SAE 90 API GL-5	0.33ℓ

17. Vベルトの調整のしかた

警告

- 点検・調整をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」にして、回転部が止まってから行ってください。守らないとケガをするおそれがあります。
- 取外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりして危険ですので、必ず取付けて作業してください。

(1) 各ベルトのサイズ



●ポンプ駆動ベルト

バンドー レッドS SB52
三ツ星 オレンジ LB52

●クラッチベルト

バンドー AG6A SB48
三ツ星 W800 LB48

●作業機駆動ベルト

バンドー 標準 SB70
三ツ星 標準 LB70

●フライホイール駆動ベルト

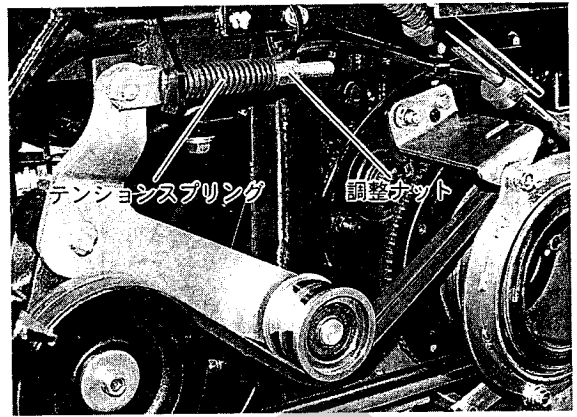
三ツ星 オレンジ LB81
三ツ星 マルチウェッジベルト; 4R-5V-900

●ピックアップドライブ駆動ベルト

三ツ星 オレンジ RB67

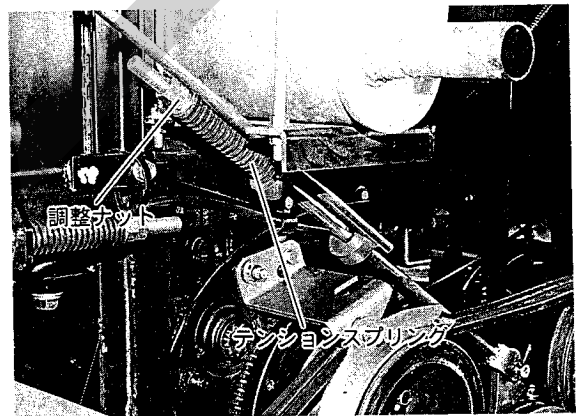
(2) ポンプ駆動ベルトの点検・調整

- ① サイドカバー（右）を外して行います。
- ② 作業機クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認してください。
- ③ テンションスプリングの長さが 83～85 mm あれば適正です。
- ④ 長い場合は、ダブルナットをゆるめスプリング側のナットを締め込み 83～85 mm になるところでダブルナットによりロックしてください。



(3) クラッチベルトの点検・調整

- ① サイドカバー（右）を外して行います。
- ② 作業機クラッチレバーを「入」にした状態でテンションスプリングの長さが、83～85 mm あれば適正です。
- ③ 長い場合は、ダブルナットをゆるめスプリング側のナットを締め込んで 83～85 mm になるところでダブルナットによりロックしてください。



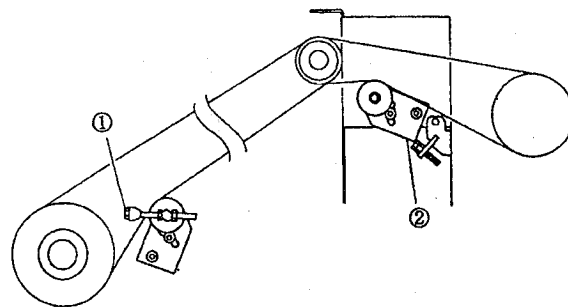
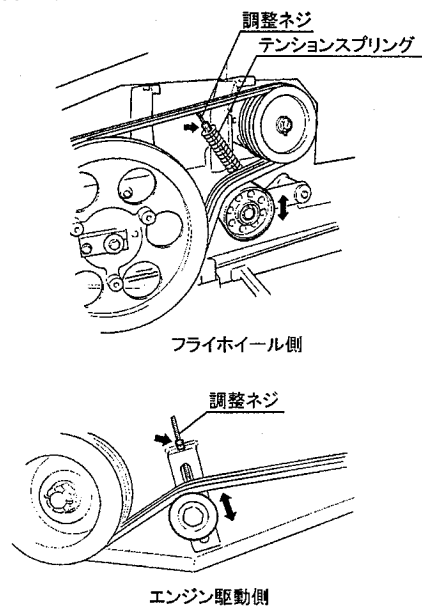
(4) 作業機駆動ベルトの点検・調整

- ① ベルトカバーを外して行います。
- ② 張り側のベルトの中間を指で押さえ、(約 1 kg) ベルトのたわみが約 5～7 mm あるか調べてください。
- ③ たわみが多い場合は、テンションローラ内のボルト、ロックナットをゆるめ、ロックナット下側のナットを締め込むことにより張りを調整します。
- ④ 張り調整後、ロックナットおよびボルトを締め付けてください。

(5) フライホイール駆動ベルトの点検・調整

- ① フライホイール側面のカバー及びエンジン駆動側のカバーを外して行います。
- ② 張り側のベルトの中間を指で押さえ、(約 1 kg) ベルトのたわみが約 5～7 mm あるか調べてください。

- ③ たわみが多い場合は、テンションローラ内のボルト、ロックナットをゆるめ、ロックナット下側のナットを締め込むことにより張りを調整します。
- ④ 張り調整後、ロックナットおよびボルトを締め付けてください。



取扱い上の注意

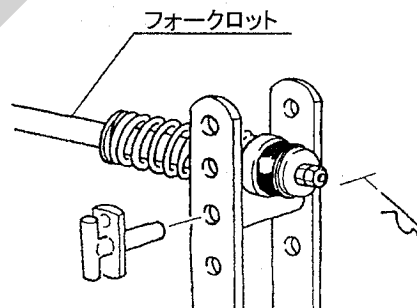
ローラチェーンの張りが適正でない場合、各部のタイミングがずれ、作業機の破損の原因になることがあります。
適正な調整をしてください。

19. フォークの調整

チャンバ（圧縮室）への草の送り込みをするフォークの動きは、梱包の成形状態に大きく影響します。

(1) 変形梱包発生時の調整

変形梱包が発生した時は、フォークの動きをフォークロットの位置を変えることにより調整してください。

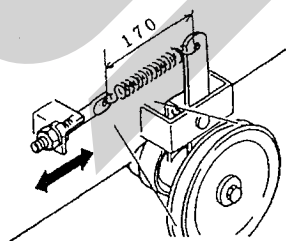


- ① 本機の後方から見て、右側の密度が高く、左側の密度が低い変形梱包が発生した時は、フォークロットの位置を下にしてください。
(長い草やわらの時、発生しやすい。)
(変形梱包の状況)

(6) ピックアップドライブ駆動ベルトの点検・調整

ピックアップドライブのVベルトは、多量の草を拾い上げたり、ピックアップに過大な負荷が発生した時、スリップします。

- ① フライホイール側面のカバーを外して行います。
- ② 作業機クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認してください。
- ③ テンションスプリングの長さが170 mmあれば適正です。
- ④ 長い場合は、ダブルナットをゆるめスプリング側のナットを締め込み170 mmになるところでダブルナットによりロックしてください。

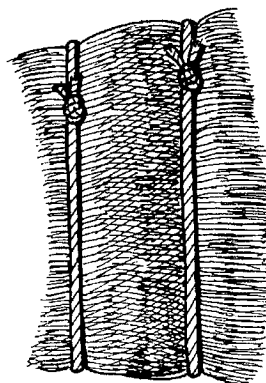


18. ローラチェーンの張りの調整

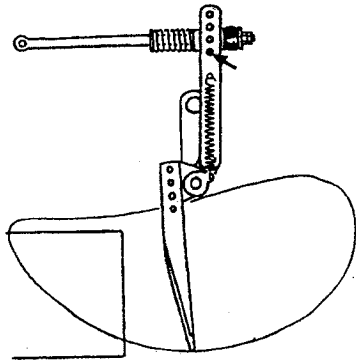
フォーク及びノッタ駆動のローラチェーンは、一定時間使用すると伸びが出ます。

使用始め1時間後と30時間ごとに、ローラチェーンの張りを点検してください。

ローラチェーンの張りの弛み量が5~10 mmになるよう、テンションボルト①及び、テンションアーム②によって張りを調整してください。

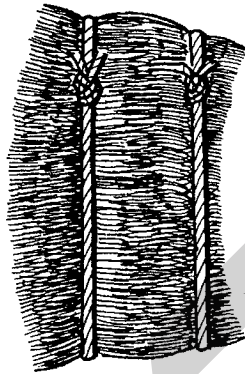


(調整方法)

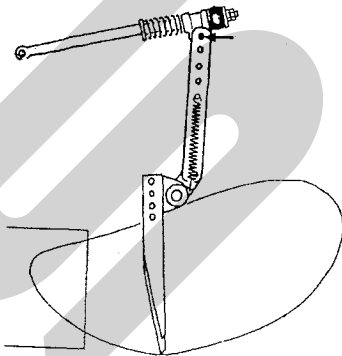


- ② 本機の後方から見て、左側の密度が高く、右側の密度が低い変形梱包が発生した時は、フォークロットの位置を上にご覧ください。(短い草や水分の高い時、発生しやすい。)

(変形梱包の状況)

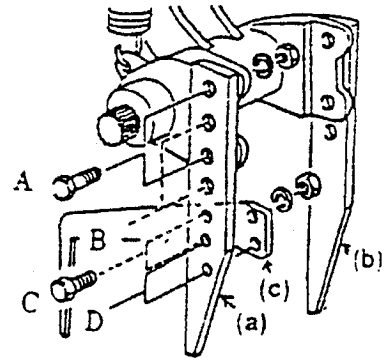


(調整方法)



なおかつ調整しきれない高水分の牧草および切ワラ (12 cm以下) の時は、フォーク (a) (b) をAの穴からBの穴へと取付けを変える事でさらに調整できます。

このとき、フォーク (c) はDの穴へ取付けてください。

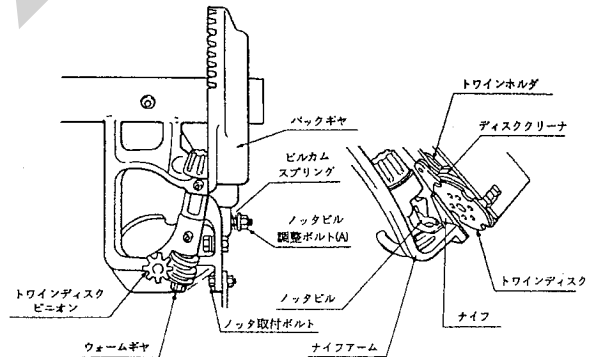


取扱い上の注意

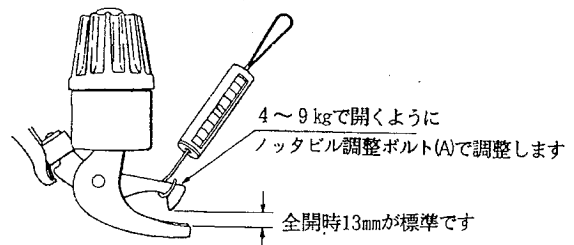
- フォーク (c) をDの穴へ取付けた状態でフォーク (a) をAの穴へ取付けると、フォーク (c) がボトムプレートに当たります。フォーク (a) をAの穴へ取付けた時は必ずフォーク (c) をCの穴へ付け替えてください。
- フォークロットを調整しても、梱包が正常にならない時は、エンジン回転速度、作業速度、集草状態のいずれかが原因です。エンジン回転速度、作業速度、集草状態を調整してください。

20. ノッタの調整

(1) ノッタの各部の名称



(2) ノッタピルの調整

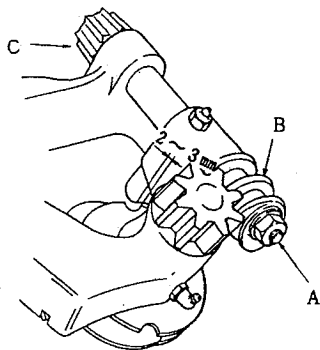


(3) トワインディスクの調整

トワインがない状態でトワインホルダとトワインディスクのノッチ部の重なりが2~3mmが標準です。

調整は

- ① ボルトAを緩めます。
- ② ウォームギヤ端Bを軽くたたいてゆるめます。
- ③ 適正位置にします。
- ④ ベベルギヤ端Cを軽くたたきながらボルトAをしめます。
- ⑤ この時ベベルギヤの軸方向のクリアランスは0.4mmであることを確かめてください。



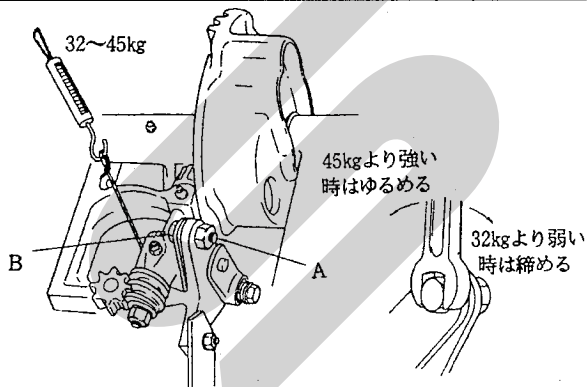
(4) トワインホルダの調整

図の状態でトワインをで引張った時 32~45 kgでぬけるのが標準です。トワインの保持力は弱すぎても強すぎてもいけません。

調整は、ナットAをゆるめボルトBで調整します。

取扱い上の注意

ホルダ圧力はトワインの種類や梱包密度に応じて調節の必要があります。



(5) ナイフアームの調整

ノッタビルに軽く接触して作動します。

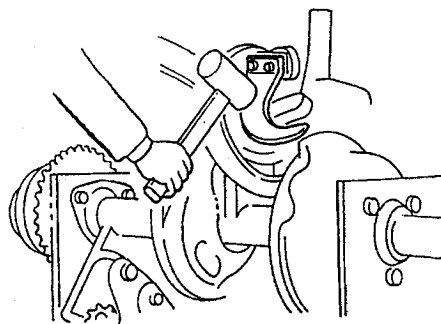
間隔がある時は調整してください。

ノッタ取付ボルトをはずし、ノッタを上へ押し上げます。

ノッタビルとスクレーパが軽く接触する様ハンマーでたたき曲げます。

ノッタを下げてノッタ取付ボルトを締めつけます。

ナイフの切れが悪くなったときは刃を研磨してください。

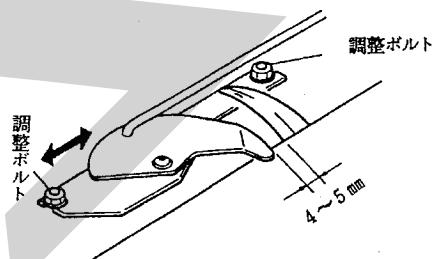


21. トワインフィンガーの調整

- (1) ノッタを作動状態にし、フライホイールを手で回し、トワインフィンガーがニードルに最も近づいた時、フィンガー先端とニードルの間隔は4~5mmが標準です。

調整要領

フィンガー取付ブラケットの前・後の取付ボルトを緩め、ブラケットを前又は後へスライドさせニードルとの間隔を調整します。

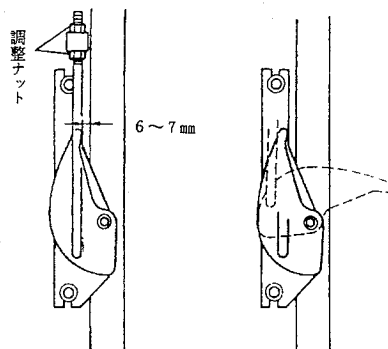


- (2) ノッタ停止状態でトワインフィンガーの停止位置はニードル溝から6~7mm又はフィンガーブラケット右端と同一が標準です。

調整要領

フィンガーロッドの長さを調整ナットにより調整します。

- (3) トワインフィンガーがノッタのカムにより最高に作動した時下図のようなか又所定の位置に戻るか確認してください。



取扱い上の注意

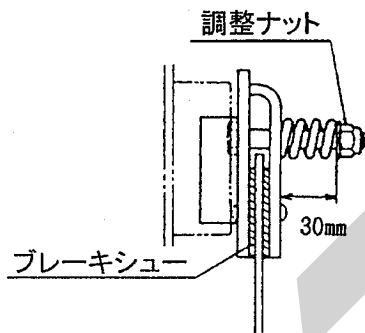
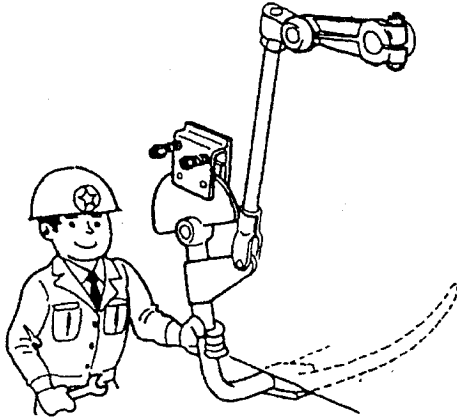
塗料やゴミ等によってスムーズに作動しない事がありますので給油や清掃は時々行ってください。

22. トワインフィンガーの調整

ノッタブレーキは常に適度に作用していなければなりません。

調整要領

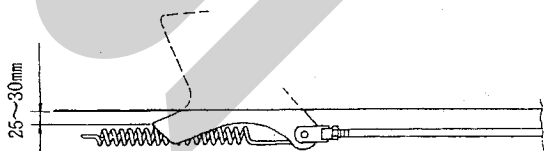
ノッタを作動状態とし、図の位置までニードルを作動させ、ニードルヨークを手で動かして約10~15 kg程度で動くようにブレーキの調整ナットにより調整します。



23. プランジャストッパの調整

ニードルが完全に戻った状態でチャンバ側面と25~30mmの間隔があるのが標準です。

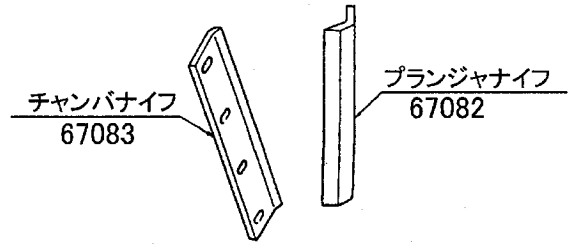
調整はナットを緩めて、ロッドの長さで調整してください。



24. プランジャナイフとチャンバナ이프の調整

警告

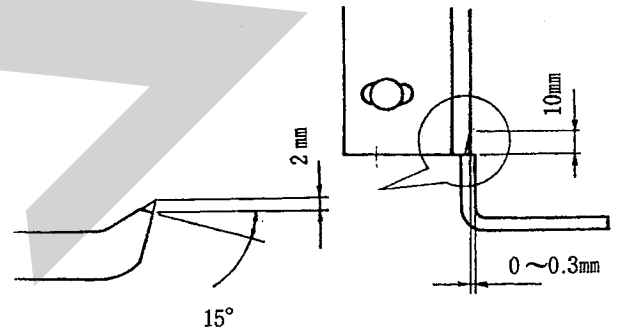
- ナイフを調整する時、不意にプランジャが動き、ケガをする事があります。プランジャを動かさないように固定してください。



プランジャナイフとチャンバナ이프の切味は、ナイフとナイフの間隔で左右されます。

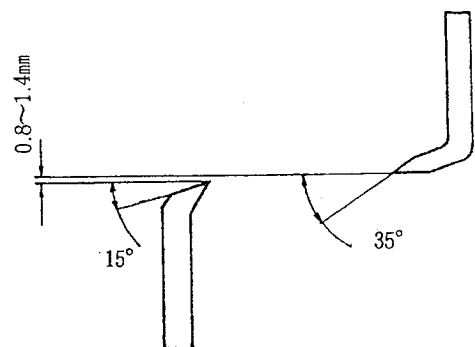
ナイフを研磨した場合、およびプランジャレールを調整した場合プランジャナイフとチャンバナ이프にぶつからないようにするため必ず調整してください。

- (1) チャンバナ이프のボルトをゆるめガイドレールより0~0.3 mmさがっている事を確認して、チャンバ側面と平行になるよう合わせ、しっかりと締付けます。



- (2) つぎにプランジャナイフのボルトをゆるめ、チャンバナ이프との間隔が0.8~1.4 mm (約ハガキ3~5枚)に調整してからしっかりと締付けてください。

ナイフの切味が低下したら余分な動力を必要とするばかりでなく作業機の破損事故にもつながります。約5,000 梱包ごとに刃を図の角度と面を維持して研磨してください。



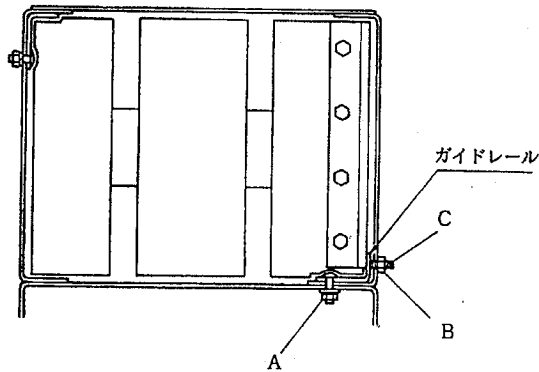
- (3) またナイフの予備品を備えておくことにより、ふいのトラブルにも時間をついやすことがなく、スムーズな作業ができます。

25. ガイドレールの調整

長期間使用のためプランジャに遊びが生じて、梱包がきれいに分離されない時に調整してください。ガイドレールの調整は次のように行ってください。

ナットA、Bをゆるめプランジャローラが当たるまでボルトCを締め込んでください。この時必ずプランジャを動かして、ローラの位置のボルトを締め込んでください。

その後A、Bのナットを締め付けてください。

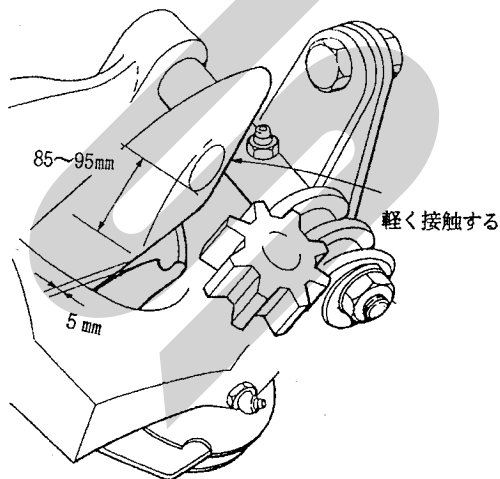


26. ニードルの調整

ニードルを作動状態にし、フライホイールを手で回します。

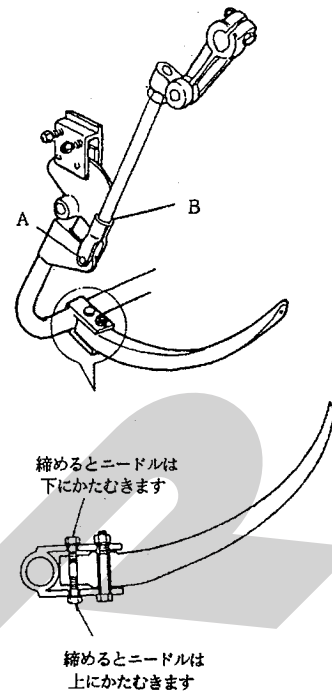
ニードルが完全に上った時、穴の端とトワインディスクの間隔は85~95mmが標準です。

またニードルは上った状態でノッタフレームに軽く接触しトワインディスクとの間隔は5mmが標準です。



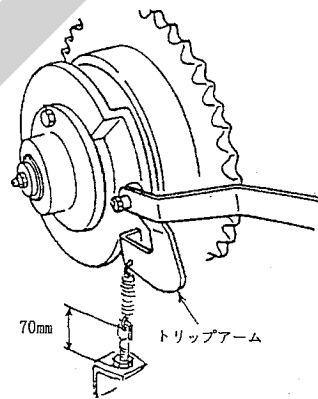
調整要領

- (1) フォークエンドのピンをぬきナットをゆるめて調整します。
この時ニードルが完全に戻った時、ニードルの先端がチャンバ内でない事を確認します。
- (2) ニードルとトワインディスクとの間隔等はニードルの取付部のボルトの調整で行います。



27. トリップアームの調整

トリップアームのスプリングの取付寸法はスプリングホルダの長さが70mmが標準です。



28. タイミングの調整

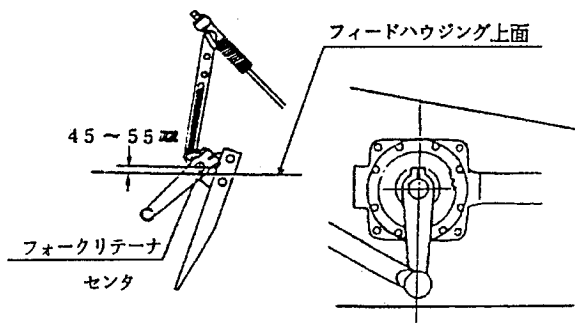
各部のタイミングが正しいかどうかは、本作業機を使用する上で最も重要なポイントになります。万一の故障などによって駆動系統の部品（ギヤ、シャフトなど）を交換した場合などの時、次の要領に従って点検と調整を行ってください。

(1) プランジャとフォークのタイミング

警告

- フォークのタイミングを調整する時、不意に回転し手が巻き込まれ、ケガをする事があります。
フォークを動かないように固定してください。

クランクアームが下向きに垂直な位置にあるときにフォークのフォークリテーナセンタがフィードハウジング上面より45~55mmになるよう調整してください。

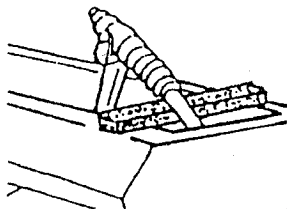


取扱い上の注意

タイミングが適正でない場合、フォークとプランジャが衝突し各部を破損する場合があります。

タイミングの調整要領

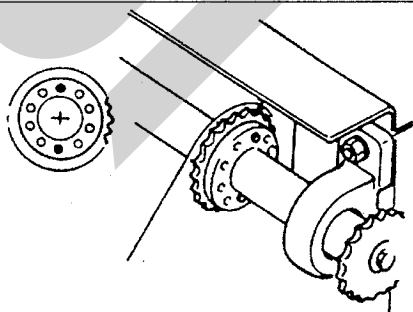
- ① フライホイールを手で回しクランクアームを下向きに垂直にします。
- ② 角材等でフォークロットを固定します。



- ③ カウンタジクとスプロケットを固定しているボルト（2本）をはずします。
- ④ フォークのフォークリテーナセンタをフィードハウジング上面より 45~55 mmの寸法に合わせ固定ボルトを締めてください。

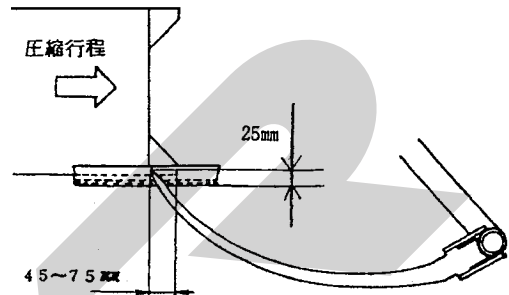
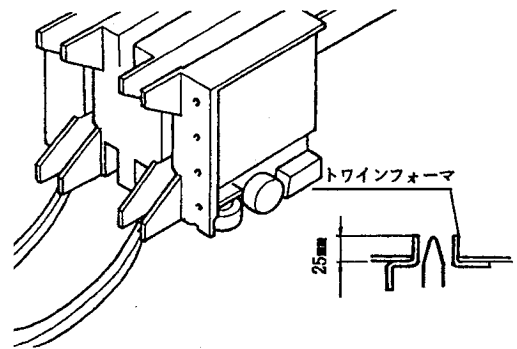
取扱い上の注意

カウンタジクには10ヶ所、スプロケットには12ヶ所の穴があいています。ボルト穴は2ヶ所しか合いません



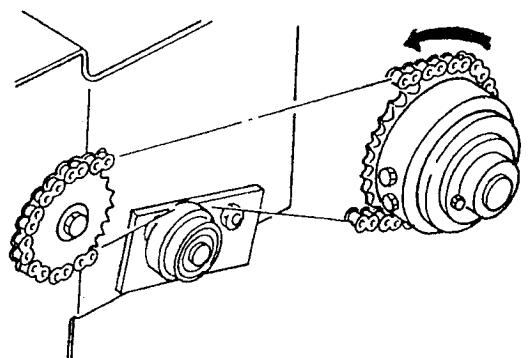
(2) プランジャとニードルのタイミング

ニードルがチャンバ下面から 25 mm出ている位置（トワインフォーマと同一の高さ）にある時、プランジャ先端（圧縮行程）との重なりが 45~75 mm（60 mmが標準）になるよう調整してください。



タイミングの調整要領

- ① メジャーホイールを手で回し、ノッタを作動状態にします。
- ② フライホイールを手で回し、ニードル先端をチャンバ下面から 25 mm（トワインフォーマと同一の高さ）の位置にします。
- ③ ノッタドライブのチェーンをはずしてください。
- ④ フライホイールを手で回し、プランジャの先端がニードル先端から 45~75 mm すぎた位置で止めてください。この調整は必ずプランジャの圧縮行程で行ってください。
- ⑤ ノッタ部のスプロケットを手で矢印の方向に回し、止まったところでチェーンを合わせてください。



- ⑥ もう一度ノッタ作動状態にして、タイミングを確認してください。
- ⑦ テンションローラによってチェーンをはってください。

8 不調時の対応

万一、機械の調子が悪い場合は、必ずエンジンをとめ、不調処置一覧表により処置をしてください。

▲ 警告

- フォークのタイミングを調整する時、不意に回転し手が巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
フォークを動かないように固定して行ってください。
- ナイフを調整する時、不意にプランジャが動き、ケガをすることがあります。
プランジャを動かないように固定して行ってください。

▲ 注意

- 点検・整備をする時、エンジンをとめずに行くと、第三者の不注意により、不意に機械が動き出し、下敷きになるなど、傷害事故を起こすおそれがあります。
点検・整備・修理または、掃除をする時は、必ずエンジンを停止してください。
- カバーを外したまま作業すると、機械に巻き込まれるなどの傷害事故をおこすおそれがあります。
点検・整備などで取外したカバー類は必ず取り付けてください。

1 不調処置一覧表

1. 走行部

(1) エンジン関係

症 状	原 因	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない	作業機クラッチが「入」になっている	作業機クラッチを「切」にする
	駐車ブレーキスイッチが「解除」になっている	駐車ブレーキスイッチを「ロック」にする
	安全スイッチが抜けている	安全スイッチを差し込む
	バッテリー液が規定量入っていない、または放電している	「7-2-7 バッテリーの点検・整備」に基づき調整
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、または腐食はしている	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆する
	メインヒューズ(ヒューズブルリンク)が溶断されている	「7-2-14 ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換」に基づき交換
	キースイッチが故障している セルモータが故障している	サービス工場での修理、交換
スタータは回るがエンジンが始動しない	燃料タンクに燃料が入っていない	満タンに補給する
	燃料にエアが混入している	「7-2-5 燃料の空気(エア)抜き」に基づき調整
	燃料コックが「OFF」の位置になっている	燃料コックを「ON」の位置にする
	ストップソレノイド系のヒューズが切れている	「7-2-14 ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換」に基づき交換
エンジンが不規則に回転する	燃料系統にエアが混入している	「7-2-5 燃料の空気(エア)抜き」に基づき調整
	燃料に水が混入している	水を抜き、新しい軽油と交換
	燃料フィルタが目詰まりしている	「7-2-3.3 燃料フィルタの清掃・交換」に基づき清掃
	噴射ノズルが詰まっていますか	修理、または交換

症 状	原 因	処 置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	エアフィルタが目詰まりしている	「7-2-11 エアフィルタの点検・掃除」に基づき掃除
	冷却水が不足している	「7-2-4 冷却水の点検・交換」に基づき補給
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	ラジエータフィンが目詰まりしている	「7-2-12 ラジエータ・オイルクーラー部の掃除」に基づき清掃
	エンジンオイルが不足している	「7-2-2 各部オイルの点検・交換」に基づき補給
	ファンベルトがゆるんでいる、また破損している	「7-2-10 ファンベルトの点検・調整」に基づき調整
	過負荷運転	ベールスプリングプレスを緩め梱包密度を下げる
エンジンの力が出ない	アクセルレバーが最高回転位置になっていない	最高回転位置にする
	エアクリーナが目詰まりしている	「7-2-6 エアクリーナエレメントの掃除と交換」に基づき清掃・交換
	足回りに異物が引っ掛かっている	点検、排除
	クローラが張りすぎている	「7-2-15 クローラの張りの点検」に基づき調整
	駐車ブレーキスイッチが「ロック」になっている	駐車ブレーキスイッチを「解除」にする
運転中にエンジン油圧 パイロットランプが点 灯した	エンジンオイル量が少なくなっている	「7-2-2 各部オイルの点検・交換」に基づき補給
	エンジンオイルの粘度が低い	「2-3 オイル、グリス、不凍液について」に基づき交換
	プレッシャスイッチが故障している	スイッチを交換する
運転中にチャージパイ ロットランプが点灯し た	レギュレータが故障している	サービス工場での修理
	ファンベルトのゆるみ、または破損している	「7-2-10 ファンベルトの点検・調整」に基づき調整または、交換

(2) 走行関係

症 状	原 因	処 置
車速が上がらない	アクセルレバーが最高回転位置になっていない	最高回転位置にする
	ポンプ駆動ベルトがゆるんでいる	「7-2-17 Vベルトの張りの調整」に基づき調整
	作動油タンクの油が規定量入っていない	「7-2-2 各部オイルの点検・交換」に基づき補給
	足回りに異物が引っ掛かっていますか	点検、排除
	クローラが張りすぎている	「7-2-15 クローラの張りの点検」に基づき調整
	駐車ブレーキスイッチが「ロック」になっている	駐車ブレーキスイッチを「解除」にする

(3) クラッチ関係

症 状	原 因	処 置
クラッチを入れても作 業機が回転しない	作業機系駆動ベルトのゆるみ、または破損している	「7-2-17Vベルトの張りの調整」に基づき調整

(4) 油圧関係

症 状	原 因	処 置
ピックアップが上がらない	作動油タンクの油が規定量入っていない	「7-2-2 各部オイルの点検・交換」に基づき補給
	エンジン回転が低い	アクセルレバーを最高回転にする
	作業機昇降用のヒューズが切れている	「7-2-14 ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換」に基づき交換
	ポンプ駆動ベルトがゆるんでいる	「7-2-17Vベルトの張りの調整」に基づき調整
	吸い込みパイプ系統からエアの吸い込み	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換
	スイッチが故障している	スイッチを交換する
	油圧ラインフィルタが目詰まりしている	「7-2-3.2 油圧ラインフィルタ」に基づき交換
	油圧ポンプが故障している	サービス工場での修理
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか	サービス工場での修理
	シリンダが破損していませんか	サービス工場での修理
ピックアップタインが下がらない	スイッチが故障している	スイッチを交換する
	コントロールバルブがゴミを噛んでいませんか	サービス工場での修理
	シリンダーが破損していませんか	サービス工場での修理
運転中にHST油圧警告ランプが点灯した	作動油タンクの油は規定量入っていますか	「7-2-2 各部オイルの点検・交換」に基づき補給

(5) クローラ関係

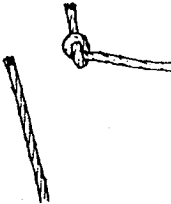

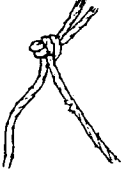
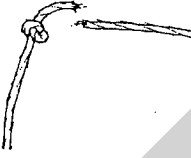

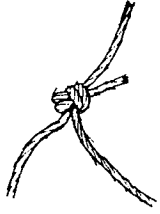
症 状	原 因	処 置
クローラがすぐ外れる	足回りに異物が引っ掛かっている	点検、排除
	クローラが張りすぎている	「7-2-15 クローラの張りの点検」に基づき調整
	クローラに著しい損傷はありませんか	「7-2-15 クローラの張りの点検」に基づき点検、交換
	ロアローラ、アイドルが回転していない	点検
	凸凹の激しい路面で旋回している	平地で旋回するようにする

(6) 電装関係

症 状	原 因	処 置
パイロットランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか	電球を交換する
	ヒューズが切れている	「7-2-14 ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換」に基づき交換
	配線の接続がよくない	点検し確実に接続する
	スイッチが故障している	スイッチを交換する
	アースの状態がよくない	アース線を確実に本体に締め付ける
	バッテリーが放電している	「7-2-7 バッテリーの点検・整備」に基づき調整
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れている	「7-2-14 ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換」に基づき交換
	ホーンスイッチの接続がよくない	ホーンスイッチの確認

2. 作業部

(1) 結束ミスの原因と処置

症 状	原 因	処 置
 <p>ホルダ側(上糸)だけ結び目を作り片側が抜ける</p>	①トワインボックスからニードルまでの通し方がまずい ②トワインテンションが緩い ③草押えドッグの Springs が切損しているか、へたりを生じている ④トワインフィンガーがトワインを正しくノッタビルに寄せていない ⑤ニードルとトワインディスクとが離れ過ぎている	①「1-3 トワインの通し方」に基づき処置 ②トワインテンションのニギリを少し締め込む ③ Springs を新品と交換する ④「7-2-21 トワインフィンガーの調整」に基づき調整 ⑤「7-2-26 ニードルの調整」に基づき調整
 <p>結び目は出来るがゆるい</p>	①ノッタビルの爪の破損または摩耗 ②梱包密度が低い ③トワインホルダ圧が高い ④ノッタの摩耗 ⑤トワインディスクの調整不良	①ノッタビルを交換する ②梱包密度を調整する ③「7-2-20-4 トワインホルダの調整」に基づき圧力を下げる ④ノッタを交換する ⑤「7-2-20-3 トワインディスクの調整」に基づき調整
 <p>トワイン切れ目不良</p>	①トワインナイフの刃が摩耗している	①トワインナイフを研磨する
 <p>ニードル側(下糸)だけ結び目を作り片側が抜ける</p>	①トワインホルダの Springs が弱い ②梱包密度が高過ぎる	①「7-2-20-4 トワインホルダの調整」に基づき調整ナットを少し締め込む ②ベールプレス・ Springs を緩める
 <p>両側とも結び目を作らない</p>	①トワインホルダの Springs が強過ぎる ②ノッタビル及びビルカムの摩耗が破損 ③トワインディスク・トワインホルダが粗い ④ベベルピニオンの Springs ピンが切損している	①「7-2-20-4 トワインホルダの調整」に基づき調整ナットを少し緩める ②交換する ③サンドペーパーで磨く ④ Springs ピンを交換
 <p>結び目の一方が他方より長い</p>	①トワインナイフの切味が低下している ②トワインホルダの Springs が弱い	①トワインナイフを研磨するか、交換する ②「7-2-20-4 トワインホルダの調整」に基づき調整ナットを少し締め込む

症 状	原 因	処 置
 <p>結び目から 12 mm程のところでほぐれたり切れたりする</p>	①ノッタビルとナイフアームとの間隔が狭過ぎる ②梱包密度が高過ぎる	①「7-2-20-5 ナイフアームの調整」に基づき調整 ②ベールプレススプリングを緩める
 <p>トワイン2重結び</p>	①ノッタビルに対するナイフアームの移動量不足 ②ノッタビルのスプリング張力不足	①「7-2-20-5 ナイフアームの調整」に基づき調整またはナイフアーム交換 ②「7-2-20-2 ノッタビルの調整」に基づき調整
 <p>トワインの片側2重結び</p>	①ナイフアームの動き量不足 ②ノッタビルのビルカムスプリングがゆるい ③トワインナイフの切味不足 ④トワインホルダの圧力不足	①「7-2-20-5 ナイフアームの調整」に基づき調整またはナイフアーム交換 ②「7-2-20-2 ノッタビルの調整」に基づきビルカムスプリングを締める ③トワインナイフを研磨する ④「7-2-20-4 トワインホルダの調整」に基づき調整
 <p>結び目から 20~30 mm程のところでほぐれたり切れたりする</p>	①ナイフアームが曲がり、ノッタビルが自由に回転しない。 ②ナイフアーム表面が滑らかでない ③ノッタブレーキが強すぎる	①「7-2-20-5 ナイフアームの調整」に基づきナイフアームの溝と、ノッタビルの後端関係を修正する ②ナイフアーム表面を滑らかにする ③「7-2-22 ノッタブレーキの調整」に基づき調整
ノッタビルローラにトワインがからむ	①ニードルとトワインディスクが離れ過ぎている ②トワインディスクピニオンかベベルピニオンのスプリングピン切損 ③トワインテンションが緩い	①「7-2-26 ニードルの調整」に基づき調整 ②スプリングピンの交換 ③トワインテンションのニギリを少し締め込む
ノッタビルにトワインがからむ	①トワインフィンガーがトワインを正しくノッタビルに寄せていない	①「7-2-21 トワインフィンガーの調整」に基づき調整
ノッタビルへのトワインの巻付き	①梱包密度が低過ぎる ②前の結束時トワインが巻付いている	①ベールプレススプリングを締付ける ②からんだトワインを取り除く
ノッタビルよりトワインがはずれない	①ノッタビルの圧力過大 ②ナイフアーム溝とノッタビルの位置が不良 ③ナイフアームの上がり不足 ④ノッタビル爪が滑らかでない ⑤ノッタビルの曲がり、または摩耗 ⑥トワインテンションが強過ぎる ⑦梱包密度が高過ぎる	①「7-2-20-2 ノッタビルの調整」に基づき圧力調整 ②「7-2-20-5 ナイフアームの調整」に基づきナイフアームの形状修正(対ノッタビル) ③ノッタビルの爪を滑らかに修正 ④ノッタビル交換 ⑤ノッタビル交換 ⑥トワインテンションを緩める ⑦ベールプレススプリングを緩める

(2) ベール重量が不良

症 状	原 因	処 置
ベールが軽過ぎる	①ベールプレススプリングがゆるい	①ベールプレススプリングを締付ける
ベールが重過ぎる	①ベールプレススプリングの締めすぎ	①ベールプレススプリングを緩める
ベールプレススプリングを緩めてもベールが重い	①草の水分が多い	①乾燥させる ②「4-3-3 梱包長さの調整」に基づき調整
ベールが長過ぎる	①メジャーホイールが梱包している草に十分接しない ②ホイールアームのアジャスティングストッパの調整不良	①ベールプレススプリングを締付ける ②「4-3-3 梱包長さの調整」に基づき調整
ベールが短過ぎる	①ホイールアームのアジャスティングストッパの調整不良	①「4-3-3 梱包長さの調整」に基づき調整

(3) ベール形状不良

症 状	原 因	処 置
草がベール内に平均して入っていない	①フォークの調整不良 ②作業速度が遅過ぎるか、ウインドローが小さ過ぎる ③梱包密度が低いか草が極端に軽すぎる	①「7-2-19 フォークの調整」に基づきフォークを調整する ②作業速度を上げるか、ウインドローを大きくする ③ベールプレススプリングを締付ける
ベール長が不規則	①ホイールアームがはね上がる	①ホイールアームのスプリングの調整不良
外側形状が悪い	①プランジャ及びチャンパナイフの摩耗 ②草(稲わら)が硬いあるいは長い場合は形状が悪くなる場合がありますが、これは機械のせいではありません	①プランジャ及びチャンパナイフを研磨する

(4) 草の拾い上げが不良

症 状	原 因	処 置
ピックアップが回らない	①Vベルトがすべる	①「7-2-17 Vベルトの張りの調整」に基づきスプリングを張る
拾い残しがある	①ピックアップタインの損傷 ②ピックアップタインのセット位置が高い ③作業速度が早過ぎる ④集草不良 ⑤ウインドローが小さい	①ピックアップタインを交換する ②「4-3-4 ピックアップ部の調整」に基づき調整 ③作業速度を遅くする ④ウインドローをきれいにつくる ⑤ウインドローを大きくする

(5) チャンバへの供給不良

症 状	原 因	処 置
プランジャとフォークが当たると	①タイミング調整不良	①「7-2-28-1 プランジャとフォークのタイミング」に基づき調整
プランジャが圧縮行程で止まる	①ナイフの摩耗 ②ナイフのすきま調整不良 ③梱包密度が高過ぎる ④異物の噛み込み ⑤供給量が多過ぎる	①ナイフを研磨する ②「7-2-24 プランジャナイフとチャンパナイフの調整」に基づき調整 ③ベールプレススプリングを緩める ④異物を取り除く ⑤ウインドローと作業速度を調整する
ベールがベール圧縮行程で止まった後、再始動ができない	①プランジャに異物の噛み込み	①フライホイールを2~3回転、反時計方向に回して、テンションクラッチを入れる

取扱い上の注意

フライホイールを手で回す時は、ニードルが停止位置にあることを確認してください。

(6) ニードルが作動しない及び折損する

症 状	原 因	処 置
トリップカムが働かない	①トリップカムスプリングの切損か、トリップアームスプリングのはずれ ②トリップカムの錆付	①切損あるいは、紛失したスプリングを交換する ②グリース、オイルの給油
ニードルの折損	①ニードルの通る溝が固形物で詰まっている ②ニードルがノッタフレームにぶつかる ③ニードルとプランジャのタイミングの狂い ④ニードルが下死点に達してもチャンバ内に先端が残る ⑤ノッタブレーキの緩み ⑥プランジャストッパが作動しない	①固形物の除去 ②「7-2-26 ニードルの調整」に基づき調整 ③「7-2-28-2 プランジャとニードルのタイミング」に基づき調整 ④「7-2-26 ニードルの調整」に基づき調整 ⑤「7-2-22 ノッタブレーキの調整」に基づきスプリングを締める ⑥異物の除去

(7) シャーボルトの切断の原因

症 状	原 因	処 置
フライホイールシャーボルトの切断	①プランジャナイフとチャンパナイフとの間隔が大き過ぎる ②梱包密度が高過ぎる ③プランジャストッパの調整不良 ④ノッタブレーキの緩み又は汚れ ⑤タイミングの狂い ⑥プランジャストッパの作用	①「7-2-24 プランジャナイフとチャンパナイフの調整」に基づき調整 ②ベールプレススプリングを緩める ③「7-2-23 プランジャストッパの調整」に基づき調整 ④汚れを落とし、「7-2-22 ノッタブレーキの調整」に基づき調整 ⑤「7-2-28 タイミングの調整」に基づき調整 ⑥「7-2-23 プランジャストッパの調整」に基づき調整
ノッタシャーボルトの切断	①ノッタブレーキが作動不良 ②ノッタビルに結び目がからみつく ③ニードルの調整不良	①「7-2-22 ノッタブレーキの調整」に基づき調整 ②結び目を完全に取る「7-2-21 トワインフィングの調整」に基づき調整 ③「7-2-26 ニードルの調整」に基づき調整
フォークシャーボルトの切断	①供給量が多過ぎる ②牧草内に異物が混入している ③フォークとプランジャのタイミングの狂い	①作業速度を落とすか、ウインドローを適切な大きさにする ②異物の除去 ③「7-2-28-1 プランジャとフォークのタイミング」に基づき調整

(8) 駆動部の異常

症 状	原 因	処 置
ギヤボックスに異音発生、異常発熱	①グリース不足 ②回転部に牧草等の巻付き ③オイル量が適正でない ④オイルもれ ⑤ギヤ、ベアリング破損 ⑥取付ボルトの緩み	①グリース補充 ②巻付き除去 ③「2-4 給油箇所一覧表」に基づき処置 ④Oリング、オイルシール交換 ⑤交換 ⑥増し締め

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式 (型式)
3. 製造番号
4. 故障内容 (できるだけ詳しく)

9 主な消耗部品

1. 走行部

部品コード	名 称	個数/台	備 考
EG080520052	Vベルト	2	LB52 ポンプ駆動ベルト
EG080109098	Vベルト	2	LB48 クラッチベルト
EG080300052	Vベルト	2	B70作業機駆動ベルト
EG314531174	エアクリーナエレメント	1	
EG360720020	フィルタエレメント	1	フューエルフィルタ
EG395925270	カートリッジ	1	400ccグリスガン用
EG140516190	エンジンオイルフィルタ	1	

2. 作業部

部品コード	名 称	個数/台	備 考
VMU4R5V0900	マルチウェッジベルト	1	4R-5V-900 作業機駆動ベルト(フライホイール側)
VLB081	Vベルト	3	LB81作業機駆動ベルト
VRB067	Vベルト	1	RB67ピックアップ駆動ベルト
0440284000	シャーボルト M10×55	1	フライホイール部
0446912000	シャーボルト M8×32	1	ノッタドライブ部
0629691000	シャーボルト M8×45	1	フォーク部
NSZ10	コガタナット M10	1	フライホイール部
WSA10	バネザガネ M10	1	フライホイール部
NSZ08	コガタナット M8	2	ノッタドライブ・フォーク部
WSA08	バネザガネ M8	2	ノッタドライブ・フォーク部

10 標準付属品

1. 走行部

部品コード	名称	個数	備考
EG395680020	ツールバック	1	
EG092409000	ドライブAss'y	1	+-差込式
EG090101012	スパナ	1	10×12
EG090101214	スパナ	1	12×14
EG090101417	スパナ	1	14×17
EG090101719	スパナ	1	17×19
EG395160040	グリスガン	1	400cc
EG094100024	ソケットM24	1	グリスシリンダ用

2. 作業部

部品コード	名称	個数	備考
0440284000	シャーボルト M10×55	5	フライホイール部
0446912000	シャーボルト M8×32	3	ノッタドライブ部
0629691000	シャーボルト M8×45	3	フォーク部
NSZ10	コガタナット M10	5	フライホイール部
WSA10	バネザガネ M10	5	フライホイール部
NSZ08	コガタナット M8	6	ノッタドライブ・フォーク部
WSA08	バネザガネ M8	6	ノッタドライブ・フォーク部
0909680000	スパナ	1	13×17

11 別売りの取扱いについて

1 カウンター

1 日の梱包数・単位面積当たりの梱包数・月間、年間の梱包数などを確認・記録できるように別売品として、積算式カウンターが用意されていますので御利用ください。

1. 取付方法

各部の記号・名称及び取付は、部品表を参照してください。

- (1) ブラケットにカウンターを取付け、これをチャンバにカクネボルトで取付けます。
- (2) ステーをブラケットの穴に通し、ホイールアームに取付けます。
- (3) カウンターがホイールアームの作動で連動することを確認してください。

12 仕 様

項 目			備 考	
エ ン ジ ン	型式	水冷3気筒S773L		
	定格出力	Ps(kW)/rpm	24(17.7)/2800	
	排気量	cc	1131	
	最大トルク	kgf·m(N·m)/rpm	7.0(68.6)/2200	
	バッテリー		46B24L	
寸 法	全長	mm	4070	輸送時は-3730mm
	全幅	mm	1930	輸送時は-1794mm
	最低地上高	mm	275	
	クローラ中心距離	mm	1290	
	クローラ接地長	mm	1300	
	ゴムクローラ巾ピッチ	mm	280×72	
性 能	車輛重量	kg	1740	
	走行速度 km/Hr	前 進	0~5.7	
		後 進	0~3.5	
	接地圧 ²	kg/cm	0.24	
	静的安定度	度	左右各40°	
		度	前後30°	
	登坂能力	度	25° 以上	
	走行駆動方式		HST油圧無段変速	
運転席タイプ		後部立乗タイプ		
燃料タンク容量	△	25		

13 配線図

※ ()内のページNoは、ペーラ走行ユニット部品表を参照してください。

キースイッチ作動回路図

端子名	B	BR2	BR1	C1	C2	F
OFF	●	●	●	●	●	●
ON(HEAT)	●	●	●	●	●	●
START	●	●	●	●	●	●

ヒューズ BOXカバー
EG385430059

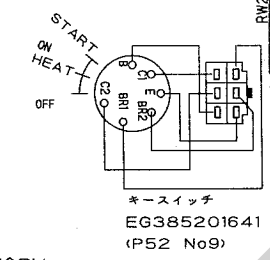
アクセサリ	5A
予備 (取出電源)	15A
安全SW	10A
ハ'イロットランプ	5A
作業機昇降	10A
ホーン	

FUELホ'ンフ
EG360800040
(P24 No16)

ハ'イロットランプ
EG385101850
(P52 No18)

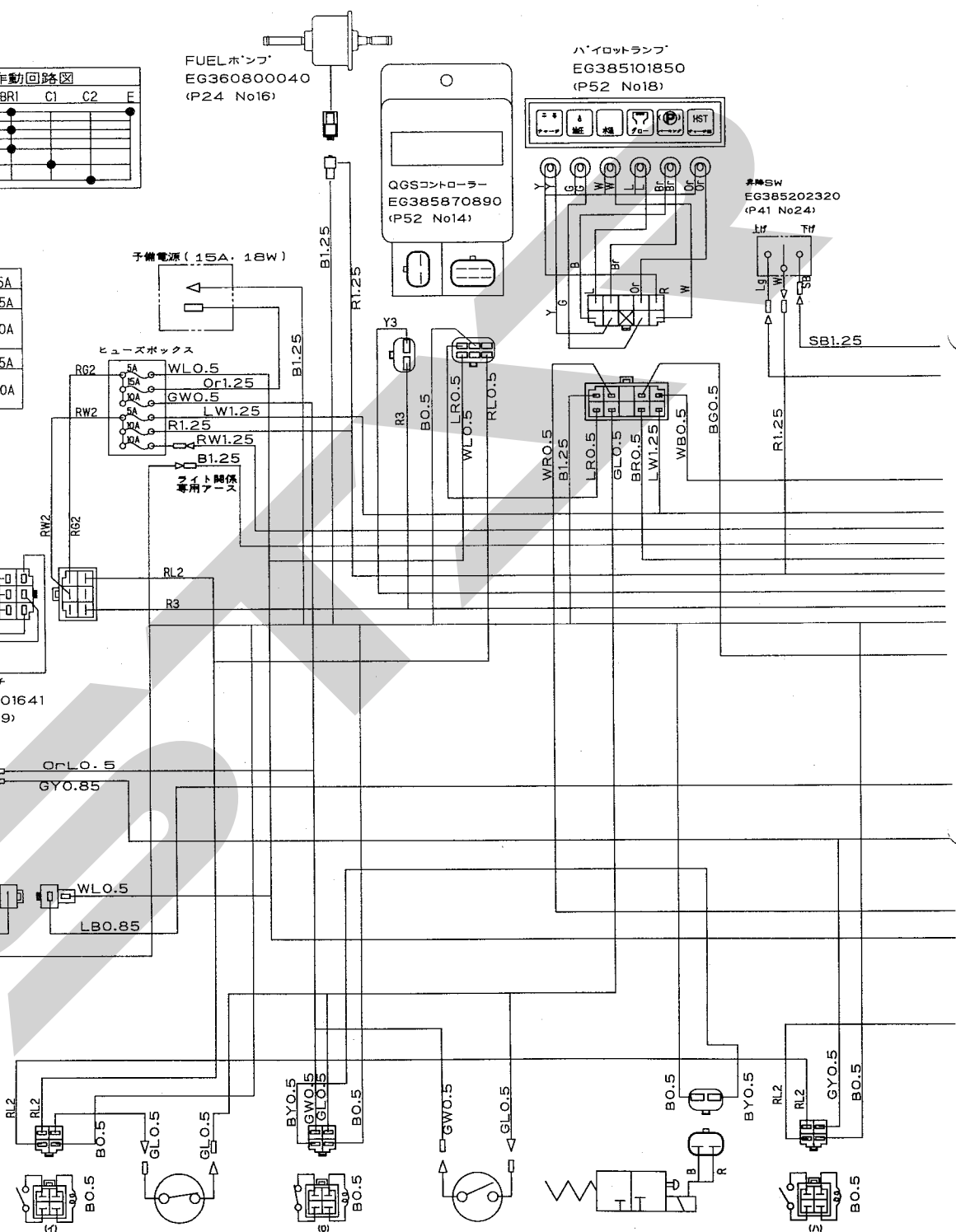
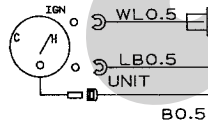
QGSコントローラー
EG385870890
(P52 No14)

昇降SW
EG385202320
(P41 No24)



安全SW
EG385201980
(P52 No10)

サーモメータ
EG385710060
(P52 No3)



リレー (A)
EG385230280
(P52 No11)

セーフティS/W
EG385202150
(P41 No23)

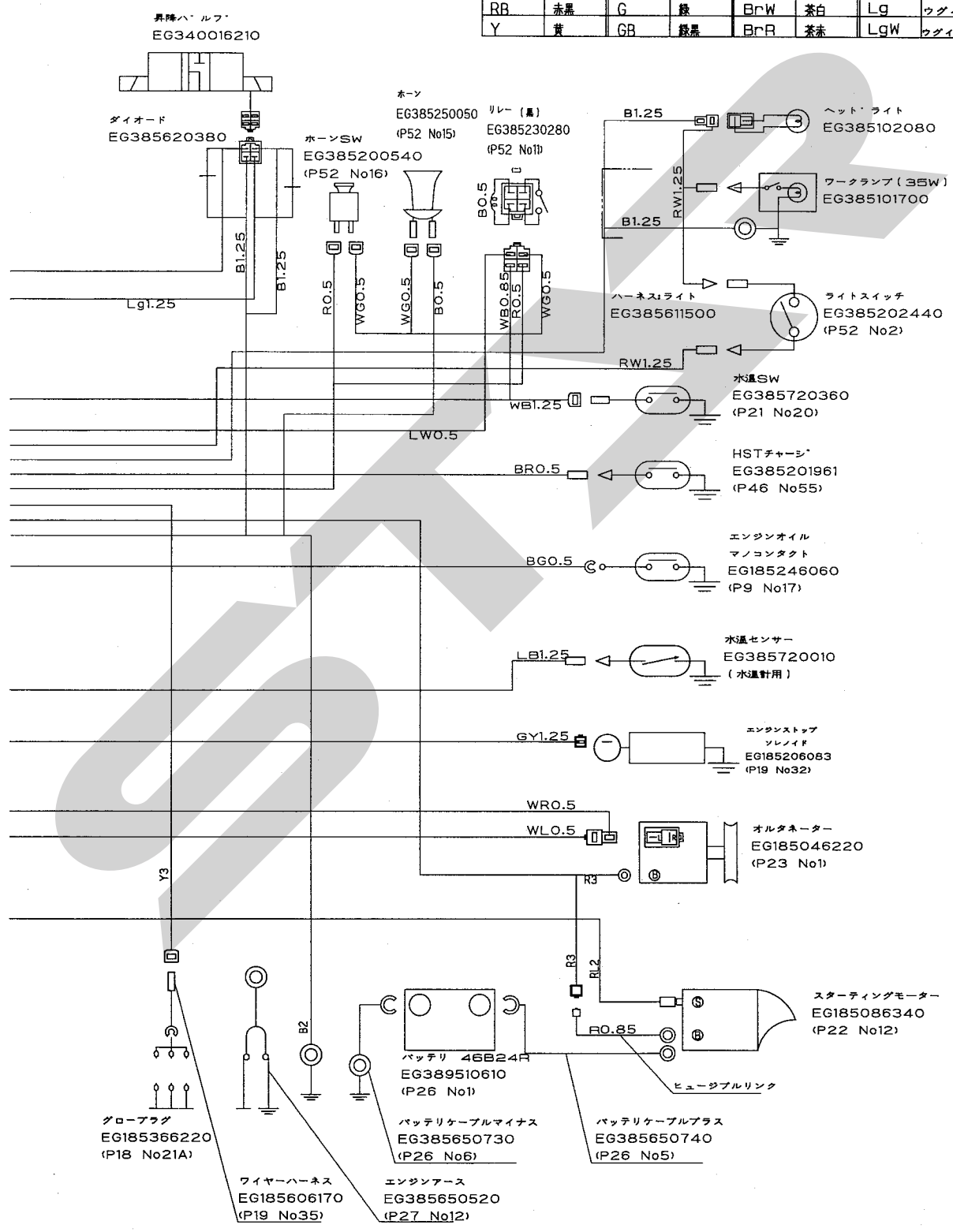
リレー (B)
EG385230290
(P52 No12)

パーキングS/W
EG385200650
(P52 No20)

パーキングバルブ
EG340016150
(P45 No45)

リレー (C)
EG385230280
(P52 No11)

色コード表							
B	黒	YB	黄黒	GY	緑黄	BrL	茶青
BW	黒白	YI	黄青	GW	緑白	Gr	灰
BR	黒赤	YR	黄赤	GL	緑青	Or	オレンジ
Bl	黒青	YW	黄白	I	青	OrG	オレンジ緑
BG	黒緑	W	白	LR	青赤	OrW	オレンジ白
BY	黒黄	WG	白緑	LG	青緑	OrB	オレンジ黒
R	赤	WB	白黒	LB	青黒	OrL	オレンジ青
RY	赤黄	WPl	白紫	LY	青紫	SB	スエーデン
RL	赤青	WY	白黄	LW	青白	P	ピンク
RG	赤緑	WR	白赤	LOr	青オレンジ	PB	ピンク黒
RW	赤白	WL	白青	Br	茶	Pu	紫
RB	赤黒	G	緑	BrW	茶白	Lg	ウグイス
Y	黄	GB	緑黒	BrR	茶赤	LgW	ウグイス白



部 品 表

部品のご注文について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ①製品名
- ②部品供給型式（型式）
- ③部品名称（部品表を参照してください。）
- ④部品番号（部品表を参照してください。）
- ⑤個 数（部品表を参照してください。）

※ 部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 個数欄の 、 は、以下のことを表しております。

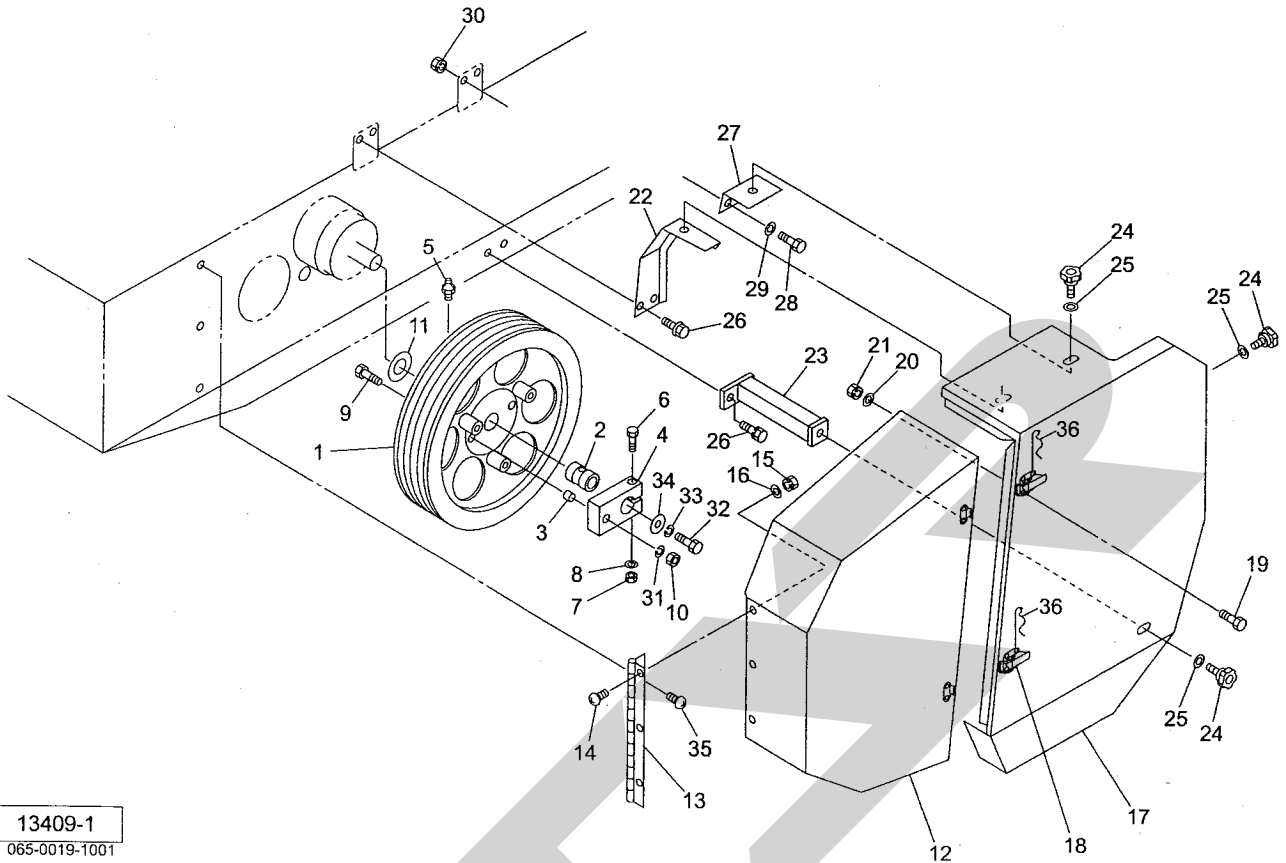
- … シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品
- … アッセイ品に含まれる部品で単品では供給しない部品

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。

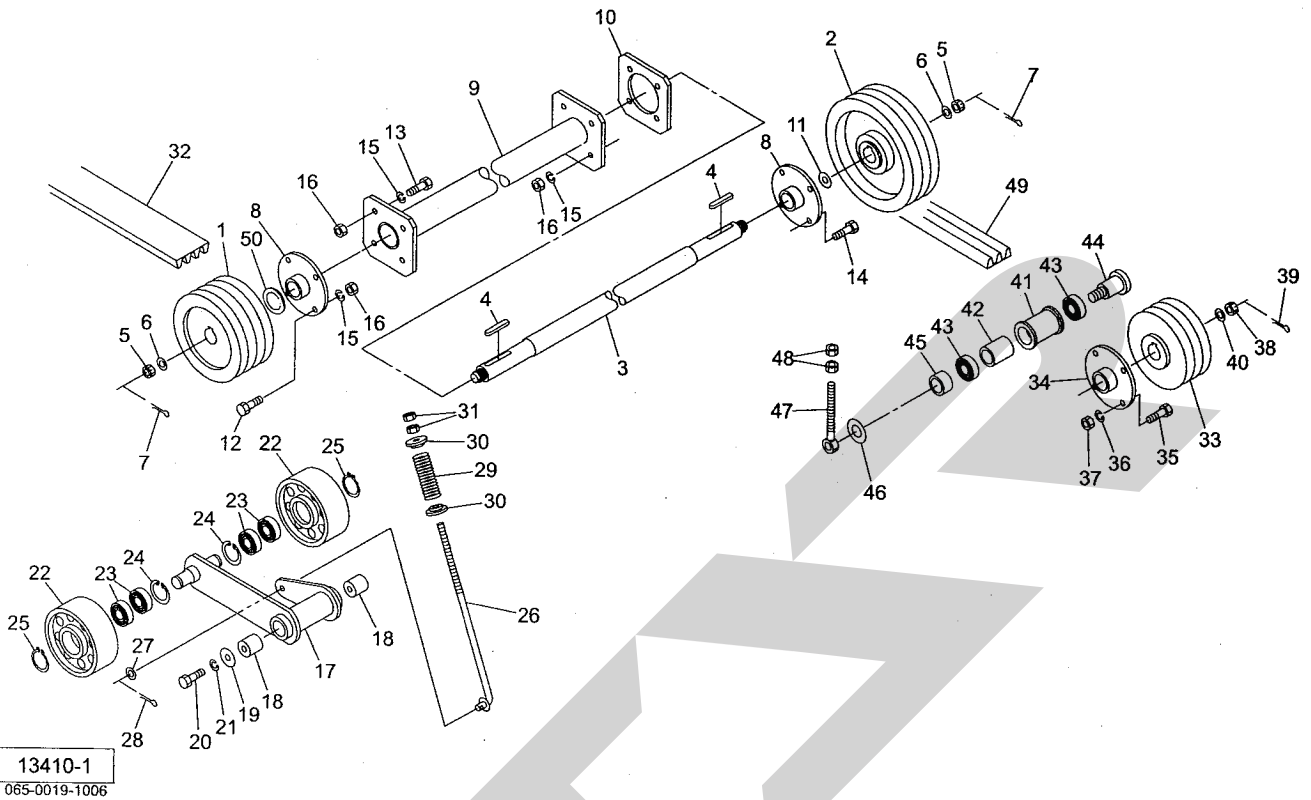
JTB1000 自走ヘーベータ
フライホイール



13409-1
065-0019-1001

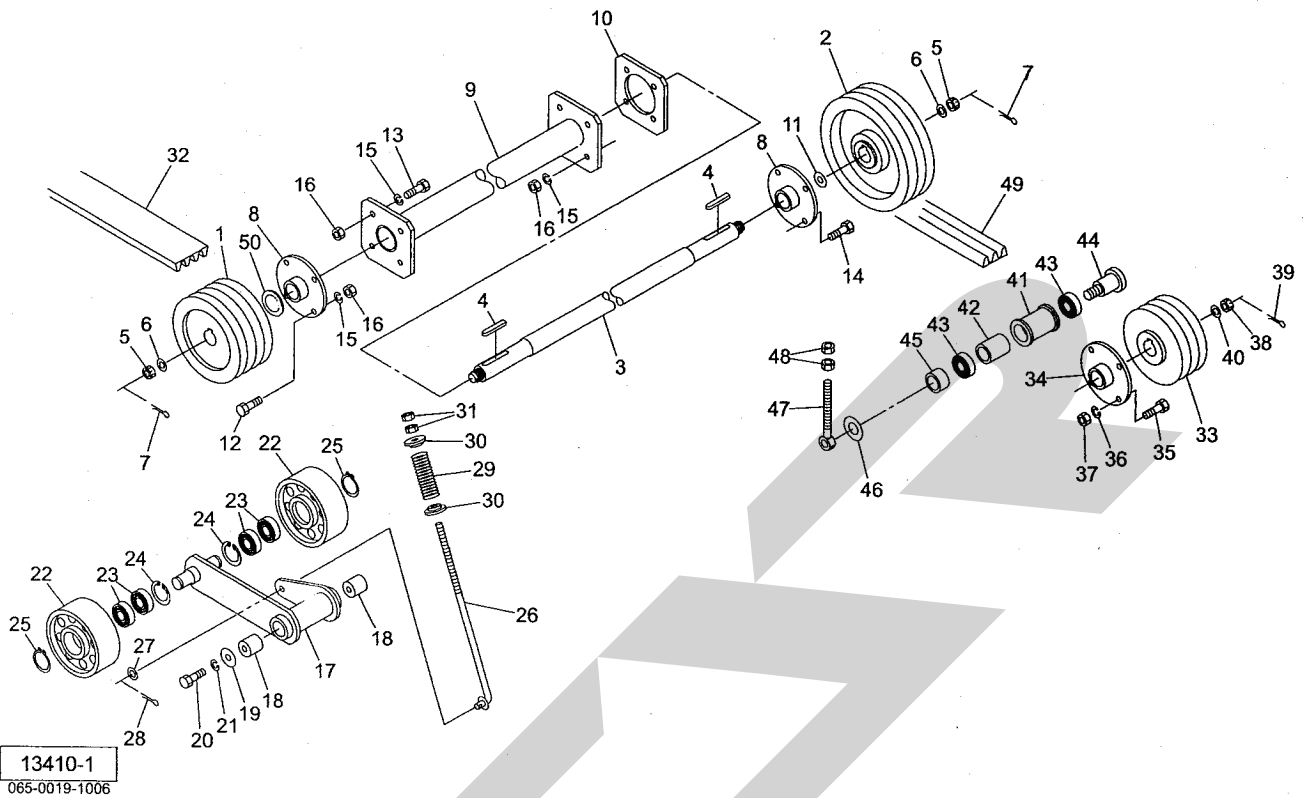
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1030831003	フライホイール; プーリー	1	
2	0717300000	ブッシュ	1	
3	0717311000	シャーボルトブッシュ; 22×20	2	
4	0717320003	シャーボルトホルダ	1	
5	ONAS1	グリースニップル A PT1/8	1	
6	BSZ10060	コガタボルト 7 M10×60	1	
7	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	1	
8	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	
9	0440284000	シャーボルト; M10×55	6	5個予備品
10	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	6	5個予備品
11	035145400M	ワッシャ; 35.5×3.2 ダクロ	1	
12	1277050003	カバーCP; L	1	
13	1031460003	チョウバン	1	
14	CP06016	+ナベコネジ M6×16	3	
15	NP06	スプリングナット M6	6	
16	WRA06	ヒラザガネ M6	6	
17	1277080003	カバーCP; R	1	
18	0896020000	ビジョウ ステン	2	
19	CP04012	+ナベコネジ M4×12	8	
20	WRA04	ヒラザガネ M4	8	
21	NP04	スプリングナット M4	8	
22	1277040003	ステーCP; A	1	
23	1277010003	ステーCP; B	1	
24	0006900000	ニギリ; M8×14	4	
25	WRA08	ヒラザガネ M8	4	

JTB1000 自走ヘーベラ
クドウ



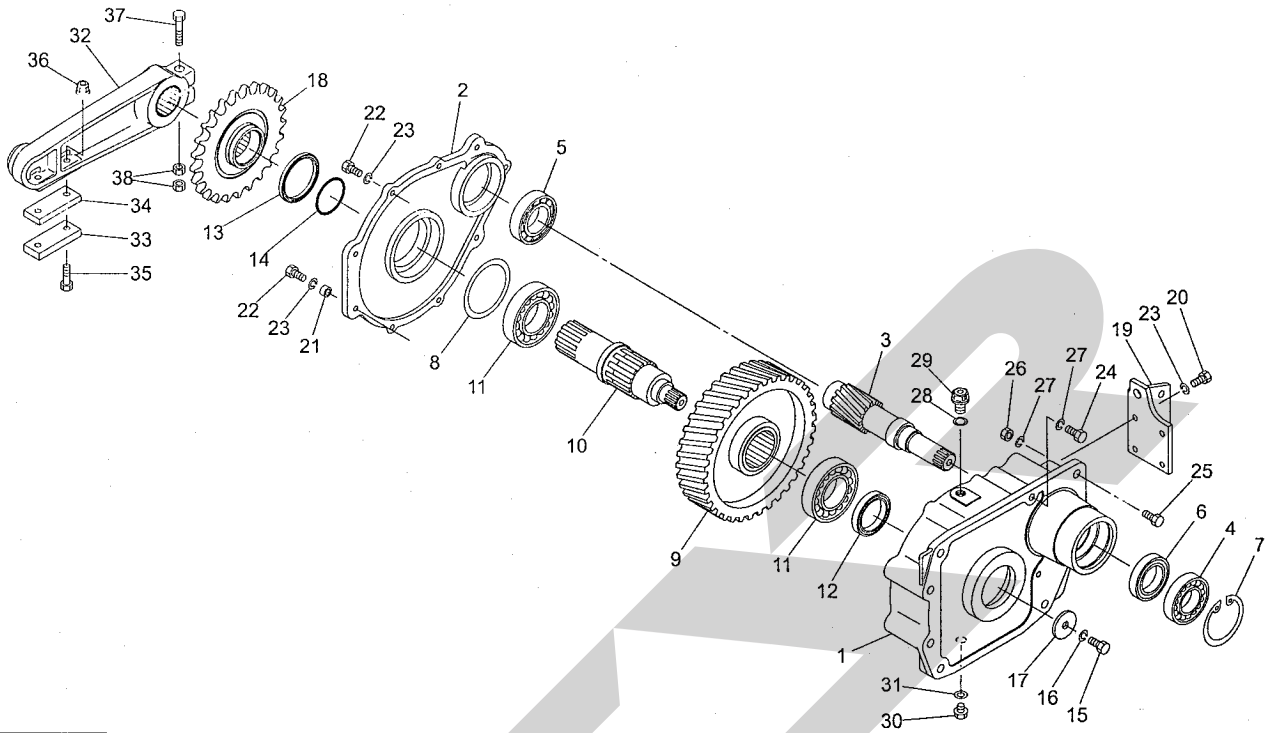
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1031260003	Vプーリ ; 200	1	
2	1278740003	プーリ ; 250-B-3	1	
3	1278810002	カウンターシャフト	1	
4	KFB10080500	ヘイコウキー カタマル 10×8×50	2	
5	NC2L24200	キャッスルナット 2シュヒク M24×2.00	2	
6	WRA24	ヒラザガネ M24	2	
7	PC040032	ワリピン 4×32	2	
8	JUCFC207	ベアリングユニット UCFC207	2	
9	1278850003	パイプCP	1	
10	127880000M	プレート	1	
11	092221000M	ワッシャ ; 36×6	1	
12	BZ12050	ボルト 8.8 M12×50	4	
13	BZ12030	ボルト 8.8 M12×30	4	
14	BZ12060	ボルト 8.8 M12×60	4	
15	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	12	
16	NZ12	ナット 8 2シュ M12	12	
17	1031201003	テンションアームCP	1	
18	KBB-3030B	ドライベアリング B 30×34×30	2	
19	074900000M	ワッシャ	1	
20	BSZ10020	コガタボルト 7 M10×20	1	
21	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	
22	0897480003	プーリ ; テンション	2	
23	J6006LLU	ボールベアリング 6006LLU	4	
24	DHC055	Cガタトメワ アナ 55	2	
25	DC030	Cガタトメワ ジク 30	2	

JTB1000 自走ヘーベラ
グドウ



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	103139100M	ロッドCP	1	
27	WRA12	ヒラザガネ M12	1	
28	PC040025	ワリピン 4×25	1	
29	076311000M	スプリング	1	
30	103201000M	カラー	2	
31	NZ12	ナット 8 2シュ M12	2	
32	VMU4R5V0900	マルチウェッジベルト; 4R-5V-900	1	
33	1278730003	プーリ; 165-B-3	1	
34	JUCFC207	ベアリングユニット UCFC207	1	
35	BZ12045	ボルト 8.8 M12×45	4	
36	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	4	
37	NZ12	ナット 8 2シュ M12	4	
38	000712000M	キャッスルナット; M24×1.5	1	
39	PC040032	ワリピン 4×32	1	
40	WRA24	ヒラザガネ M24	1	
41	127875000M	プーリ	1	
42	127877000M	カラー; 17.1×27	1	
43	J6203LLU	ボールベアリング 6203LLU	2	
44	127876000M	ピン	1	
45	127878000M	カラー; 17.1×12	1	
46	WRA14	ヒラザガネ M14	1	
47	127879000M	ロッドCP	1	
48	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	2	
49	VLB081	Vベルト LB-81 オレンジ	3	
50	0676080000	シム	3	

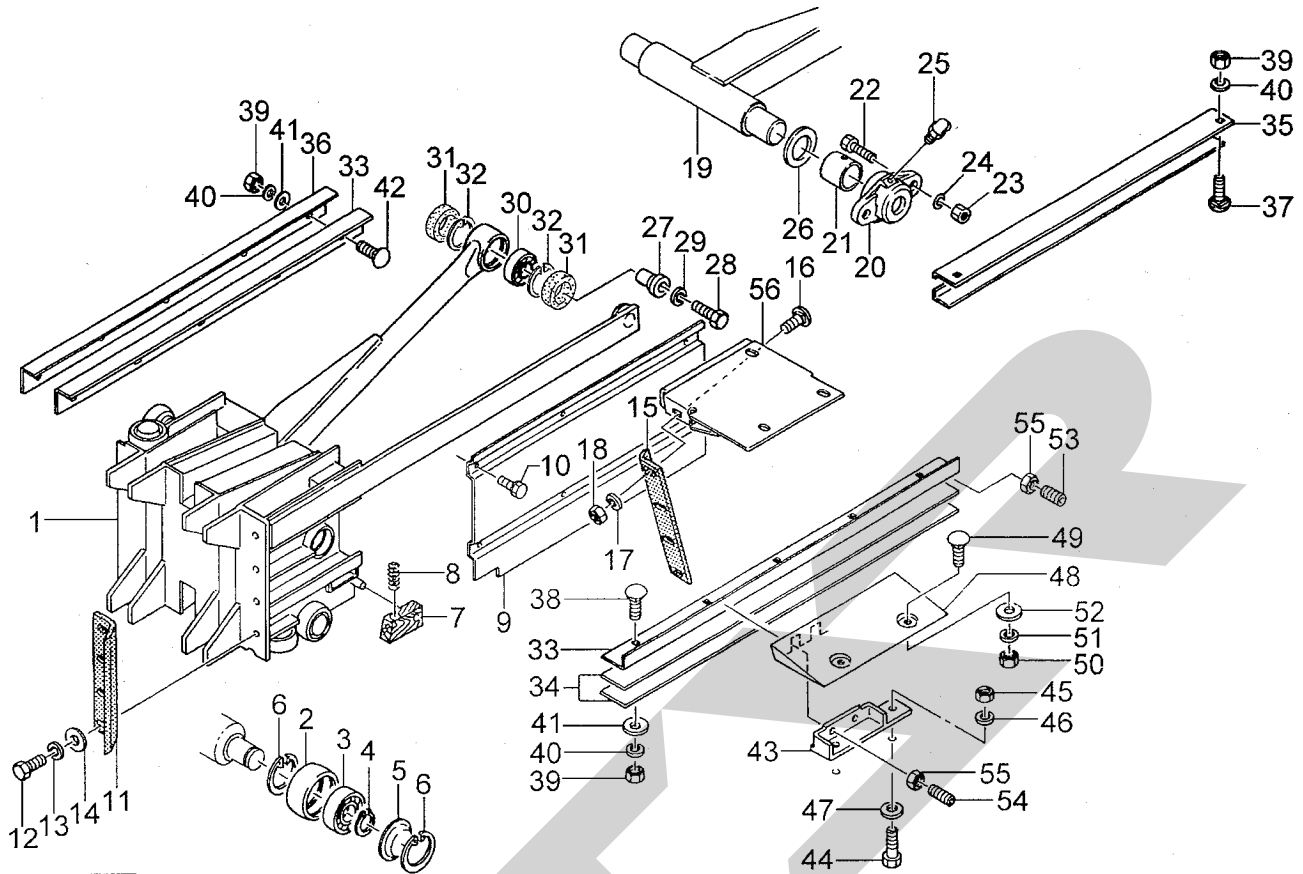
JTB1000 自走ヘーベラ
ギヤボックス



13411
065-0019-1010

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1277190003	ギヤボックス	1	
2	1277200003	キャップ	1	
3	1276211002	ピニオンシャフト; 12T	1	
4	J6308LLU	ボールベアリング 6308LLU	1	
5	JNJ308	エントウコロベアリング NJ308	1	
6	D508012	オイルシール D50×80×12	1	
7	DHC090	Cガタトメワ アナ 90	1	
8	0723330000	シム	3	
9	1276200002	ギヤ; M4×65T	1	
10	1277220002	シャフト	1	
11	J6212	ボールベアリング 6212	2	
12	S608010	オイルシール S60×80×10	1	
13	GM75906	オイルシール GM75×90×6	1	
14	ORG060	Oリング G-60	1	
15	BZ12025	ボルト 8.8 M12×25	1	
16	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	1	
17	067931100M	ワッシャ; 12	1	
18	0717334003	スプロケットCP	1	
19	0717343003	アングル (塗装)	1	
20	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	4	
21	1030820000	カラー	4	
22	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	9	
23	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	13	
24	BZ14035	ボルト 8.8 M14×35	1	
25	BZ14045	ボルト 8.8 M14×45	4	

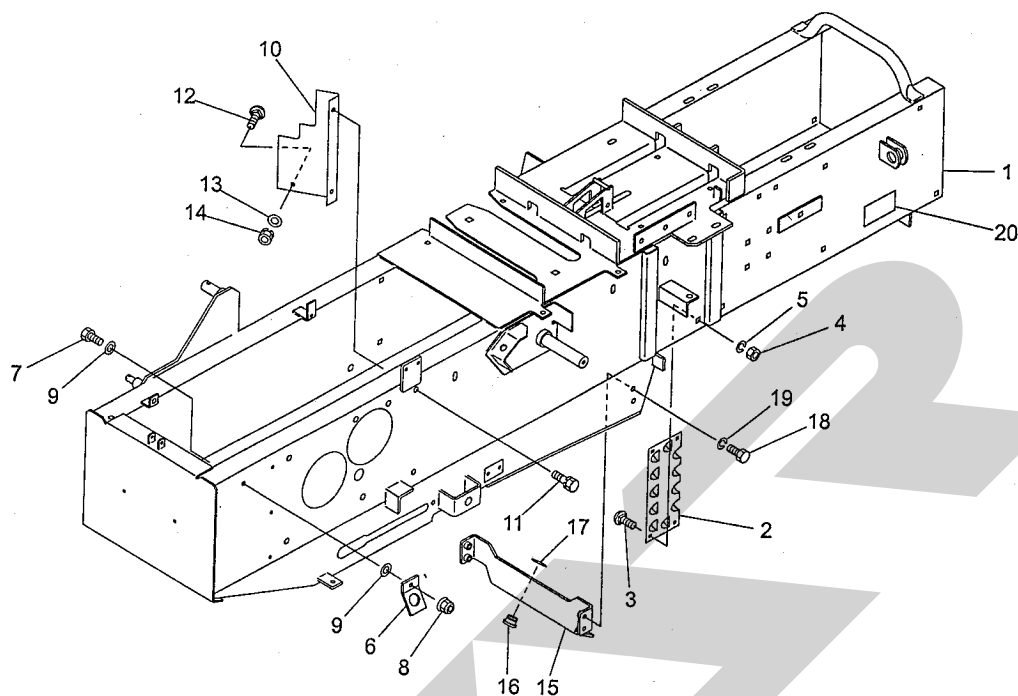
JTB1000 自走ヘーバーラ
プランジャ



13412

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0920233003	プランジャCP	1	
2	0670292000	ローラ; 6 2	5	
3	J6204LLU	ボールベアリング 6 2 0 4 LLU	5	
4	DC020	Cガタトメワ ジク 2 0	5	
5	067030200M	シールハウジング	5	
6	DHC047	Cガタトメワ アナ 4 7	10	
7	0670310000	スクレーパ	1	
8	067032100M	スプリング	1	
9	0718314003	プランジャカバー	1	
10	BSPZ08020	コガタSWツキボルト 7 M8×20	5	
11	0670823000	プランジャナイフ	1	
12	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	4	
13	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
14	044098500M	ワッシャ; 10	4	
15	0670833000	チャンバーナイフ	1	
16	000443200M	カクネボルト 8. 8 M10×35	4	
17	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
18	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	4	
19	0920240003	コネクティングロッドCP; 1	1	
20	0920281003	メタル; 1	2	
21	0920290000	ブッシュ	2	
22	BZ12035	ボルト 8. 8 M12×35	4	
23	NZ12	ナット 8 2シュ M12	4	
24	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	4	
25	ONB6	グリースニップル B M6	2	

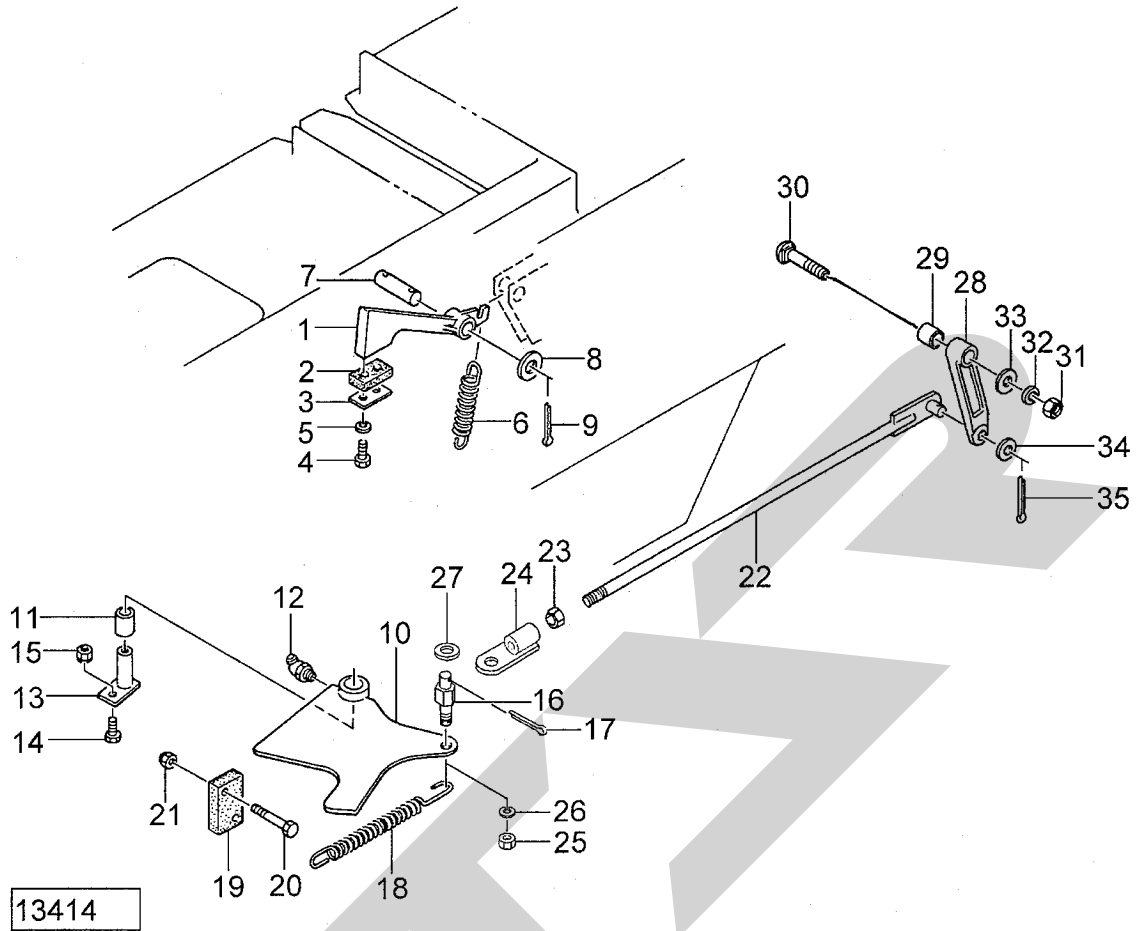
JTB1000 自走ヘーベータ
チャンバ



13413
065-0019-1013

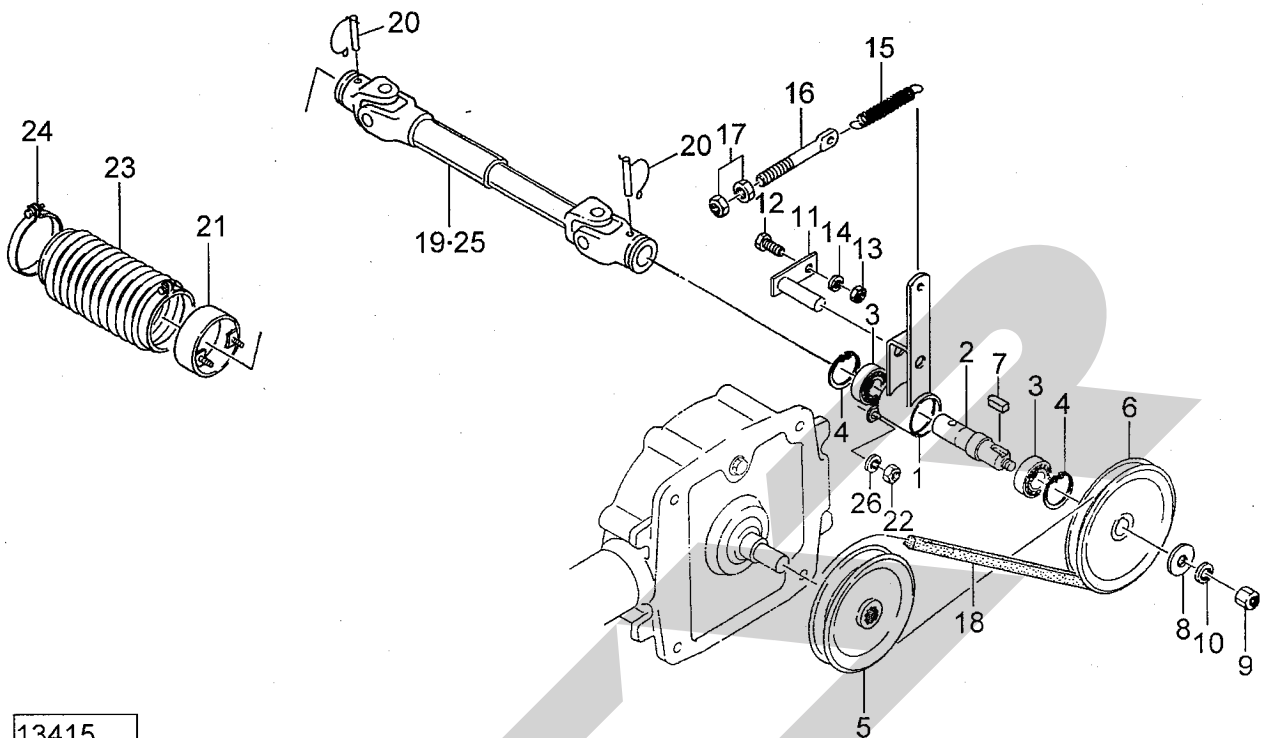
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1278910003	チャンバCP	1	
2	043062501M	レジスタプレート	2	
3	000450000M	カクネボルト 8.8 M10×20	8	
4	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	8	
5	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	8	
6	067426100M	ブラケット	1	
7	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	1	
8	NNF10	フランジナイロンナット M10	1	
9	044098500M	ワッシャ; 10	2	
10	127915000M	カバーCP	1	
11	BSPZ08020	コガタSWツキボルト 7 M8×20	2	
12	055474000M	カクネボルト 8.8 M8×20	1	
13	044097200M	ワッシャ; 8	1	
14	NPOS	スプリングナット M8	1	
15	127914000M	ブラケットCP	1	
16	066672500M	ガイド	2	
17	DC020	Cガタメワジク 20	2	
18	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	4	
19	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
20	1061730000	ラベル; ケイコク 10	1	

JTB1000 自走ヘーベラ
プランジャストッパ・ボトムドック



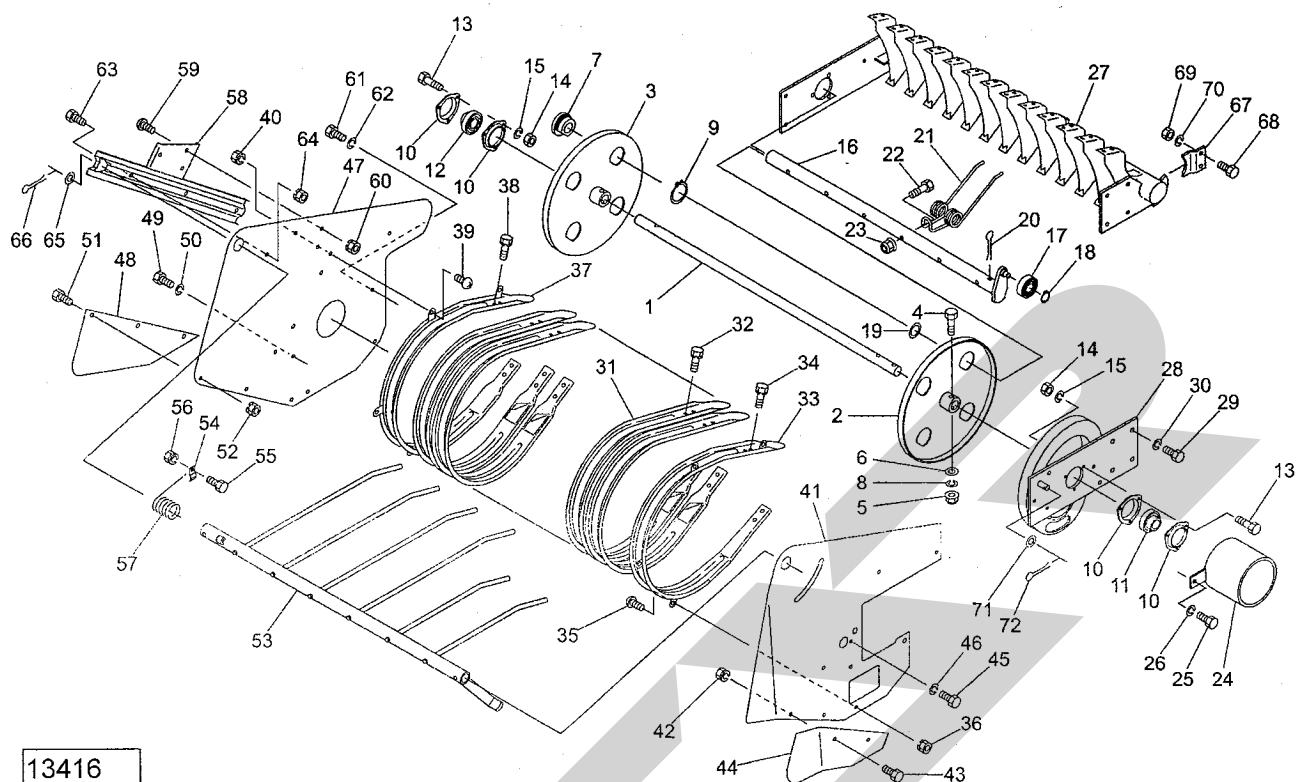
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	066900100M	ボトムドック	1	
2	0669011000	ゴムプレート	1	
3	066902100M	プレート	1	
4	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	2	
5	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
6	066903000M	スプリング;H メッキ	1	
7	066667200M	ピン	1	
8	WRA16	ヒラザガネ M16	2	
9	PC032032	ワリピン 3. 2×32	2	
10	0717624003	ストッパCP	1	①11付
11	0710034000	ブッシュ	1	
12	ONBS1	グリースニップル B PT1/8	1	
13	071763000M	ピンCP	1	
14	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	1	
15	NP10	スプリングナット M10	1	
16	075989000M	ピン	1	
17	PC032032	ワリピン 3. 2×32	1	
18	066986000M	スプリング;H メッキ	1	
19	0671801000	ゴムプレート	1	
20	BSZ08045	コガタボルト 7 M8×45	2	
21	NNF08	フランジナイロンナット M8	2	
22	075991000M	ロットCP	1	
23	NZ12	ナット 8 2シュ M12	1	
24	075990000M	ブラケットCP	1	
25	NZ16	ナット 8 2シュ M16	1	

JTB1000 自走ヘーベーラ
ピックアップドライブ



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0718384003	ブラケットCP	1	
2	0718392002	シャフト	1	
3	J6205LLU	ボールベアリング 6205LLU	2	
4	DHC052	Cガタトメワ アナ 52	2	
5	071840100M	Vプーリ; 7" CP	1	
6	071841100M	Vプーリ; 8" CP	1	
7	KFB08070200	ヘイコウキー カタマル 8×7×20	1	
8	072968100M	ワッシャ; 14	1	
9	NZ14	ナット 8 2シュ M14	1	
10	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	1	
11	071842000M	ピンCP	1	
12	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	1	
13	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	1	
14	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	
15	063275000M	スプリング; H メッキ	1	
16	043341501M	スプリングステー	1	
17	NZ12	ナット 8 2シュ M12	2	
18	VRB067	Vベルト B-67 レッド	1	
19	0717602000	パワージョイント	1	
20	000461200M	ピンCP; 8	2	
21	072332400M	ブラケットCP	1	
22	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
23	0669601000	ブーツ	1	
24	066961000M	ジザイクランプ メッキ	2	
25	JSSBASY	スパイダ クミ SSB AS050	2	
26	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	

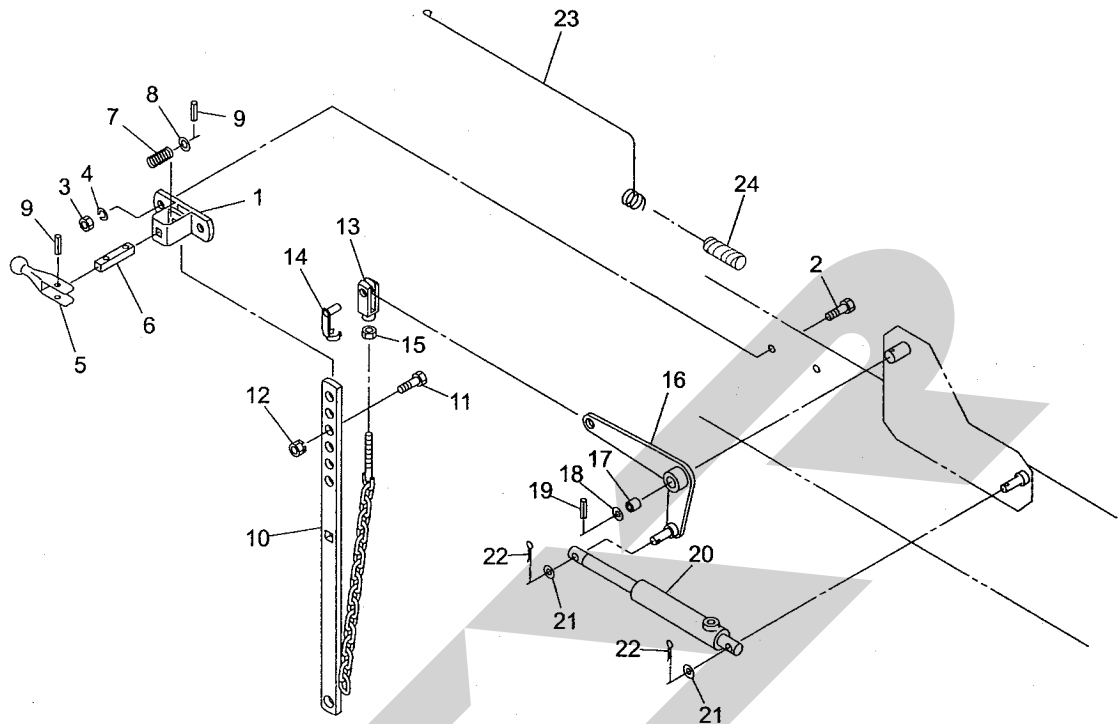
JTB1000 自走ヘーベラ
ロータフレーム・リール



13416

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0782570002	シャフト	1	
2	0717583004	タインプレートCP	1	
3	0782242004	タインプレートCP; 2	1	
4	BSZ08060	コガタボルト 7 M8×60	2	
5	NNF08	フランジナイロンナット M8	2	
6	044097200M	ワッシャ; 8	2	
7	0717285004	メタル	8	
8	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
9	DC050	Cガタトメワ ジク 50	8	
10	JPF205G	バイフランジ マル PF205	4	
11	JAS205	ユニットヨウベアリング AS205	1	
12	JREL205	ユニットヨウベアリング REL205	1	
13	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	6	
14	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	6	
15	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	6	
16	0782584004	タインバーCP	4	
17	JSBX0126LLU	ユニットヨウベアリング SBX0126LLU	4	
18	DC012	Cガタトメワ ジク 12	4	
19	043226000M	タインバーザガネ メッキ	4	
20	PC050036	ワリピン 5×36	4	
21	0432161010	ピックアップタイン	24	
22	BSZ10050	コガタボルト 7 M10×50	24	
23	NNF10	フランジナイロンナット M10	24	
24	0717613004	ブラケットCP	1	
25	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	

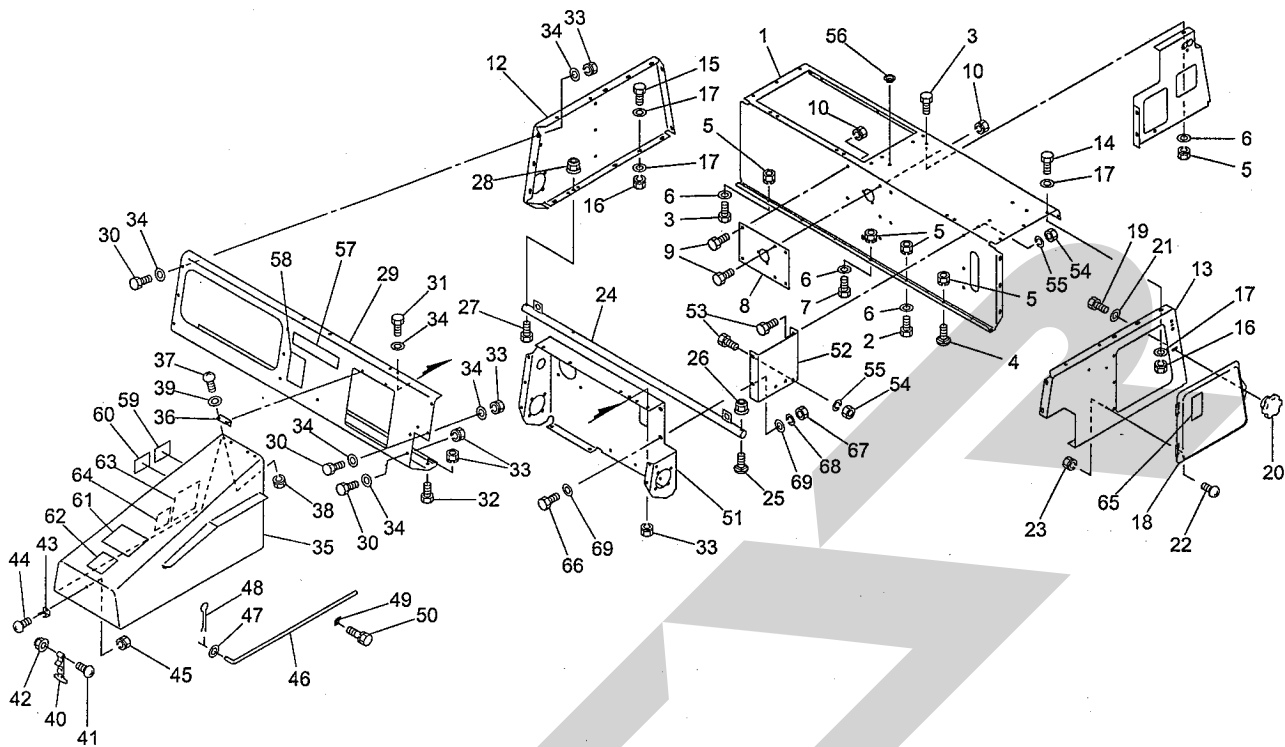
JTB1000 自走ヘーベラ
リフトブラケット



13417-1
065-0019-1002

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	044143100M	リフトロッドブラケットCP	1	
2	000451000M	カクネボルト 8.8 M10×25	2	
3	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
4	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
5	068317000M	レバー	1	
6	068318000M	バー	1	
7	043234101M	ラッチスプリング;メッキ	1	
8	WRA16	ヒラザガネ M16	1	
9	PS050025	スプリングピン 5×25	2	
10	127712000M	ステーCP	1	
11	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	1	
12	NP08	スプリングナット M8	1	
13	079422000M	フォークエンド;10×40	1	
14	079423000M	ピン;10×40	1	
15	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	1	
16	127714000M	アームCP	1	
17	70B-2535	ドライメットブッシュ 25×28×35	1	
18	WRA24	ヒラザガネ M24	1	
19	PS060040	スプリングピン 6×40	1	
20	0776862000	シリンダ;CSO25×115×220	1	
21	WRA16	ヒラザガネ M16	2	
22	PC040025	ワリピン 4×25	2	
23	128026000M	ステー	1	
24	0887210000	スパイラルチューブ	1	

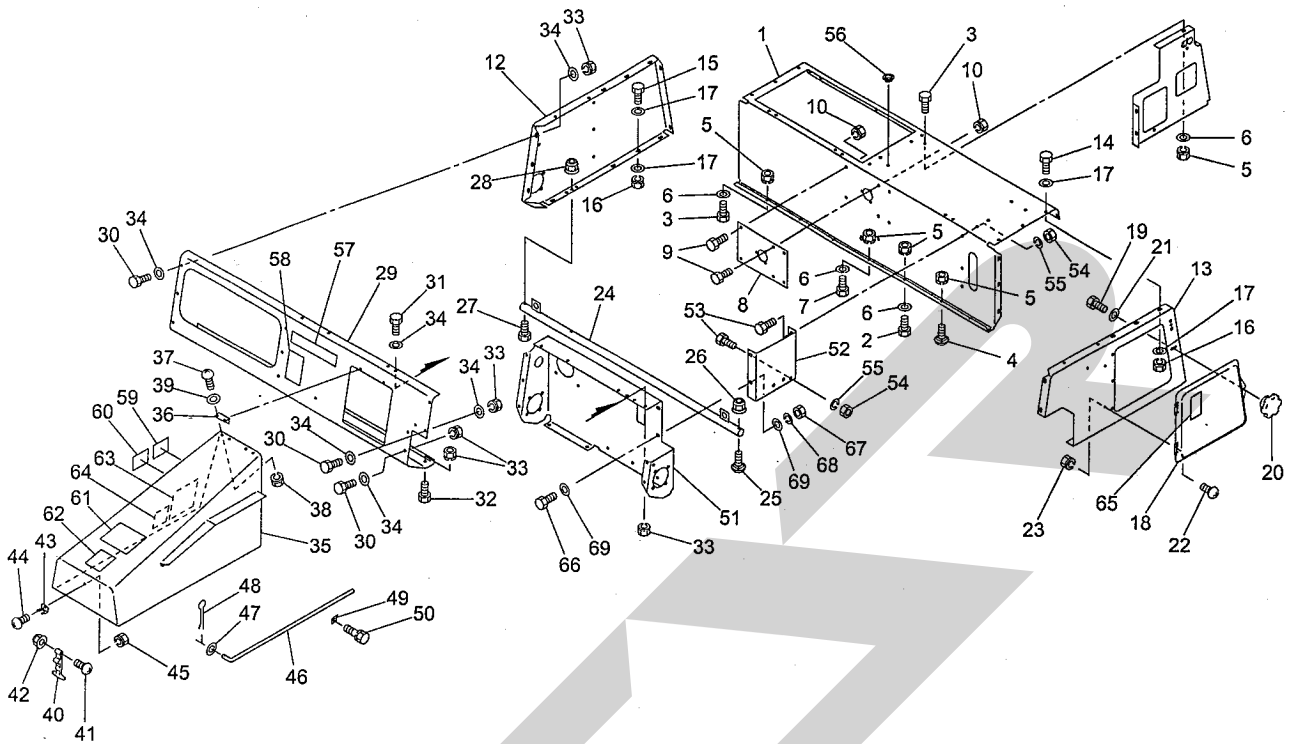
JTB1000 自走ヘーベラ
フィードハウジング



13418
065-0019-1009

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
27	BSZ10050	コガタボルト 7 M10×50	1	
28	NNF10	フランジナイロンナット M10	1	
29	1279310003	フロントプレート	1	
30	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	16	
31	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	2	
32	055474000M	カクネボルト 8.8 M8×20	1	
33	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	19	
34	044097200M	ワッシャ; 8	15	
35	1279320003	クランクカバーCP	1	
36	067139100M	チョウバン	2	
37	CP06016	+ナベコネジ M6×16	6	
38	NP06	スプリングナット M6	6	
39	WRA06	ヒラザガネ M6	4	
40	0671381000	ハンドルラバー	1	
41	CP06045	+ナベコネジ M6×45	1	
42	NNF06	フランジナイロンナット M6	1	
43	067136100M	ブラケット	1	
44	CP08020	+ナベコネジ M8×20	1	
45	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	1	
46	072343100M	ステー	1	
47	WRA08	ヒラザガネ M8	1	
48	PC025016	ワリピン 2.5×16	1	
49	044086201M	ステーホルダー メッキ	1	
50	BSPZ08020	コガタSWツキボルト 7 M8×20	1	
51	1279340003	ブラケット	1	

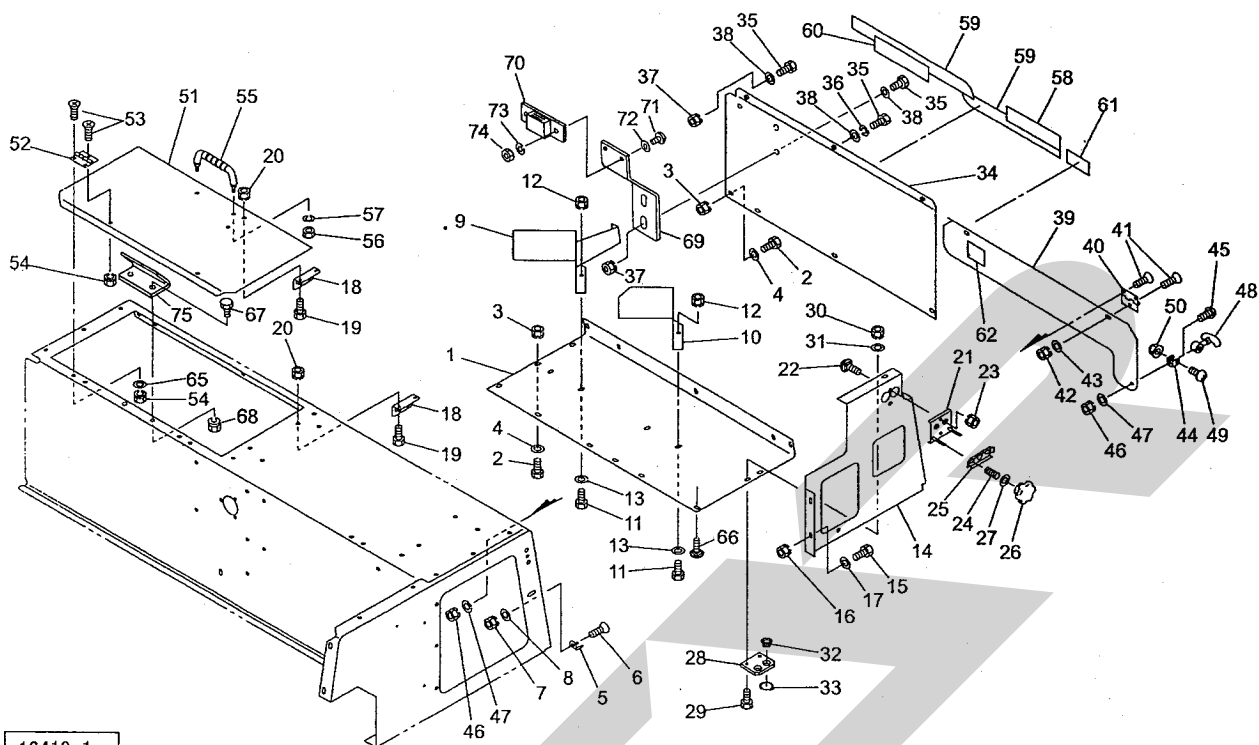
JTB1000 自走ヘーベラ
フィードハウジング



13418
065-0019-1009

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
52	1279350003	ブラケット; L	1	
53	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	3	
54	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	3	
55	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	3	
56	KMS011	アナヨウキャップ 11	1	
57	1232800000	STARマークラベル; 40	1	
58	1061650000	ラベル; ケイコク2	1	
59	1061680000	ラベル; ケイコク5	1	
60	1061670000	ラベル; ケイコク4	1	
61	1061640000	ラベル; ケイコク1	1	
62	1061660000	ラベル; ケイコク3	1	
63	1021820000	ラベル; タイミング	1	
64	1021790000	ラベル; チョウセイ	1	
65	1061710000	ラベル; ケイコク8	1	
66	BZ12045	ボルト 8.8 M12×45	2	
67	NZ12	ナット 8 2シュ M12	2	
68	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	2	
69	WRA12	ヒラザガネ M12	4	

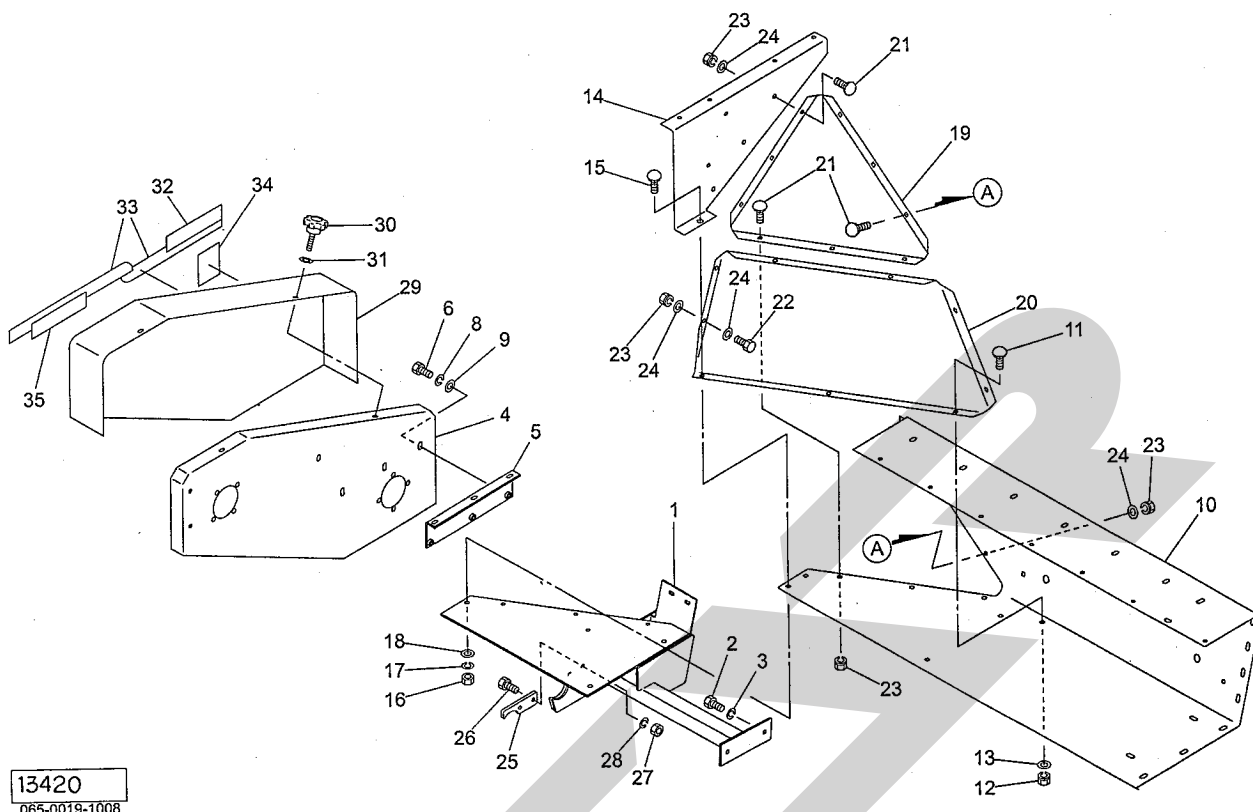
JTB1000 自走ヘーベーラ
トワインボックス



13419-1
065-0019-1007

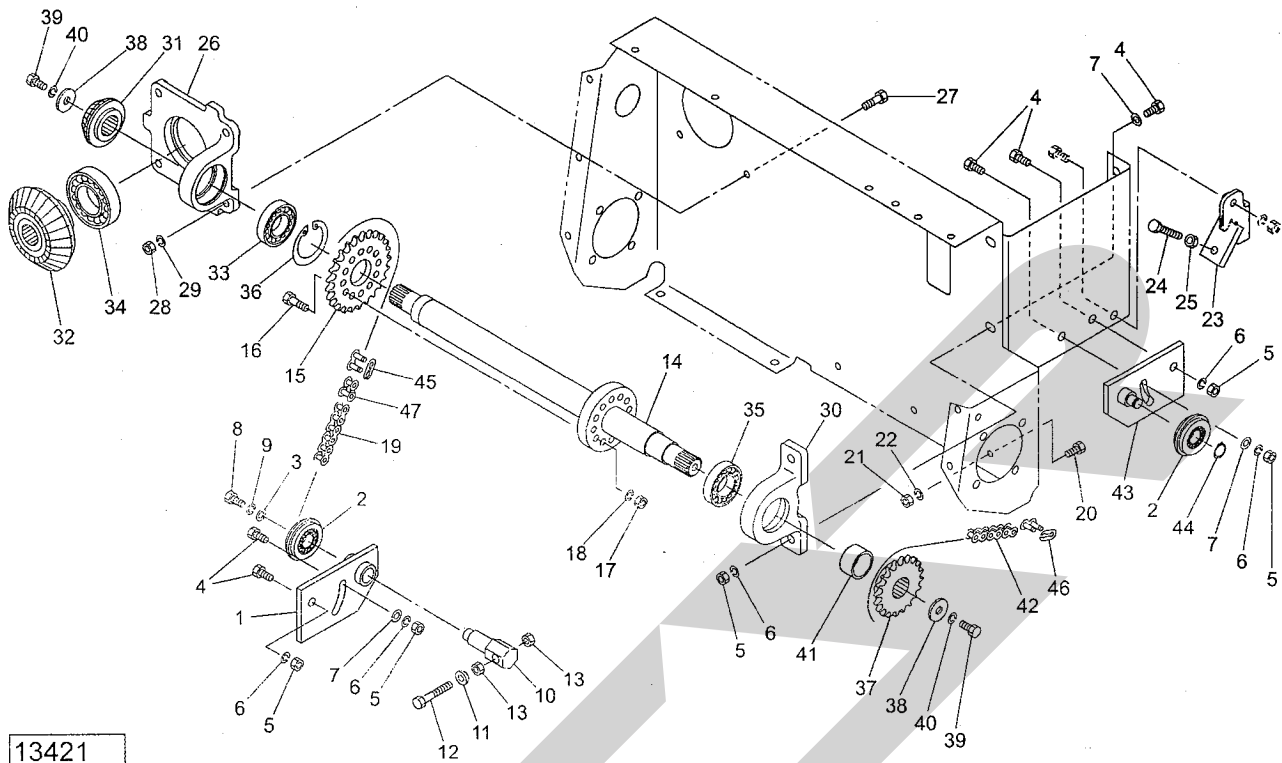
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717814003	ボトムカバー	1	
2	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	7	
3	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	8	
4	044097200M	ワッシャ; 8	15	
5	043000400M	カバーロック (1) メッキ	1	
6	CP08020	+ナベコネジ M8×20	1	
7	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	1	
8	044097200M	ワッシャ; 8	1	
9	072386100M	ブラケットCP	1	
10	071782200M	ブラケット	1	
11	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	4	
12	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	4	
13	044097200M	ワッシャ; 8	4	
14	1020470003	トワインプレート	1	
15	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	3	
16	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	3	
17	044097200M	ワッシャ; 8	6	
18	067115100M	ガイドプレート	2	
19	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	4	
20	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	4	
21	067116000M	トワインテンションCP	1	
22	059483000M	カクネボルト 8.8 M8×25	2	
23	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	2	
24	067118000M	スプリング; A メッキ	2	
25	067119000M	テンションプレート	1	

JTB1000 自走ヘーベラ
サポートフレーム



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1278031003	サポートフレームCP	1	
2	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	
3	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
4	1278101003	ボックスCP	1	
5	127937000M	ブラケットCP	1	
6	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	3	
8	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	3	
9	075290100M	ワッシャ; 10	3	
10	0718464003	ボトムハウジング	1	
11	055474000M	カクネボルト 8.8 M8×20	4	
12	NP08	スプリングナット M8	4	
13	044097200M	ワッシャ; 8	4	
14	1278170003	サイドウォール	1	
15	043067900M	カクネボルト 8.8 M10×30	1	
16	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	1	
17	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	
18	044098500M	ワッシャ; 10	1	
19	0668300003	コーナプレート; 1	1	
20	0718480003	コーナプレート; 2	1	
21	055474000M	カクネボルト 8.8 M8×20	9	
22	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	3	
23	NP08	スプリングナット M8	12	
24	044097200M	ワッシャ; 8	11	
25	066833000M	プレート	1	
26	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	

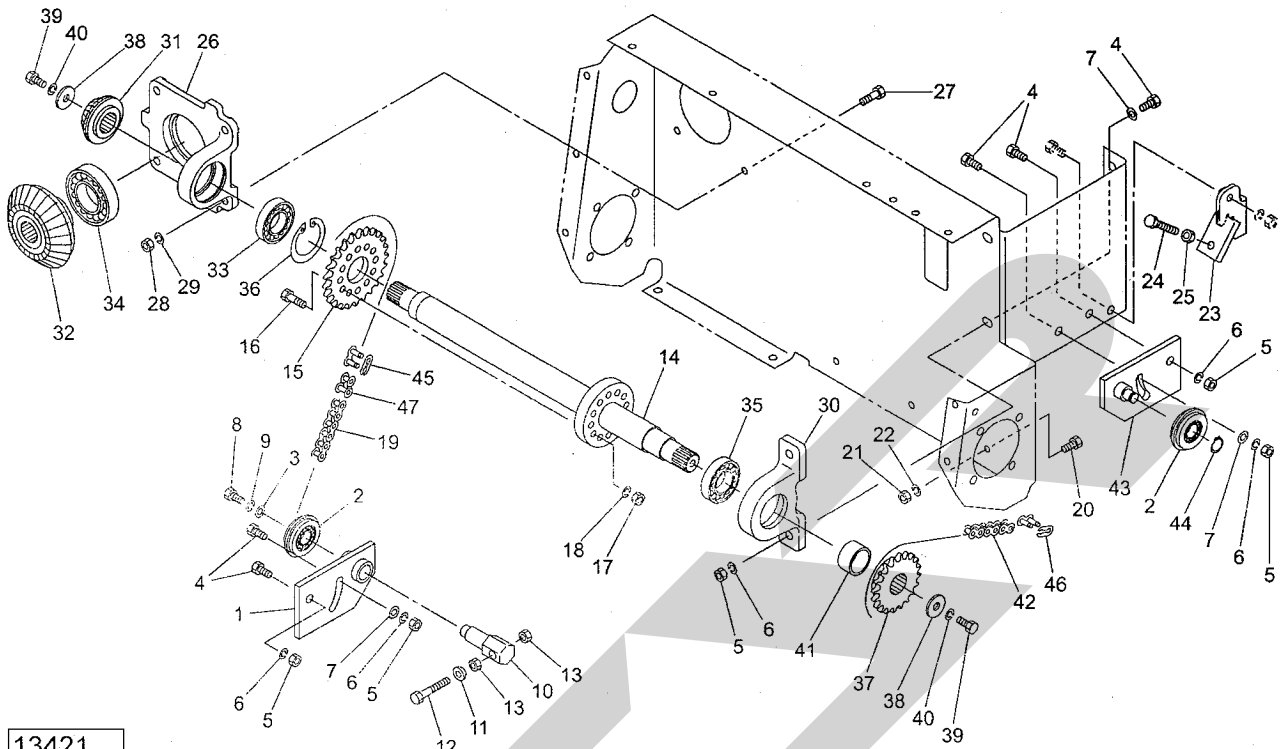
JTB1000 自走ヘーベラ
フォークドライブ



13421
065-0019-1011

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717352003	テンションアームCP	1	
2	081267000M	テンションローラCP	2	
3	044097200M	ワッシャ; 8	1	
4	BZ12035	ボルト 8. 8 M12×35	6	
5	NZ12	ナット 8 2シュ M12	6	
6	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	6	
7	042783600M	ワッシャ; 12	4	
8	BSZ08016	コガタボルト 7 M8×16	1	
9	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	1	
10	0717362003	ピン	1	
11	025266000M	キュウメンザガネ	1	
12	BAI12150	ボルト 4. 6 ゼン M12×150	1	
13	NZ12	ナット 8 2シュ M12	2	
14	0786435003	カウンタジクCP	1	
15	0717381003	スプロケット	1	
16	BSZ10040	コガタボルト 7 M10×40	2	
17	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
18	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
19	LA60113	ローラチェーン 60×113L	1	
20	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	3	
21	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	3	
22	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	3	
23	093634100M	ブラケットCP	1	
24	BXI12060	ボルト 10. 9 ゼン M12×60	1	
25	NZ12	ナット 8 2シュ M12	1	

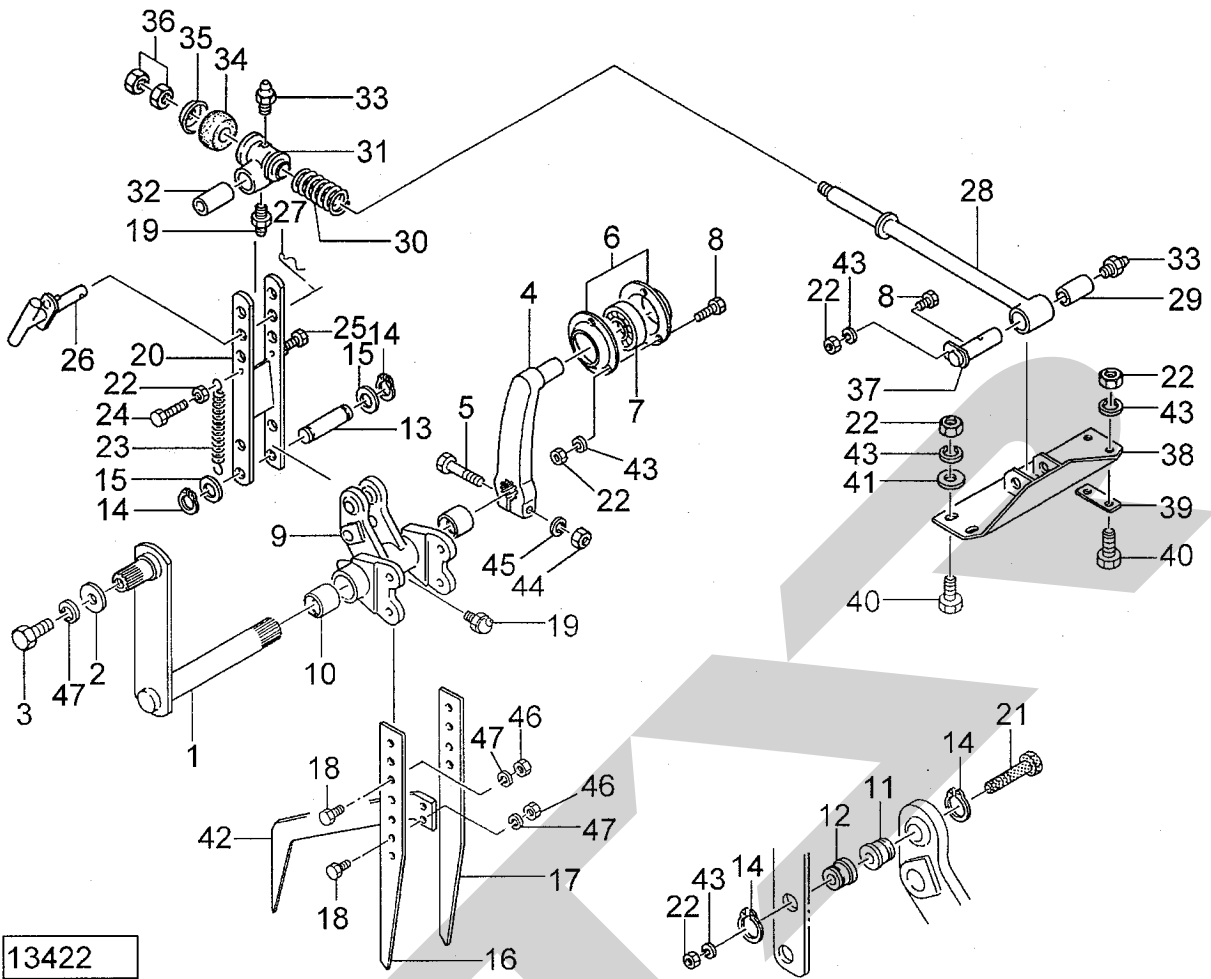
JTB1000 自走ヘーベラ
フォークドライブ



13421
065-0019-1011

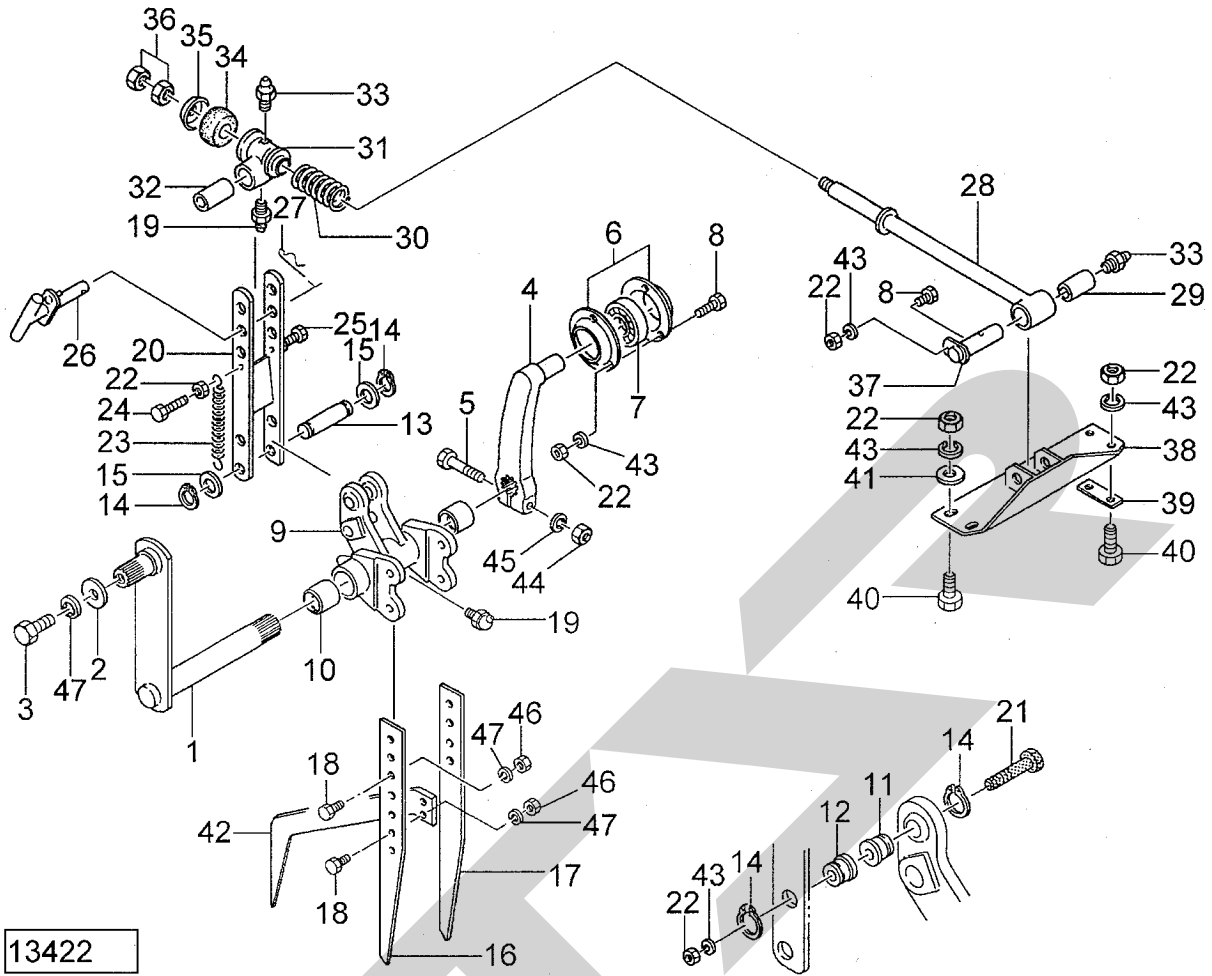
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	0717201003	ハウジング	1	
27	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	4	
28	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	4	
29	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
30	0717210003	ジクウケ	1	
31	0784720002	ベベルピニオン; 18T	1	
32	0784730002	ベベルギヤ	1	
33	J6206LLU	ボールベアリング 6206LLU	1	
34	J6209LLU	ボールベアリング 6209LLU	1	
35	J6207LLU	ボールベアリング 6207LLU	1	
36	DHC062	Cガタトメワ アナ 62	1	
37	0717390003	スプロケット Bガタ	1	
38	067931100M	ワッシャ; 12	2	
39	BZ12025	ボルト 8.8 M12×25	2	
40	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	2	
41	0717400003	カラー	1	
42	LA50092	ローラチェーン 50×92L	1	
43	0717412003	テンションアームCP	1	
44	DC017	Cガタトメワ ジク 17	1	
45	AB060	ツギテ 60	1	
46	AA050	ツギテ 50	1	
47	AD060	オフセットリンク 60	1	

JTB1000 自走ヘーペーラ
フォーク



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717683004	クランクCP	1	
2	067931100M	ワッシャ; 12	1	
3	BZ12030	ボルト 8.8 M12×30	1	
4	0717293004	アーム	1	
5	BSZ10060	コガタボルト 7 M10×60	1	
6	JPF204G	バイフランジ マル PF204	2	
7	JAS204	ユニットヨウベアリング AS204	1	
8	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	4	
9	0721501004	リテーナ	1	①10, 19付
10	0717700000	ブッシュ	2	
11	0671951002	シャープブッシュ; 25×19	1	
12	0672031002	シャープブッシュ; 25×16	1	
13	0671982002	ピン	1	
14	DC020	Cガタトメワ ジク 20	4	
15	057788100M	シム	2	
16	0727212004	フォーク; 4	1	
17	0672291004	フォーク; 3	1	
18	BZ12035	ボルト 8.8 M12×35	6	
19	ONBS1	グリースニップル B PT1/8	2	
20	0721481004	フォークアームCP	1	
21	0629691000	シャープボルト; M8×45	4	3個予備品
22	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	14	3個予備品
23	044646301M	ホールドスプリング; II メッキ	2	
24	BSZ08040	コガタボルト 7 M8×40	1	
25	BSZ08030	コガタボルト 7 M8×30	1	

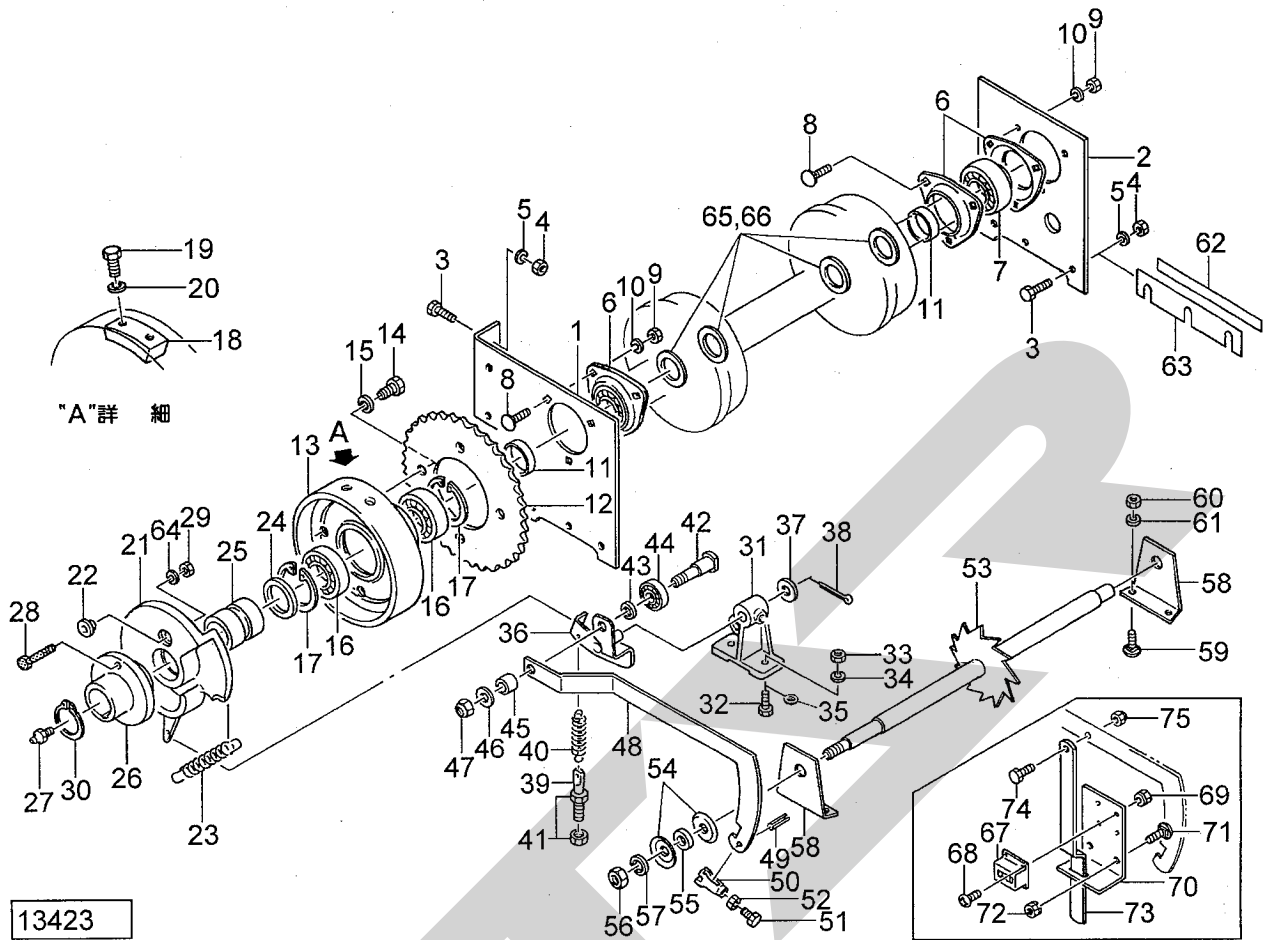
JTB1000 自走ヘーベラ
フォーク



13422

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	067204100M	ピンCP	1	
27	032910200M	ベータピン; 19×5	1	
28	0672081004	フォークロッドCP	1	㊦29付
29	0672124000	ブッシュ	1	
30	044070100M	インナーコイル; H	1	
31	0672131004	コネクタ	1	㊦32, 33付
32	0672143000	ブッシュ	1	
33	ONAS1	グリースニップル A PT1/8	2	
34	0431562010	クッションカラー	1	
35	067215100M	キャップ	1	
36	NZ16	ナット 8 2シュ M16	2	
37	067216100M	ピンCP	1	
38	0717721003	ブラケットCP	1	
39	067223200M	プレート	1	
40	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	4	
41	044097200M	ワッシャ; 8	2	
42	0727221004	フォーク; 5	1	
43	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	12	3個予備品
44	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	1	
45	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	
46	NZ12	ナット 8 2シュ M12	6	
47	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	7	

JTB1000 自走ヘーベラ
ノッタドライブ

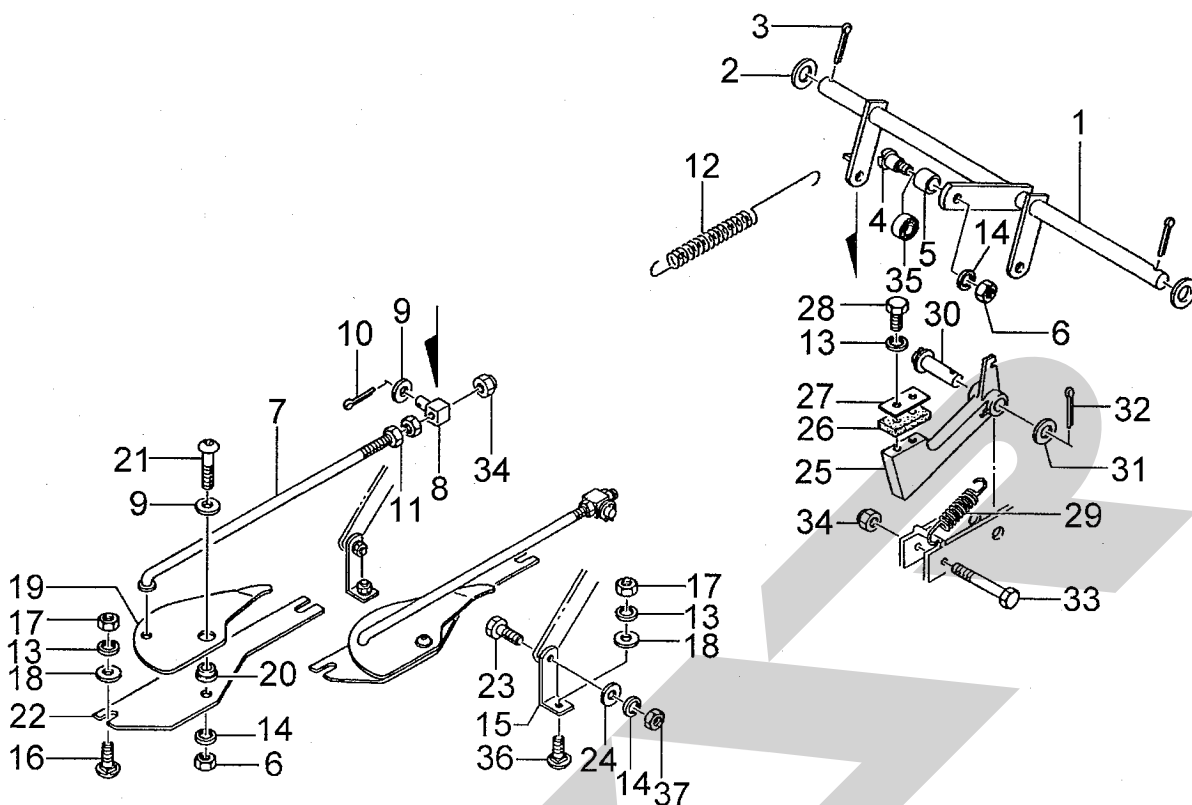


見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717480003	ブラケット	1	
2	0723381003	プレート	1	
3	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	8	
4	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	8	
5	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	8	
6	JPF206G	バイフランジ マル PF206	4	
7	JAS206	ユニットヨウベアリング AS206	2	
8	000451000M	カクネボルト 8.8 M10×25	6	
9	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	6	
10	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	6	
11	066650100M	カラー	2	
12	0717491003	スプロケット; 36T	1	
13	0717241003	ノッタドライブハブ	1	
14	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	4	
15	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
16	J6206LLU	ボールベアリング 6026LLU	2	
17	DHC062	Cガタトメワ アナ 62	2	
18	0431366010	パット	1	
19	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	2	
20	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
21	0717252003	トリップカムCP	1	
22	0668701000	シャープッシュ; 25×11	1	
23	043345400M	カムレバースプリング メッキ	1	
24	066871100M	カラー	1	
25	0668720000	カラー	1	

JTB1000 自走ヘーペーラ
ノッタドライブ

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	0717502003	シャーボルトホルダー	1	
27	ONAS1	グリースニップル A PT1/8	1	
28	0446912000	シャーボルト	4	3個予備
29	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	4	3個予備
30	DC030	Cガタトメワ ジク 30	1	
31	0668743003	トリップアームホルダー	1	
32	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	2	
33	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
34	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
35	044098500M	ワッシャ; 10	2	
36	0717511003	トリップアームCP	1	
37	WRA16	ヒラザガネ M16	1	
38	PC032032	ワリピン 3. 2×32	1	
39	043341501M	スプリングステー	1	
40	043343101M	スプリング; H メッキ	1	
41	NA12	ナット 4 2シュ M12	2	
42	0668783000	ボルト	1	
43	0668792003	カラー	1	
44	J6201LLU	ボールベアリング 6201LLU	1	
45	0433602013	カムローラピンカラー	1	
46	WRA10	ヒラザガネ M10	1	
47	NNF10	フランジナイロンナット M10	1	
48	0717532003	ホイールアームCP	1	
49	PS080020	スプリングピン 8×20	1	
50	066892100M	アジャスティングストッパ	1	
51	BZI08030	ボルト 8. 8 ゼン M8×30	1	
52	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	1	
53	071754100M	メジャーホイールCP	1	
54	066887100M	ワッシャ	2	
55	043339401M	フリクションローラ	1	
56	NZ12	ナット 8 2シュ M12	1	
57	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	1	
58	071755200M	ブラケットCP	2	
59	000451000M	カクネボルト 8. 8 M10×25	4	
60	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	4	
61	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
62	0668930000	シム	2	
63	0862590000	シム	4	
64	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	4	3個予備
65	0668600000	シム	—	
66	0668610000	シム	—	
ASY	0909150000	カウンター (組)	1	④67~75 オプション
67	0668910000	カウンタ	1	オプション
68	CP04016	+ナベコネジ M4×16	4	"
69	NP04	スプリングナット M4	4	"
70	072132000M	ブラケット	1	"
71	055474000M	カクネボルト 8. 8 M8×20	2	"
72	NP08	スプリングナット M8	2	"
73	072133100M	ステー	1	"
74	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	1	"
75	NNF08	フランジナイロンナット M8	1	"

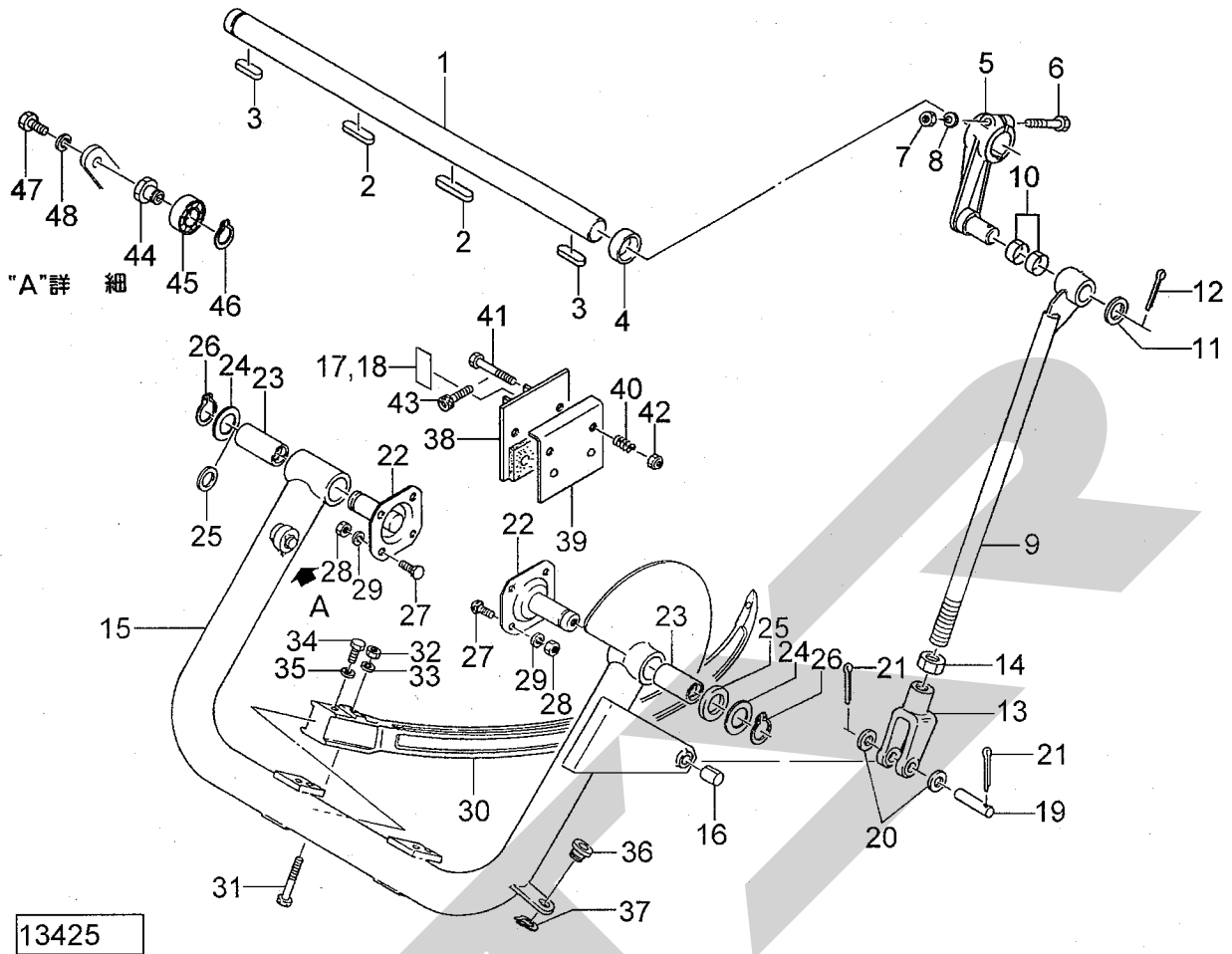
JTB1000 自走ヘーベラー
フィンガー



13424

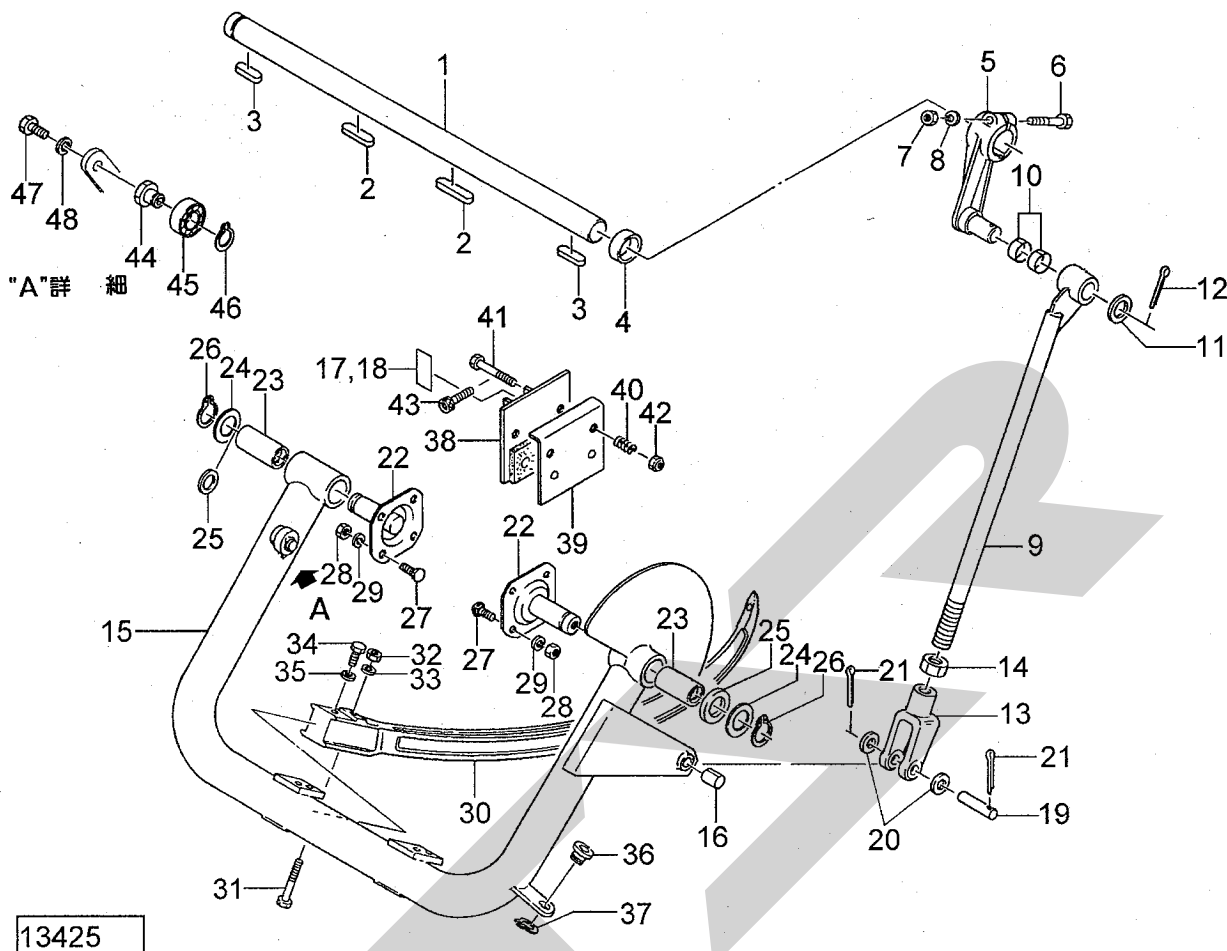
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	066976500M	フィンガーシャフトCP	1	
2	057788100M	シム	—	
3	PC050036	ワリピン 5×36	2	
4	070958000M	ボルト メッキ	1	
5	070959000M	カラー	1	
6	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	3	
7	066983300M	ロットCP	2	
8	066985100M	ブロック	2	
9	WRA10	ヒラザガネ M10	4	
10	PC032016	ワリピン 3.2×16	2	
11	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	4	
12	066986000M	スプリング;H メッキ	1	
13	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	8	
14	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	5	
15	066987200M	ブラケット	2	
16	055474000M	カクネボルト 8.8 M8×20	4	
17	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	6	
18	044097200M	ワッシャ; 8	6	
19	066988100M	トワインフィンガー	2	
20	066989100M	カラー	2	
21	073624200M	ロックアナツキボタンボルト ダクロ	2	
22	066990200M	ブラケット	2	
23	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	2	
24	044098500M	ワッシャ; 10	2	
25	066991100M	トップドック	1	

JTB1000 自走ヘーベラ
ニードルドライブ



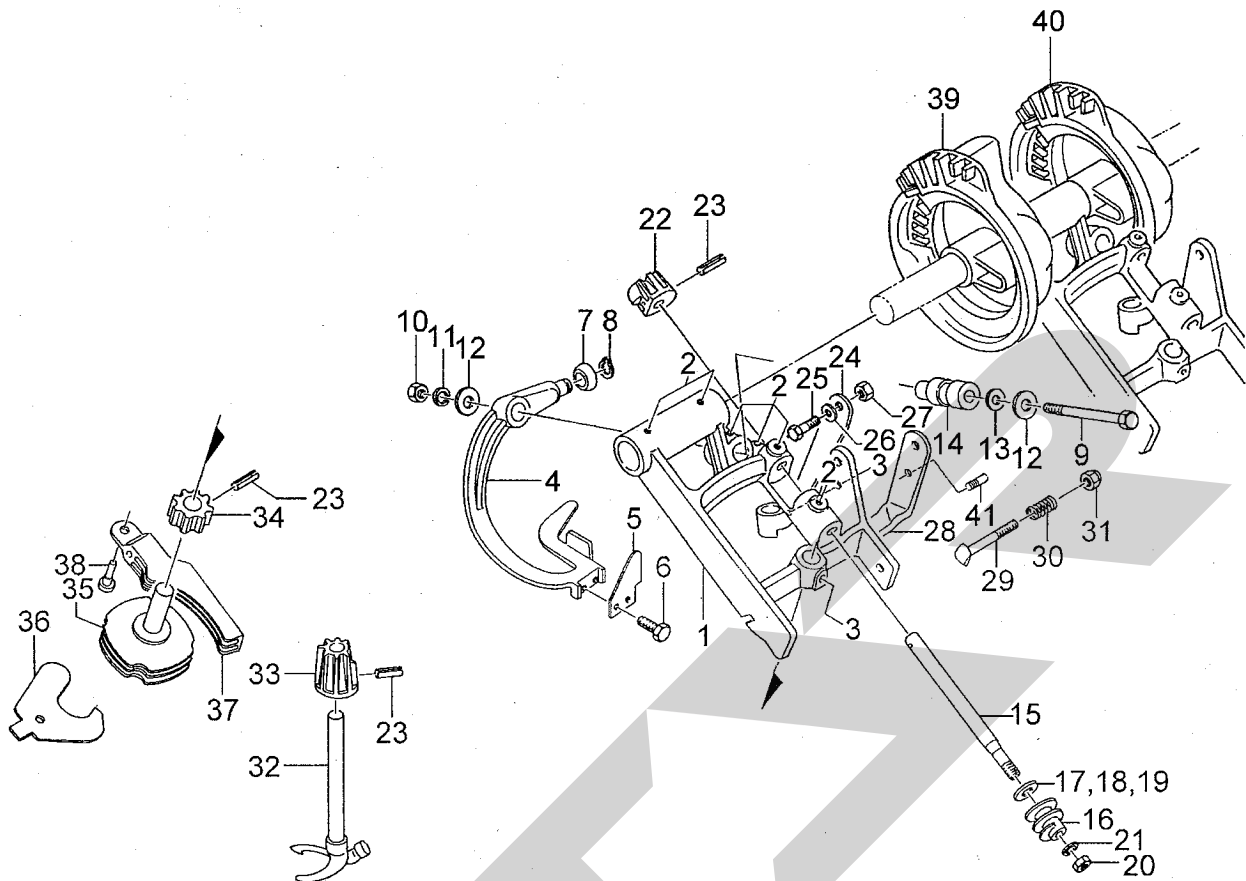
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717420002	シャフト	1	
2	0666490000	キー	2	
3	KFC10080350	ヘイコウキー リョウマル 10×8×35	2	
4	066650100M	カラー	1	
5	0717222003	ドライブクランク	1	
6	BZ12060	ボルト 8.8 M12×60	1	
7	NZ12	ナット 8.2シュ M12	1	
8	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	1	
9	088300100M	ロッドCP	1	①10付
10	70B-2515	ドライメットブッシュ 25×28×15	2	
11	060807100M	ワッシャ	1	
12	PC050036	ワリピン 5×36	1	
13	066657100M	フォークエンド; 20	1	
14	NA20	ナット 4.2シュ M20	1	
15	0717432004	ニードルヨークCP	1	①16, 23付
16	70B-1620	ドライメットブッシュ 16×18×20	1	
17	0721970000	シム	—	
18	0721980000	シム	—	
19	066667200M	ピン	1	
20	WRA16	ヒラザガネ M16	2	
21	PC032032	ワリピン 3.2×32	2	
22	0666680003	ブラケットCP	2	
23	0666910000	ブッシュ	2	
24	060807100M	ワッシャ	2	
25	044214301M	ワッシャ 25.5×1.0	2	

JTB1000 自走ヘーベラ
ニードルドライブ



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
26	DC025	Cガタトメワ ジク 25	2	
27	000450000M	カクネボルト 8.8 M10×20	8	
28	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	8	
29	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	8	
30	0666901004	ニードル	2	
31	BSZ10080	コガタボルト 7 M10×80	2	
32	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
33	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
34	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	4	
35	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	4	
36	066672500M	ガイド	1	
37	DC020	Cガタトメワ ジク 20	1	
38	0666733000	ブレーキシュー; 1CP	1	
39	0666772000	ブレーキシュー; 2CP	1	
40	066679000M	スプリング メッキ	2	
41	BSZ10070	コガタボルト 7 M10×70	2	
42	NNF10	フランジナイロンナット M10	2	
43	BH08015	キャップB 10.9 M8×15	1	
44	071822000M	アダプタ	1	
45	J6203LLU	ボールベアリング 6203LLU	1	
46	DC017	Cガタトメワ ジク 17	1	
47	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	1	
48	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	1	

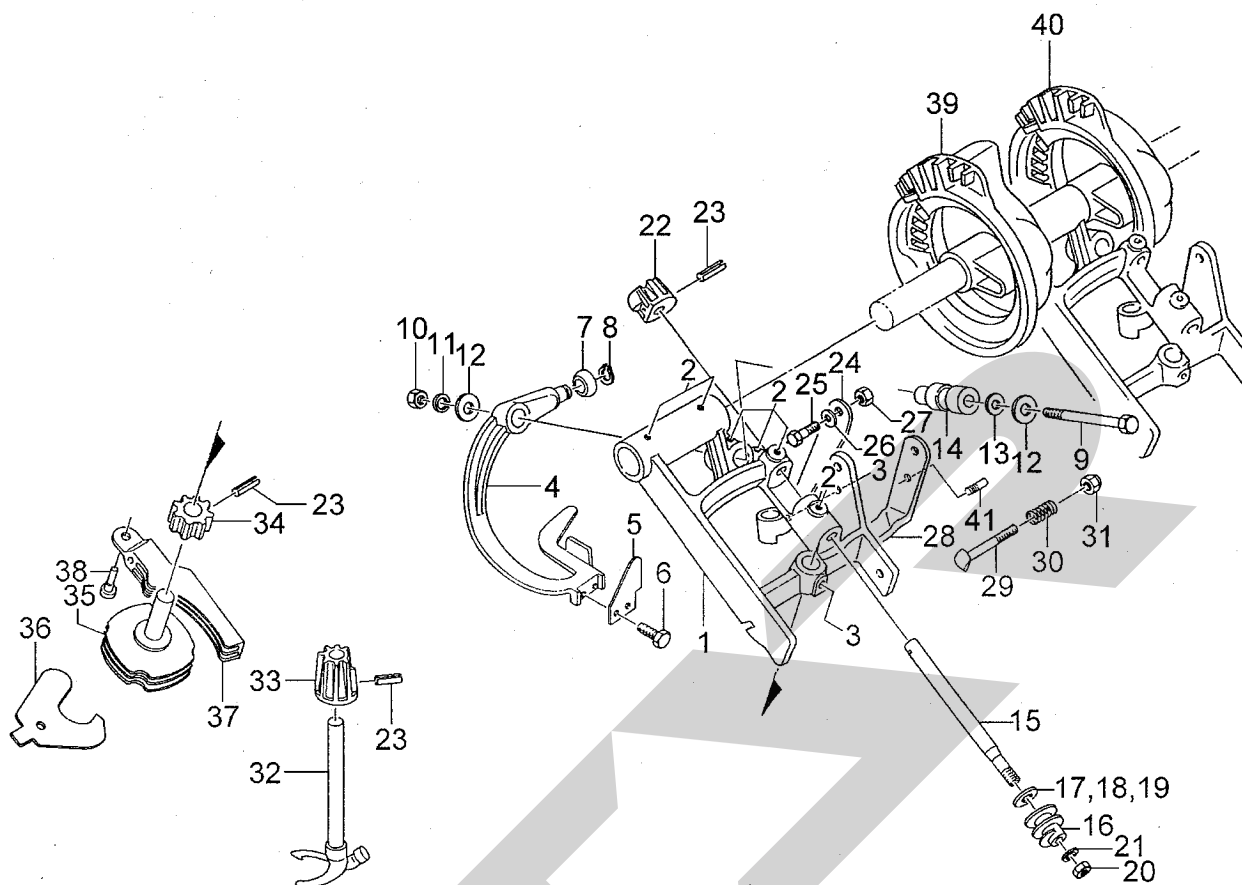
JTB1000 自走ヘーベラ
ノッタ



13426

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
ASY	0553298AS0	ノッタASY	2	①1~38付
1	055329900M	ノッタフレーム	2	
2	EWK869932	SFツギテ 1/8	14	
3	EWK869935	LFツギテ 1/8	4	
ASY	0553446AS0	ナイフアーム クミ	2	①4~14付
4	0553446003	ナイフアーム	2	
5	0553463003	トワインナイフ	2	
6	BA040712G	ボルト; M4×0.7×12	4	
7	055345400M	ナイフアームローラ	2	
8	DC014	Cガタトメワ ジク 14	2	
9	BSZ08080	コガタボルト 7 M8×80	2	
10	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	2	
11	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
12	044098500M	ワッシャ; 10	4	
13	0577451000	シム	—	
14	0553471006	ピボットピン	2	
ASY	0553385AS0	シャフト (ウォームギヤ; クミ)	2	①15~21付
15	055338500M	シャフト (ウォーム)	2	
16	055337400M	ウォームギヤ	2	
17	0553392000	シム	—	
18	0577421000	シム	—	
19	0577431000	シム	—	
20	NZ10125	ナット M10×1.25	2	
21	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
22	055340400M	ベベルピニオン (ディスク)	2	

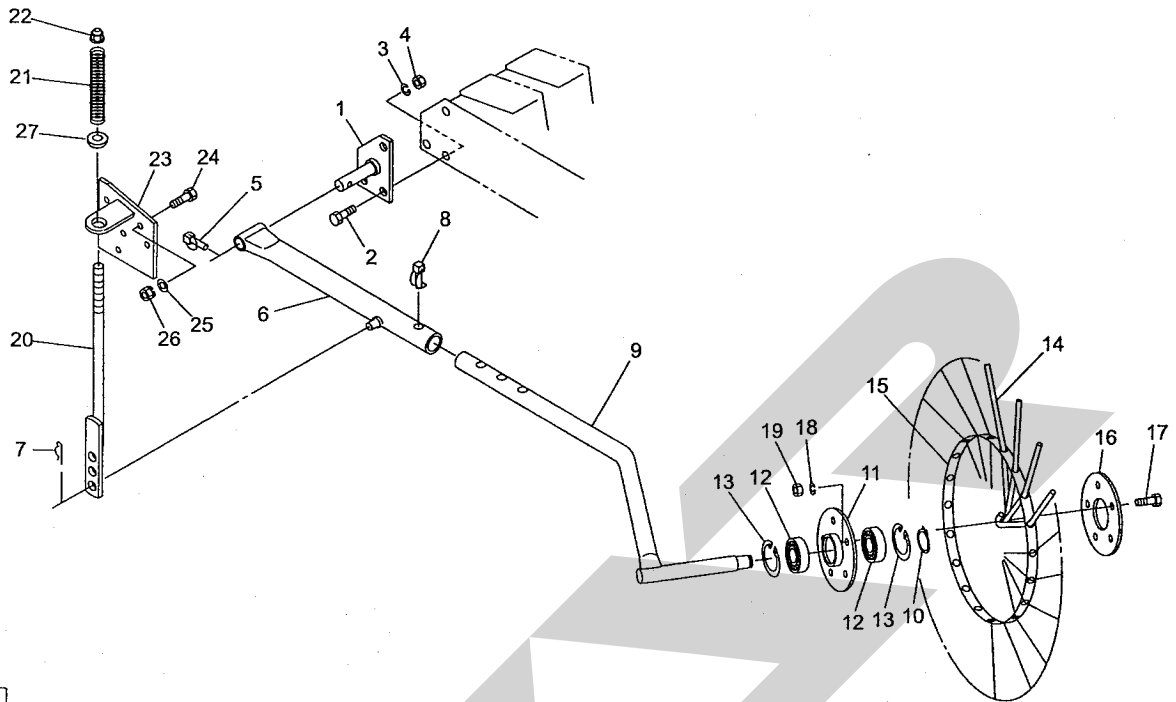
JTB1000 自走ヘーベラ
ノッタ



13426

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
23	PS05022	スプリングピン 5×2.2	6	
24	0553503006	ノッタテンションスプリング	2	
25	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	2	
26	WRA10	ヒラザガネ M10	2	
27	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
28	055348100M	ビルカム	2	
29	055351200M	ビルカムボルト メッキ	2	
30	055349300M	ビルカムスプリング;H	2	
31	NNF08	フランジナイロンナット M8	2	
32	0615114000	ノッタビルCP	2	
33	055336600M	ベベルピニオン (ビル)	2	
34	055342500M	トワインディスクピニオン	2	
35	064451100M	トワインディスクCP	2	
36	064456100M	ディスククリーナ	4	
37	064447000M	ホルダCP	2	
38	055332100M	ホルダピン	2	
39	0553273003	バックギヤ (カムツキ)	1	
40	0553283003	バックギヤ (カムナシ)	1	
41	055330100M	ビルカムピン	2	

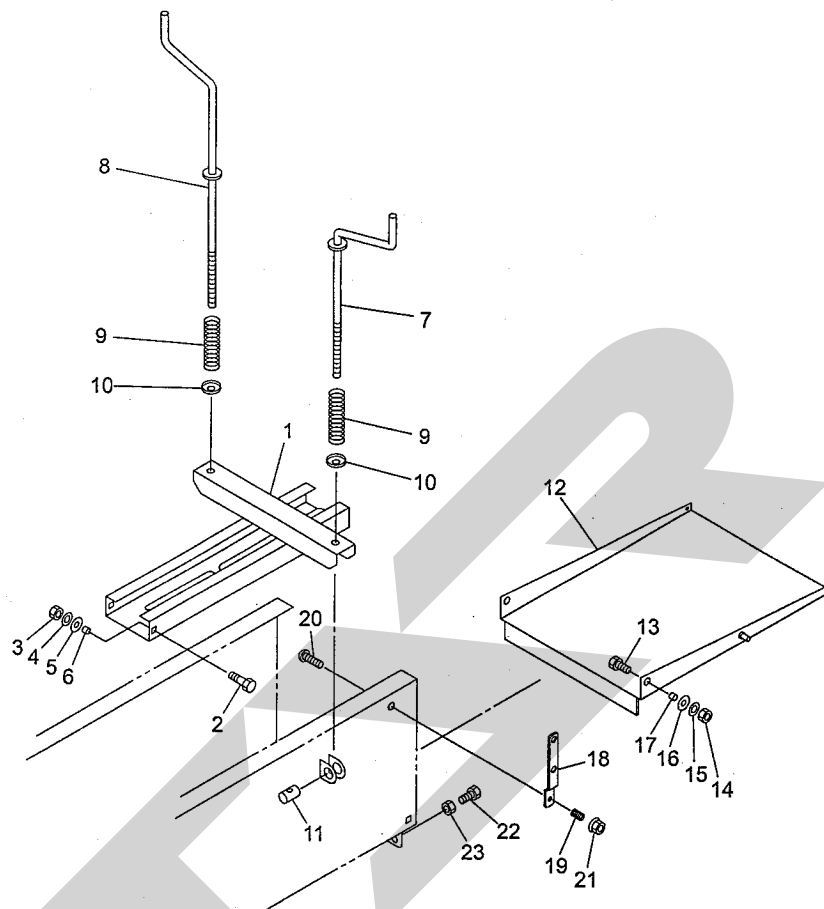
JTB1000 自走ヘーベラ
サイドリール



13427-1
065-0019-1004

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0720800004	ブラケットCP	1	
2	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	3	
3	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	3	
4	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	3	
5	000739000M	リンチピン; 9	1	
6	0720813004	ステーCP	1	
7	000087200M	ベータピン; 16×2. 3	1	
8	000453000M	デルタピン; 9	1	
9	0720821004	リールステーCP	1	
10	DC025	Cガタトメワ ジク 25	1	
11	0720831004	ホイールCP	1	
12	J6205LLU	ボールベアリング 6205LLU	2	
13	DHC052	Cガタトメワ アナ 52	2	
14	0720841000	タイヤ	20	
15	072085200M	リングCP	1	
16	0720861004	プレート	1	
17	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	5	
18	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	5	
19	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	5	
20	127698000M	ロッドCP	1	
21	072088000M	スプリング; A	1	
22	NNF12	フランジナイロンナット M12	1	
23	1318780004	ブラケットCP	1	
24	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	2	
25	WRA08	ヒラザガネ M8	2	
26	NSP08	コガタスプリングナット 4 M8	2	
27	025266000M	キュウメンザガネ	1	

JTB1000 自走ヘーベラ
プレスバー・テールゲート



13428
065-0019-1003

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	0717560003	ベールプレスCP	1	
2	043067900M	カクネボルト 8.8 M10×30	2	
3	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
4	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
5	044098500M	ワッシャ; 10	2	
6	065257000M	カラー	2	
7	070791100M	プレスハンドルCP	1	
8	103123000M	プレスハンドルCP; ロング	1	
9	0707921000	バネ; A	2	
10	071246000M	プレート	2	
11	070793000M	ピン	2	
12	1277970000	テールゲートCP	1	
13	043067900M	カクネボルト 8.8 M10×30	2	
14	NSZ10	コガタナット 8 2シュ M10	2	
15	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
16	044098500M	ワッシャ; 10	2	
17	065257000M	カラー	2	
18	066923100M	プレート	1	
19	040883300M	スプリング メッキ	1	
20	CP08045	+ナベコネジ M8×45	1	
21	NNF08	フランジナイロンナット M8	1	
22	BXI12060	ボルト 10.9 ゼン M12×60	2	
23	NZ12	ナット 8 2シュ M12	2	

SFAA

START

本社 066-8555 千歳市上長都1061番地2
 TEL 0123-26-1123
 FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都1061番地2
 TEL 0123-22-5131
 FAX 0123-26-2035

旭川営業所 070-8004 旭川市神楽4条9丁目3番35号
 TEL 0166-61-6131
 FAX 0166-62-8985

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地
 TEL 0162-82-1932
 FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西22条北1丁目12番地
 TEL 0155-37-3080
 FAX 0155-37-5187

北見営業所 090-0001 北見市小泉302
 TEL 0157-24-3880
 FAX 0157-61-1344

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町2丁目16番2
 TEL 01537-2-2624
 FAX 01537-3-2540

花巻営業所 025-0312 岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1
 TEL 0198-26-5741
 FAX 0198-26-5746

仙台営業所 985-0845 宮城県多賀城市町前2丁目4番27号
 TEL 022-367-4573
 FAX 022-367-4846

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁2512-1
 TEL 0285-49-1500
 FAX 0285-49-1560

名古屋営業所 480-0102 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191
 TEL 0587-93-6888
 FAX 0587-93-5416

松本出張所 399-0033 長野県松本市大字笹賀5824-5
 TEL 0263-26-5731
 FAX 0263-26-5761

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市下中野704-103
 TEL 086-243-1147
 FAX 086-243-1269

熊本営業所 862-0939 熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号
 TEL 096-381-7222
 FAX 096-384-3525

都城営業所 885-0004 宮崎県都城市都北町3537-1
 TEL 0986-38-1045
 FAX 0986-38-4644